

つ

つい【副詞】時間や距離の短いさま すぐ じきに
下に続く語の意を強めたり瞬間性を強めるのに用い
る [会話] ツイ さっき 言うなあ。ツイ さっ
き 来たばっかやのん (ばかりなのに) 言うて。ツ
イ 今し (今) いた (行った) ばかや (ばかりだ)
とか、来たばかや とか言うて、そいな (そんな)
時 ツイを使うなあ。

つい【名詞】汁 味噌汁 いとゆの訛 (上、阿) [会
話] 今日は ツイな (が) 多いやんかあ (でない
か) てやら (とか)、ツイな 美味しいとか 言う
てなおつけ (味噌汁) や (だ) 言うて、汁や (だ)
言うてな。汁もってくれ (よそって下さい) 言よお
った (言っていました)。

つい【名詞】露 (上、阿)

つい (対) 【名詞】 1) 一組の物として対応すること
二つの物が同じである事 2) 一揃いの物 [会話]
1) 二つに なっとる (なっている) もん (物) を、
ツイやなあ (だ) 言うてな。イツツイで こおて
(買って) きたれ (来ました) 言うて。ツイで 買
わな (なければ) はざんわれ (いけない) 言う時も
有るもんなあ (有ります)。

ついえ (つひえ) (費) 【名詞】 1) 費用、或る事柄
(事業・商品製造・結婚式・葬儀等) を行うのに必
要とされる人件費、材料費等、種々のものに支払わ
れた代価を言う。これにより、入ってくる代価を入
と呼び いりとついえとの間に、ついえの方が多い
時はあきが出来ると言う (志 (甲賀)) 2) 無駄な
事 ヒマ ツイエ [会話] 1) いりよお (費用)
の事は ツイエ。金 (金銭) も まあ よけ (沢
山) ツイエテまあ 言う。そいな (そんな) 無駄な
ツイエ せんでええわれ (しなくてよろしい) 言う
てなあ。まあ ものすごお (大変) この月は ツイ
エタレ (消えてしまった) 言うな (のは) 言いおっ
たなあ (言っていました)。2) ヒマツイエる (時間
がたってしまう) とかなあ。暇な (が) ツイエ、
暇つぶし 言うの (のを) 言うたり ツイエてなあ
言うて、時間取る事を。入り用だけやなしん (でな
く) 時間でも言うのなあ。ヒマツイエたなあ言うて、
ヒマツエ (暇づいえ・時間を使わせて) さして (さ
せて) 言うのなあ、ヒマツエ や (と) 言うね (言
うのです)。よけ (あまり) ヒマツエ させんなま

あ (させるな) 言うて、子供らな (達が) 甘えてす
ると。

つひえる (つひえる) (費) 【自ア下一】無くなる 乏
しくなる [会話] 暇を ツイエル言うてな、時間
をたたしたる (経ててしまう) 事を ひまつひえ
さしてなあ (させて) 言うて、ツイエル言うて 仕
事の (が) 終わってた (ていった) とか、そいな
(そんな) 時も 言うなあ (言います)。仕事な
(が) ツイエテナア言うて 切れた言う時ん (に)
も 言うしな、仕事ささんと (させずに) 気の毒や
なあ (だ) 言う時な (が) 有るやんかい (有ります
す)。

つひこなんだ 最近 つひこのまえ (志) [会話] ツ
イコナンダ言うて、ほん (本当に) 此の前とか 言
うて、近いうち (間) の事を。ひいて (一日) か
ふつか (二日) のあい (間) の事を 言うんやろな
あ (言うのでしょうか)、早い時んな (ののは) ずっ
と前の事やけど (だが) 言う時と、ほん (本当に)
コナイダなあ言う時と、つい言う時は、ほん (本当
に) 近い きのお (昨日) か、おとつい (一昨日)
か 時ん (の) のおを (のを) つひ言うんやろなあ。

つひしょ 【名詞】追従 お世辞。おべっか 末尾母音
の省略。(上、阿、張、北、南、熊)

つひしょいい 【名詞】お世辞者 追従言

つひぞ (つひぞ) (終) 【副詞】これまで一度も 未だ
かつて 下に打ち消しの言葉を伴う (志 (布施田)
伊) [会話] ツイゾ 見た事 無いとか言うなあ。
そいなもん (そんなもの) 見たこた (事は) 無いわ
れ (です) 言うな (言うのは) 言いおったなあ (言
いました)。

つひそこ 極く近い所。

つひたち (朔日) 【名詞】一日 各月の最初の日 [会
話] 九月の ツイタチで 締切りん (に) なる事
を、きりあげや (だ) 言うて。

つひたて (衝立) 【名詞】衝立障子 部屋の内や 縁
に立てて 内部や、隣の席との隔てをする家具 屏
風を言う (津) [会話] ツイタテ。きもん (着物)
掛けんの (るのを) あれ ツイタテや (だ) 言うや
んかい (言います)。ツイタテも かわな (買わな
ければ) はざんな (いけない) 壁い (に) 掛けん
(る) のより言うやんかい。屏風みたよな (のう

えなのを)、ツイタテや(だ)言うてな。

ついつい【副詞】うっかりと

ついつい【感動詞】漁師、海女の稱え言葉 ついやし
ようじょおの略(志、鳥)

ついでく 浸水する。

ついでく 従って行く。後を追って行く。ついでいく
の略。

ついとる 幸運に恵まれて居る。

ついとる 1) くっついて居る。2) 後に従って居る。
3) 浸水している。

ついひ(追肥)【名詞】作物の成育中に元肥の補助と
して施す肥料 おいごえ(多)【会話】ふりごえん
(に) すんのを(する) ツイヒ言うわい(言いま
す)。ツイヒ やらな(やらなければ) はざんなあ
(いけない)。

ついや。ついやしようじょお。ついやついや【感動
詞】大漁を願う祈り言葉、ついな迫難の詛りか(志
(布施田)、度、尾)【会話】ほい ツイヤ 言う
てなあ。磯おりのよお(海女作業に行くように)な
ると、ほい ツイヤ 大漁さして(させて)下さい
言うてなあ、ほい ツイヤ言うて、のみ(鰆・鮑を
取る鉄製のへら)の先を舐めて 船人(舟で夫婦で
作業する海女)ら、腰に のみさいて(差して)飛
び込んでくわい(行きます)。浜い(に)奉りん
(に) いても(行っても)米と御神酒 供えといて
(おいて)ほいツイヤ言うて 神さんに なんか
あげる時ん(に)ホイツイヤ言うて 皆 言うな
(言います)。ここの人は。仏さんは 言わせん
けどなあ、神さんやなあ(です)。物あげる時や
(は)ほい ツイヤ 言うて。そやよってん(それ
だから)正月さん 浜 行て(行って)奉りんても
(に行っても)皆 ほい ツイヤ。‘恵美須 大黒
何食うて 肥えた ツイヤ ツイヤの米こおで(噛
んで)肥えた”言うて。ツイヤ ツイヤ言うて
米でも なんでも するもんで(ので) となえ言葉
(祈言葉)や(です)。ほとく(仏)さんは 南無
阿弥陀仏 言うごとくに、神さんは ほい ツイヤ
ツイヤ言うてなあ。浜に 奉りん(に)行くと ほ
い ツイヤツイヤ言うて 奉るわい(ります)。磯
おりの(海に入る)時でも、ほい ツイヤ言うてな
あ 大漁さして(させて)下さい言うてなあ、桶の
縁 こんこんと のみで こついて(叩いて)ほい
ツイヤ言うて、そして 始め獲る鮑を 桶 入れと
け(入れておけ)言うて ほい ツイヤ言うて 入

れるんやんかい(入れるのです)縁起かついで。

ついやす(つひやす)(費)(漬)【他サ五】1) 金銭
を使ってへらす なくす 2) 時間や労力をかける
【会話】₂ 暇 ツイヤス言うて。ひにち(日数)
ツイヤス まあ 無駄な事 さしてなあ(させて)
とか、してなあ言うてな。なんやかや(いろい
ろ)時間 食うたり、手間取ったりすると まあ
暇 ツイヤス とか、時間ツイヤス とか 言うて
なあ。つこた(使った)とか、₁ なんもかも(す
べて) こおて(買って) 無駄ん(に) したたな(し
てしまった) あいな(あんな) もん(物) こおてな
あ(買って)言うてなあ ぜん(銭) ツイヤス 言
う時も 有るしなあ。がいん(あまり)要らん も
ん(物)を こおたり(買ったり)するとなあ こ
いな(こな) もんなあ(物)言う時ん(に) そい
な(そんな)言葉使う時もあんなあ(有ります)

ついり【名詞】入梅 つゆいりの転(志(志島、安乗、
布施田、神明、立神、国府、鶴方)、鳥(鳥羽)、員、
一、飯、松、多、上、阿、度、伊、北、南、熊)
【会話】つゆに入とる(ている)。ツイリに 入
った 言うて。ツイリや(だ)言うて。なごお(長
く) 続いとると(していると) こやまあ(これはも
う)ツイリ続きでなあ言うて 雨な(が)いつまで
も 降ったり止んだり しとると(していると)ま
あ こや(これは)ツイリやなあ(だ)言う。

づうきん【名詞】→ ずうきん

つうじ(通)【名詞】大便 便通【会話】ツウジな
(が) のおて(無くて)言うて。便所な(大便が)
出やへん(出ない)言うて。ツウジな のおて 苦
しんどんね(でいるのだ)とか、頭な(が) わり
(悪い)とか、肩い(へ)のぼるとか よお(よ
く)言うて 来るやんかい(来ます)。便秘や
(だ)言うて 今し(今)の人ら 言うて来るけど
(が)昔の事なら ま よお(大便) な(が)詰ま
ってとか はこ(大便) な つままってとか 言よお
ったの(言って居たのです)。

つうじぐすり(通薬)【名詞】便通をよくする薬 下
剤【会話】此れ飲むと ツウジクスリ やてわれ
(だそうだ)言うて あれえ(あろえ)摺って飲む
と、ツウジグスリ 下剤の事。

つうじる(通)【他ザ上一】つうずるの詛 1) 大、
小便が出る。2) 理解出来る。

…つうつ【接尾語】づつ。ひとツウツ。

づうづう(ずうずう)【副詞】図々しい様。(志(布施

田))

づうっと【副詞】→ ずうっと

つうよお【通用】【名詞】双方いづれにも通ずる事
世間一般に認められる事 [会話] 年寄り仲間な
(が) 寄ると、昔弁でツウヨオするけど、今しのも
んら (今の人達は) ツウヨオしやせんやんかい (し
ません)。

つうよおならん 一人前として扱えない。(志 (布施
田))

つえ【名詞】黒鯛 たい科の魚 真鯛に近いが左右の
鰓骨が融合していない。全長 40 cm あまりになる
(志、鳥、度、伊) [会話] 黒鯛の事を ツエや
(と) 言うなあ。真鯛は真鯛で 黒鯛や(と) 言う
んね (言うのです)。結婚式やどけん (などに) 鯛
の代わりん (に) 使うの。鯛ん (に) しょおやもん
なあ (よく似ています)。色こそ違うけど、ものす
ごお (ものすごく) かしこおて (賢くて) わしらん
(私の) 尻 つきあるいとる (ついて来ます)。石
まくるとなあ (ひっくり返すと)。まくった後の
お (のを) なんやかやな (色々な) 虫な (が) ひっ
ついとるわい (付いています) 石に。そすと (そう
すると) それを 食うたり (食べたり) くだめでも
(流れ子でも) まくって ふわふわとして ふけて
くと (流れてゆくと) しゅっと くたんの (食べて
しまうのです)。そやもんで わしらな (私達の)
いる (潜る) とこへ (所へ) つきあるいとんね (つ
いています)。そやもんで (それだから) わしや
(私は) ひとくら (一度) ごおわかして (腹が立つ
て) のみで突っついたら 目玉へ当たって ひっつ
かめて来たね (つかまえて来たのです) 大きなお
を (のを) なかなか 賢おて あれは 釣ったり
突いたり は よくよくやなけな (でなければ) 出来
やへん (出来ません) すばしっこおて (すばしっこ
くて)。あれのお (あれね) あこや貝をうちゃっと
いて (壊しておいて) 泳いどて (泳いでいて) おえ
ぎ釣 (泳ぎながらする釣) すんのなあ (するの
です) 潮浴びると (海水浴すると) 竿 持ってといて
(持っていった) おえんで (泳いで) すると あれ
やけどなあ (釣れるのですが) 賢いもんで (ので)
なかなか 釣られやへん (釣れません)。

つえかご【名詞】黒鯛を獲るための籠、籠の中に餌を
入れ 魚が入ったら出られなくしてある (志) [会
話] ツエカゴ言うてなあ、ぼてん (生簀) みたよ
な (のような) のおえ (のへ) 南瓜の わた (綿)

入れといてなあ (ておいて) とごらしとくの (沈め
ておくのです) 底い (底へ)。そして ちょおいと
(少し) 窓な (が) あいとんね (開いているので
す)。そすと 南瓜の わた食いに つえな (が)
入いんのでな (入るのです) よさり (夜) それやっ
といて (沈めておいて) 朝 あげん (に) 行くと
入とんねてや (入っているのです) つえな (が)。
おえんどて (泳いでいて) つんの (釣るのは) つら
れんねけど (釣れるのだが) 餌 撒いて。賢いもん
で (ので) 突くのは なかなか突かれやへんなあ
(突けません) あれは。

つおい【形容詞】強い つよい (強) の変化した語
(志、鳥、員、三、鈴郡、鈴市、一、松、多、上、
阿、張、名、度、伊、北、南、熊)

つか【東】【名詞】つかい棒 短い柱の総称 東
[会話] つかい棒 (つかえ棒) の事、ツカ言う
の。墓の事も ツカ言うし。つかい棒 なんかも
崩れて来んの (来るのを) つかい棒 張れ言うて
なあ。墓も ツカや (と) 言うやんかな (言いま
す)。八人ツカやとか (だとか) 敦盛ツカや。

つか【名詞】墓地 塚 前項参照 (鳥)

づか 多い事 沢山 (志 (布施田)) [会話] ダンヅ
カ積んだなあ言う。よっけ (沢山) 積み上げとる
(ている) あやまあ ダンヅカ 積んどられ (でい
る)。よおけ (沢山) あんのを (あるのを)。よっけ
(沢山) 積むとなあ ダンヅカ 積んだなあ言う。
ヅカ言う和多い。何でも よけ (沢山) 積み上げる
と あや (あれ) ダンヅカ積みやげとられ (積み上
げている)。

つかい (つかひ) (使)【名詞】1) 招待を伝える使者
知らせの人 案内人 迎え 2) 葬式の有る事を知
らせる人。(志、松、伊) [会話] 1) ゴジブンツカ
イ (食事を招待する使者・御時分) やとか、2) 葬
式のツカイマワリや (だ) 言うてまあ 堤灯つけて
回りおったのんなあ (回って居ました)。結婚式で
も ツカイマワリ しちどはんの使いで 言うて、
ななくら (七回) いといて (行つて) 途中で 半は
おおて (逢つて) するよおん (に) しちどはんの使
い 言うて 言うんやんかい (言います)。世話や
かすと 呼びん (に) いても (行つても) 来やせん
(来ない) 又、呼んで来い 早よ (早く) 来やせん
やんかい (来ないじゃないか) 言うて いくくらも
(何回も) 行くと しちどはんのツカイやなあ
(だ) 言うて。ツカイ言うのは 招待する方が 招

ぶ人を来て下さい 言うてくのかい (言うて行くのですか)、そおすると しらせ。知らせんのも (知らせるのも) ツカイに いて (行つて) 来い、いて (行つて) 知らしといて (知らせて) 来い 言うん よつて (言うのだから) ツカイ。そのツカイ頼むね よつて (のだから) いて (行つて) 知らしといて 来い言うのは。結婚式の時は 招待すんのを (するのを) 知らすの。葬式は 葬式 出てもらうのを 頼みん (に) 行くの んなあ (の)に。

つかい (つかひ) (番) 【名詞】 1) 一対になったもの 鳥獣の雌雄 一対の物 (志 (布施田、鶴方)) 2) 体の関節 (あごのツガイ) 3) 間隔 境界 つなぎの部分 (志 (布施田)) [会話] 1) ツガイ言うのは 夫婦の事 ツガイ言うて。2) 間を ツガイを えご つと (完全に) せな (しなければ) はざんわれ (駄目だ) 言うて 間の事 ツガイや (と) 言うなあ (言います)。こして (こうして) 並んどる (でいる) あれを ツガイも えごと (ちゃんと) しとか な (しておかないと) とかなあ、つなげんのも (つなげるのも) ツガイ。畑でも 隣と わが (自分の) 家の畑となあ それも ツガイや (と) 言うしなあ、境界の事なあ。1) 鶏もなあ ふたあつうつ (二羽) おると (居ると) ツガイでなあ にげ (人間・人) でも 夫婦で 歩いとると (歩いていると) あや (あれ) ツガイで 歩いとられ (歩いている) 言うやんかい (言います)。ほんとは (本当は) 鳥や とか (だとか) そいなのおを (そんなのを) ツガイ 言いおったんやろけど (言つて居たのでしょうか)、それをなあ にげ (に) あてたんやわいなあ (当てはめたのでしょうか)。ふたあつ (二つ) なんでも 並んどると (並んでいると)、ツガイや (だ) 言うて そして 買うのでも ツガイで するし かけのいおでも (祝いの魚) 二つ ツガイでしてなあ。それやよつて (それだから) 皆 こお 二つ並べて すんの (するのです)。間もあるし 境界も有るし 2) 顎のツガイや (とか) 蝶番。二つ合わす事を ツガイ 言うねなあ (言うのですね)。

つかいあるき (つかひあるき) (使歩) 【名詞】 命じられた用事のため、あちこちへ行く事 又、その人 [会話] ツカイアルキ 言うな (のは) 今日は ご つつお (御馳走) やよつてん (だから) 来てくれ (下さい) とか 今日はだれ それな (が) 死んだ よつてん お通夜 ん (に) 来て くれ とか、用事を 言うてく (言うて行くのを) ツカイアルキ な

(が) のおて (無くて) 言うて。今しや (今は) 電話 な (が) 有る よつて (から) いなんけど (要らないが)、無い じぶん (頃) は、子供 らな (が) 有ると はよ (早く) 伯父さん げ (家) い (へ) いて (行つて) こげん (こんな)に 言うといて (言つておいて) 来い 言うて、用事 すんの (するの)に つかい ごな ほしなあ (欲しい) 言うて 言よおつた やんかい (言っていました)。

つかいいいたみ (つかひいたみ) 【名詞】 1) 筋肉、関節の使い過ぎによる痛み 2) 物などを使つて古く悪くなること [会話] 1) ツカイイタミ 言うのは、使い過ぎて いたなつて (痛くなつて)、あんまり (あまり) よけ (沢山) した後はなあ 痛い わい (です)。そすと (そうすると) ツカイイタミや (だ) 言うなあ。朝から いっしょけんめ (一生懸命) ガラス拭いて たらいのくい (届きのにくい) のん (の)に たろて (届いて)、すんばこ (神経痛) 起して まあ 言うて。常でも (いつも) 痛い のな (のが) なお 痛い。あんして (そんなにして) 痛いとなあ よけ (沢山) したや (したら) すんばこ (神経痛・筋肉痛) 起らかして (起こして) 寝とる (寝ている) 言うてなあ。

つかいかた (つかひかた) (使方) 【名詞】 1) 吉凶の報を知らせる人 2) 使用方法 [会話] 2) ツカイカタ。鉄と こつて牛や (は) 使い手に (上手に使う人に) 使わせ (使わせなさい) 言うて、ツカイカタ な (が) わりと (悪いと) 切れやせんやんない (切れないでしょう)。使いのくい (使いにくい) とか 使いやすい、人間でも 人使い (人を使用するのに) 上手ん (に) する人と、下手な人と ツカイカタ な (が) 下手 な (だ) 言うし。物を使う時に、ツカイカタ 言うて、お金 (金銭) を使う時でもなあ、ツカイカタ 上手ん (ん) 使や (使えば) ええけど (いいが)。金 使こても (使つても)、ツカイカタ な (が) 下手で。下手なのなあ 機械でも ツカイカタ 下手 なんなし (なのですし)。鎌でも 鋏でも ツカイカタ な (が) 面白いのおな (変なの) が 有るやんかな (有ります)。倒すのおでも (の)でも) うっとでも (耕していても)。

つかいかつて (使勝手) 【名詞】 使用した時の使いやすさの程度。

つかいがつてなええ 使いやすい。

つかいがつてなわり 使用しぬくい。

つかいご (使子) 【名詞】 小使 使い走りをする子供

(志(布施田、志島))[会話] ツカイゴな(が) 欲しなあ(欲しい) 言うて、小父さんげ(家) これ 持て(持って) 行てこい(行て来い)、小母さん 家へこれ 持てけ(持って行け) 言うてなあ、ちっさい(小さい) 時は 子供ら(達) を 使てなあ(使て)。今しは(今は) 電話で かちかち やるよつて(から) ツカイゴな(が) いなんけど(いらないが) 昔や(は) ツカイゴな(が) 欲しかった。用 かうのに(頼むのに) 大人な(が) 一つごつと(ごと) 行かなはざんもんで(行かなければいけないので)、ちよいとのもん(少しの物) でも やつたり(与えたり) とつたり(貰ったり) しおつたん(していました)、隣い(に) やつたり とつたり しおつた(して居た) もんで(ので) ツカイゴな(が) 欲しかった。昔や(は) いもんにやげ(芋煮上げ・芋の炊いた物) しても 隣い(に) やつて、さいら舟(秋刀魚を獲る舟) な(が)、さいら とて(獲て) 来ると いっぽおつ(一本ずつ) から げて(くくつて) 皆 そんだいは(そんなに) して屁でも無いよおな家でも さいら いっぽおつ 言うて、こばるもんで(配るので) ツカイゴな(が) 大人な(が) そいなもん(そんなもの) いっぽおつ(一本ずつ) さげて 行かれやせん(行かれません)。霜月ひいて(一日・十一月一日) になると ぼたもち配らな(配らなければ) はざんしやんない(いけないでしょう) そやもんで(それで) ほんとん(本当に) ツカイゴな(が) 欲しかった。ツカイゴな(が) 有ると 子供ら 早よ(早く) 行て来い よお(行て来なさい) 言うて 大人は 行ても(行ても) ちよいと行て(行て) それ 置いといて(ておいて) すぐん(に) 来る わけん(に) いかんし(いけないので) ちよいと(少し) ぐらい 喋りもしとる(している)。すとまあ(すとも) う) 仕事の しまづいえ(暇づいえ・時間の無駄) するもんで(ので) そんで(それで) ツカイゴな(が) 欲しいなあ言よおつたけど(言っていたが)、今日 電話で わんわん言う時代 ツカイゴな(が) いらんけど(いらないが)。物 配んのおでも(配るので) まあ 何処へでも 店屋 頼んどきや(頼んでおけば) 皆 配達してくれるし。そや よつてん(それだから) ツカイガ(子は) いなんけど(いらないが) 昔や ほんとん(本当に) ツカイゴな(が) 有ると どいらいなあ(大変に)。そや よつてん(それだから) わしらでも 子供のうち

(間) 何処行け 此処行け 言うて 親戚中 皆知つとるけど(知っているが) 今日日の 子ら(子供達) 親戚や(だ) 言うて 伯父さん 叔母さん 知らんくらいやんなあ(知らないくらいです)。いたり(行ったり) 来たり しやせんよつて(しないから)。

つかいころされた(つかひころされた) 酷使された [会話] あの家い(へ) いたや(行ったら)、まあ あれも せえ(しなさい) これもせえ 言うて、ツカイコロサレタレ 言うてなあ、酷い目に あう言うのを。

つかいころす(つかひころす) (使殺) 【他サ五】死ぬほどひどく使う こきつかう [会話] ツカイコロス 言うて、これも せえ、あれもせえ 言うてなあ、体な(が) 暇な(が) 無い程 仕事さす(させる) のをなあ、人使いな(が) あろおて(荒くて) ツカイコロサレンネ(るのだ) 言うて。きぶい(きつい) 家い(へ) 行くとなあ、仕事な(が) 切れん うちん(ない間に)、こんだ これして こんだ(今度は) あれ せえ 言うて、いっすいも(少しも) 暇おけんと(置かず)に ひよにん(使用人) でも 家のもん(者) でも 使うのをなあ ほん(本当に) ツカイコロサレル言うて。一日中 暇無しん(に) 仕事をさしとると(させていると) おおたあの家や(は) 人使いな(が) あろおて ツカイコロサレンネ(るのだ) 言うて。

つかいさき(つかひさき) (使先) 【名詞】 1) 使いに行く先方。2) 金銭の使用目的

つかいぜん(つかひぜん) (使銭) 【名詞】 1) 便所の尻拭き紙、藁 2) 小遣(使) い銭(志(布施田))[会話] 1) ツカイゼン 塵紙の事。すぐり(藁の葉) を 切ったの(のを) 紙の代わり やんかい(です)。それを 便所のツカイゼンや(だ)、塵紙の事をな(です)。便所、尻拭くのん(のに) 使うやんかい そやもんで(それで) ツカイゼンにこれを切つて もてかな(持って行かなければ) 言うて。藁をすぐる(整える) と すぐったのも 皆な(皆んなが) して。そやけど こおの(打ったのは) のは、はざんの(いけないのです)。尻い(に) 付くもんで(ので) やいこおて(柔らかくて) 気持ちは ええんけどなあ(好いのですが)。こもは 小麦がら(殻) ですんの(編みます)。小麦殻で 藁もまじえて(混ぜて) 小麦の殻ですると(作ると) しゃんとしとるもんで(して居るので) それ

しよおったの (それで作ったのです)。便所のツカイゼンな (が) 無い時にや (には)、いび (指) で拭くわけにも いかんし、それを承知で拭きおったんやろなあ (拭いたのでしょう)。それで (それで) せんちやの薦で 筆り取られて 縄 (名) 残る。しまいにや (には) なあ (縄) だけん (に) なって くねん (来るのです)。このぐらいのおを (これ位のを、約 20 cm) ふたつん (二つに) ぽんと折つといて (ておいて) ごしとして (拭いて) 又 して なあ そいんして (そんなにして) 紙使うよおん (ように) すんねない (するのです)。一緒やわい (です) 紙 使うのをな。

つかいぞめ (つかひぞめ) (使初) 【名詞】 初めて使用する事。使い始め。

つかいたくる 1) 人などをひどく使う こき使う 2) 金銭を浪費する [会話] 2) ツカイタクル ぜん (銭) でも 惜しげなしん (に) 親からもろて (貰って) ツカイタクル にげ (人間) も 有るし。
1) 人でも頼むと さいご (その時) ツカイタクッテ、あれ してくれ (して下さい)、これ してくれ 言うのも ツカイタクル 言うてなあ。ツカイタクル つかいまくるも 意味は一緒やけど (ですが)、そのにげ (人間) によって ツカイタクルとか、使いまくるとか 言うてなあ。

つかいだて (つかひだて) (使立) 【名詞】 1) 人を使って用事をさせること 依頼する事 2) 金を浪費する事 [会話] 2) そいななあ (そんな) ぜん (銭) も ツカイダテ したら 幾ら 有ったてて (ても) かなおかれ (かなうものか) 言うて、あれも ほし (欲しい) これもほし 言うて、したらなあ、幾ら 有ったてて 続こかれ (続かない) 言うて そやよって (だから) 欲しもん (物) 買うな 要るもん (物) 買え言うて ほしなあ (欲しい) 思うもん (物) こおたら (買ったら) きりも限りも ねえし (無いし) こや (これは) なんでもかんでも 要るなあ おもて (思つて) 要らんならん (必要な) もん (物) こおて (買って)。1) 人にも 頼む時 ツカイダテして なんやかや (いろいろ) どこそこい (へ) もててくれ (持っていって下さい) とか、こげん (こんなに) 言うてくれ とか 言うて 頼むとなあ、あんた (貴方を) ツカイダテして 済まんなあ (済みません) 言うて、よお (よく) 言うなあ。

つかいちん (つかひちん) (使賃) 【名詞】 使いに行つ

た者に対する報酬。

つかいて (つかひて) (使手) 【名詞】 その物を使う人 上手に人や物を使う人 [会話] 鉄と こつて牛や (は)、ツカイテに 使わせ (使わせなさい)。

つかいで 1) 便所の尻拭き紙 2) 使って感じられる量の多さ 充分に使えたと言う感じ 長持ちする [会話] 1) 便所のツカイデ な (が) 無い時や (は) いび (指) で拭くわけんも (にも) いかんし (いかないし) せんちや (便所) の薦で撈り取られて なわ (縄→名は) 残る。

つかいどく 使っただけ得、使える物は使わ無ければ損。(志 (布施田))

つかいのくい 使いぬくい 使うのが困難だ [会話] あのにげや (人間は) こおじくで (頑固で) ツカイノクイ、あいな (あんな) にげや (人間は) 雇うな よお 言うて。これしてくれ (下さい) 言うても、そや (それは) どおたらや (どうだ) 言うて、わがとな (自分の) 勝手 言うて 親方の言う事 聞から ったり (聞かなかつたり)、その家の にげ の言う事 聞から たり する人な (が) 有つてなあ。そいな (そんな) にげや ツカイノクイ。鉋や鎌でもな 鍛冶屋な 上手なと (だと) どいらい つかいよおて、おおた あしこの (あすこの) 鍛冶屋な (が) 打ったな (のは) どいらい (大変) つかいよいねよお (やすいのだ) 言うて、鉋ななあ (が) どいらい 使いよいのと (やすいのと) ツカイノクイのと あんねてや (有るのです)。畝 あげんのん (あげるのに) 土な (が) 乗つて 使いよいなあ (やすい) 言うのと、おもとおて (重くて) 土な (が) のりのくうて (乗りぬくくて) ツカイノクイ 鉋やなあ (だ) 言うて。

つかいばしり (つかひばしり) (使走) 【名詞】 あちこちに出かけて使いの用をすること。又、その人 [会話] ツカイバシリして はよ (早く) いて来いよお (行つて来なさい) 言うて 小走りん (に) 走しん (走る) のおを ツカイバシリ言うて よお (よく) 言うけどな (言います)。小走りして はよ いて来いよお 言うど、はい言うて ちょこちょこ 走しん (る) のをなあ ツカイバシリして 走つて来たよお言うけどな (言います)。

つかいばん (つかひばん) (使番) 【名詞】 使い走りの役をする人 (松) [会話] 今し (今) ツカイバン 言うよおな 事は、よけ (あまり) 使わんと (使わずに) つかいまあり 言うてな、よお (よく) 言う

なあ。昔や (は) 人な (が) 死んでくと (で行く
と) 二人いつで (づつで) 提灯つけて まあって
(廻って)、夜中でも とんとん 叩いてなあ 起
こして その使い あした (明日) だれそれな
(が) 死んだよって (から) 御苦労してくれえ (下
さい) 言うて

つかいふるし (つかひふるし) (使古) 【名詞】 長く使
って古くなった物。

つかいまあり (使回) 【名詞】 吉凶の報らせを各家に
知らせに回ること 又その人、つかいまわり つか
いあるき参照

つかいまくる 【動詞】 1) 人などをひどく使う こき
使う 2) 金銭を浪費する [会話] 2) ぜん
(銭) も のおておって (無いのに)、ツカイマク
ッテ あやれ (あれ) ま 借金だらけん (に) した
られ (してしまう) 言うて。有って使うん (の) な
ら ええけど (よいが)、のおても (無くても) 使
うにげや (人間は) 博打 打ったり、おやま (女
郎) 買いて 無駄なぜん (銭) 使うと あや (彼
は) まあ 銭ツカイマクッテ 借金こしやえて
(作って) 家売らな はざんわれ (駄目だ) 言うて。

つかいみず (つかひみづ) (使い水) 【名詞】 掃除、洗
濯炊事の後片付け等に使用する飲料にならない水。
雑用水 [会話] ツカイミズ 甕い (へ) 汲んで
おいといて (置いておいて) 水甕言うて 飲むのは
おつきい (大きい) 甕い (に)、にのて (担いで)
汲んで 一杯つ (ずつ) して、それは ちゃあ
(茶) 炊いたり 御飯炊いたり。それは ええ (良
い) 井戸水 もろて (貰って)。勝手の茶碗 あろ
たり (洗ったり) そこら (その辺) 拭いたりすの
は (するのは) 隣の わり (悪い) 水でも もろて
来て ツカイミズ。井戸の ふつかかったり (深か
ったり) 水の冷たいとこ (所) 夏は飲み水なあ (で
す)。寺屋の水 桶でじょつく (いつも) 汲み番し
おった (して居ました)。寺屋の水は ほとん
(本当に) 茶 炊くと 美味しいおで (ので) とし
りとり水や (だ) 言うてなあ 寺屋からな 皆 汲
みおって (汲んで居て)。ツカイミズ 家の井戸の
水なあ (を) 使いおったの (使って居たのです)。

つかいみち (つかひみち) (使道) 【名詞】 使う方法
使う場所 用途 [会話] ツカイミチも 知らんと
(ずに) 言うて、此処い (へ) この金 つこて (使
って)、この金や (は) こんだけ (これだけ) つこ
て こや (これは) 残さな (なければ) はざん、言

うて 税金も拂わな (なければ) はざんし (いけ
ない) 米も買わな はざんし 言うて、ツカイミチ
たててすると ええけど (よいが) ツカイミチを
立てんと (立てずに) 使いまくったる (きってしま
う) にげ (人間) な (が) 有るやんかい (有りま
す) 。

つかいめ (つかひめ) (番目) 【名詞】 1) 継ぎ目、合
わせた所 2) 関節 [用例] 2) 肘の ツガイメ
な (が) 痛い。

つかいもん (つかひもん) 【名詞】 贈り物 (志 (布施
田))

つかいよい (つかひよい) 使いやすい 使うのに楽だ
[会話] 使いやすいうて 仕事なしやすいんてや (の
です)。わがとな (自分の) てえ (手) に おおた
(合った) よおな 道具でなあ。鎌もツカイヨイネ、
この鎌こおたや (買った) 言うて。百姓するもん
(者) は ねんない (一年中) 刈ったり打ったりし
とる (している) よってんなあ (から) わがとな
(自分の) 手勝手 (使い方) な (が) ええのな (よ
い) あんねてや (有るのです)。わがとな 手勝手
も あんねけど (有るのだが)、そやけど (しか
し) こしらえる (作る) 人ん (に) よってなあ ど
いらい (大変) ええのと、わり (悪い) のと、あん
ねてや。磯行く 鑿でもなあ ツカイヨイ鑿と、ど
いらい 使いのくい (にくい) 鑿とあんなあ (有り
ます) 言うて。

つかいりょお (使料) 【名詞】 使用する分

つがう (つがふ) (番) 【自ハ五】 継ぎ合うの意 (広辞
苑) 1) 二つの物が一緒になる (北) 2) 交尾する。
男女が一緒になる。(志)

つかえ (つかへ) (支) 【名詞】 1) 差支え 支障
2) 支柱

つかえる (つかへる) (支) 【自ア下一】 1) 差支える
都合が悪くなる (上、阿、張) 2) 食べ物が胃など
にもたれる (上、阿、張) 3) 混雑する 混む 詰
まる (上、阿) 4) 奉仕する [会話] 4) 主人に
ツカエルとか 親方にツカエルとか つこて (使っ
て) 貰うのを ツカエル言うのなあ。ほすと (そす
と) 1) サシツカエな (が) 有る 言うの、今日は
来てくれ (下さい) サシツカエな (が) 無いかあ
(無いですか) お前げや (の家) 言うてなあ。用事
がないか 言う事を、サシツカエ 無かったら 来
てくれるかい (くれますか) とか、してくれとか。
2) 胃にもたれたり なんかすのん (するのを) ツ

カエル言う。こないだ（この間）食うたら（食べた）ら）まあ 胸ぶくれて、胸の やけんのおと（やけるのと）又、違うねてやまあ（違うのです）。胸ぶくれんな（ぶくれるのが）。昼 餅焼いて 食うたもんで（食べたので）もたれとたんやろなあ（もたれていたのでしょうか）。そしといて（そうしておいて）芋をなあ ここへ来て食うたもんで（食べたので）。むなぶくれて、ここら（みぞおち）のほおこおなあ ツカエタよおん（ように）しとんのなあ（しているのです）。そすと（そうすると）むなぶくれた 言うのなあ、ツカエンノヲナア（つかえるのを）。むなぶくれた 言うのは 腹が一杯になった感じやなしん（ではなくて）なんやら（なにか）知らんけど（知らないが）胸ん（に）ツカエタよおん（ように）しとる（している）時ん（に）痛ないんけど（痛くはないが）重苦しいよおなあ、それを むなぶくれる 言うのなあ。胸な（が）やけんのも（やけるのも）えらいしなあ（大変です）芋食うと 胸な（が）やけて そのくせ 芋やなけな（でなければ）食べたのおて（食べたくなって）。

つがえる（つがへる）（番） 1）当てる。二つのものを一つにする。2）交尾させる。

つかかる 争をしかける。くって掛かる。つかかる 参照

つかし【名詞】 船尾方向より押し寄せる波。

つかしんく 波乗りに行く。

つかす（突）【他サ下一】 1）波乗り 小板一枚を操って巧みに波に乗って遊ぶ（志（布施田））2）支える【会話】 1）波で 板に乗って ツカスのか（のです）。2）なすび（茄子）に 杖ツカスとか棒を立てて 縛んのおを（くくるのを）杖ツカス。

つかつか。づかづか【副詞】 → **ずかずか** 無遠慮なさま（志（布施田））

つかってきた 浸水して来た。

つかまされた 1）騙された（志（甲賀））2）袖の下をもらった つかます参照

つかまされる 1）騙されて粗悪品。偽物を買わされる。（志（神明、立神、志島、国府））2）袖の下を受けとる。

つかましもん【名詞】 袖の下。つけ屈け。（志（布施田））

つかます（掴）【他サ下一】 1）袖の下を送る 2）だまして偽物、粗悪品を買わせる 【会話】 1）ツカマス言うの ポッポ 言う、まいなす（まいな

い）つかまされた 袖下 突っ込んでとかなあ。ぼっぼ 入れとけ（ておけ）。ぼっぼ ところ（懷）を。

つかみぐい（つかみぐひ）（掴食）【名詞】 食物を素手で食べる事 【会話】 ツカミグイ 言うのは なんやかやをなあ（何や彼やを）膳の上に有るもん（物）を つまんで食うのを、ツカミグイして いやしんば（いやしん坊）言うて いやしんば やてら（だとか）こじきたら 言うて。こじきたら（乞食太郎）まあ ツカミグイして あやあれまあ（あれあれ）いやしんばやなあ（だ）言う。てえ（手）で 食べる、見たら すぐに 食べたる（食べてやる）言う。そこらへ ちょろちょろっと 回ってて（回っていつては）ちょいと（少し）つこで（掴んで）歩いてて（行つて）すんのな（するのが）ツカミグイする。ツカミグイ言うな、人が見とても（見ていても）美味そおな物が有ると あれ 掴みこれ 掴みして 食うにげ（人）が 有るんなあ（有るのです）。そんで（それで）ツカミグイ。人の目な（が）つかんとこで（つかない所で）食うのなあ盗み食い。人の嬢しても（他人の妻と性交を持つても）盗み食い言うやんかい（言います）。

つかみどこなない 1）物事を理解したり、評価したりするよりどころが無い 2）馬鹿だ

つかみどり（掴取）【名詞】 1）一度に沢山取る事。

2）荒々しく掴む事。【会話】 1）ひよどり（日給）で ぼちぼち（少しづつ）言うて、どんと（一度に・沢山）ツカミドリ 出来やせんけど（出来ないうが）。

つかみやい（つかみあい、つかみあひ）（掴合）【名詞】 喧嘩 取っ組み合い つかみあいの訛。【会話】 喧嘩して ツカミヤイ しとられ（している）言うやんかい（言います）。喧嘩して もみこみやい（取っ組みあい）しとると（している）。とと（夫）と、かか（妻）と あの家や（は）喧嘩して ツカミヤイしとんねない（しているのだ）言うて 喧嘩して まあなあ 取ったり 組んだりしとんのを（しているのを）ツカミヤイしとる 言うて

つかむ（掴）【他マ五】 1）つまむ（三、鈴市、安）2）粗悪品。偽物を買わされる。（鳥）

つかめこ【名詞】 鬼ごっこ（志（越賀）、鳥（答志））【会話】 ツカメコ。かくれんぼすると 子供ら つかめたもん（者）が ねぶんのおで（眠るので）そんで（それで）逃げ回しといて（ておいて）つかめ

るまで 追い回してて (行つて) すんの (するの) を ツカメコ。鬼すんの (するの) ねぶる (眠る) 言うの。壁ん (に) ひつついて まあ (もう) ええ か (いいか) 言うて、まあ (もう) ええ ぞ (いいぞ)。 そすとさいご (そうすると) 探しん (に) くん やんかい (行くのです) つかめられると ねぶら な (なければ) はざんもんで (いけないのです)。

つかめた つかまえた 捕まえた (志、鳥) [会話] ぬすつと (盗人) ツカメタ 言うてな。 ぬすつと ツカメテ なあ (縄) やれ (だ) 言うて 仕事せん ならんのおに (しなければいけないのに) せんと (せずに) おると、ぬすつと ツカメ トイテ (ておいて) しばんのん (くくるのに) なあ (縄) なえ言う様な 意味をなあ。 いそんだ (急いだ) 仕事すると おおた まあ よいから (前夜から) しときや (しておけば) よかったのん (のに) ま、ぬすつと ツカメテ なあ (縄) や (だ) よお言うて。ツカメタ 言うのは 捕まえる、泥棒な (が) 入つて 抜き足差し足 しとんの (している) かんがえとて (うかがっていて) 誰や (だ) 言うて つかめんのを (るのを) 泥棒ツカメタ言うてなあ。

つかめたらんかい 1) 捕まえなさい 2) 掴まえてやりなさい

つかめたれ 1) 捕まえてやれ。つかまえてやれ。 2) 捕まえた。捕まえました。(志) [会話] 1) はよ (早く) そやれ (それ) 鳥な (が) 逃げてかれ (行く) はよ ツカメタレとか、猫な (が) あやれ (あれ) 入つて来たれ、ツカメテ どづけ (叩け) てやら (とか) 言うてなあ。

つかめてえ 捕まえて下さい。掴まえて下さい [会話] わしや (私は) おつてくよつてん (落ちて行くから) はよ (早く) ツカメテエ、言うて。

つかめどこ【名詞】 つかまえどころ 物事の本質や人の真意をつかまえるための、よりどころ、とらえどころ [会話] とらえどころ な (が) 無いね (無いのだ)。ツカメドコな (が) 無い にげ (人間) やなあ (だ) 言うやんかいなあ (言います)。嘘やらか ほんと (本当) やら 訳な (が) わかるかれ (判らない) ツカメドコな (が) あるかれ (無い) 言うて

つかめどり【名詞】 つかみどりに同じ 一度に沢山掴み取ること [会話] ツカメドリ 言うて なんでも よけ (沢山) 有ると、ツカメドリ みたいなな あ (だなあ) 言うて。ツカメドリ 言うな (のは)

じえん (銭) を 出して しょんがつ (正月) ん (に) 景品の代わりに あけといて (あけておいて) ツカメドリする時な (が) 有るやんかい (有ります)。あられやとか (だとか) 豆とか言うて 一掴み つこでけ (掴んで行け) 言うて、一掴み そや (それ) 言うて 掴んで。掴んでけ 言うたり (言ったり) 一掴み やるわ (あげます) 言うたり 一掴み 持てけ (持って行け)。掴んでけ (掴んでいけ) 言うのを つこでけ つこでかんかれ (掴んでいきなさい)。雷に 掴まれてた 言うて、雷ん (に) 打たれて死ぬやんない (でしょう) 雷ん (に) つかまれてくどお (打たれるぞ) そや (それ) 言うて 雷ん (に) つかまれてた言うて 言い おったの (言つて居たのです)。

つかめとる 1) つかまえて居る。すがりついて居る。 2) 捕まえて居る。

つかめられた 1) 捕まえられた 2) 掴むことが出来た [会話] 1) つかめる にげや (人間は) 泥棒や (だ) 言うて つかめるし (捕らえるし) どろばあ (泥棒は) ツカメラレタ。

つかめられる 1) 捕まえられる 2) 掴むことが出来る [会話] 1) ツカメラレルと (捕らわれると) つかめられた (捕らわつた)。

つかめる(捕)(捉)(掴)【他ア下一】 つかまえる 掴まえる 捉まえる 1) 逃げないように取り押さえる (志 (布施田、神明、立神、国府、安乗)、鳥) 2) 手で握つて離さないようにする その場にとどまる [会話] 1) 見つけてなあ、見つけた言うて、ツカメルんやんかい。それもやし (それもです) つかめられたよお (捕まつた) 言うて。 こつちや (こつち) は ツカメル 言うんなし (言いますし)、つかめられると つかめられたよお 言うて。 ほして (そして) 泥棒つかめてもなあ。盗人 つかめや (捕まえれば) 我が子なり言うて。 つかめ たれ言うのは 人に言う事やなあ (です)。 2) わしや (私は) おつてくんよお (墜ちて行きます) 早よ (早く) つかめてえ (掴まえて下さい) 言うて、早よ (早く) つかめたらんかい (掴まえてあげなさい) 言い おった (言っていました)。

つかめんく 1) 捕まえに行く 2) 掴みに行く [会話] 1) つかめこ (鬼ごっこ) して、鬼ん (に) になると、ツカメンクんやんかい (のです)

つかからかず【疲】【他サ五】 疲れさせる。かすは接尾語

つかる (漬) 【自ラ五】 漬かる 浸る 物が液体の中に入る 1) ある状態に入りきる 溺れる 2) 漬け物が食べられる状態になる (志 (布施田)、鳥) 3) 入浴する (志 (神明、立神、志島、甲賀、国府)) 4) 家屋が浸水する。[会話] 3) 水にツカルとかなあ、風呂い (に) ツカルとか、えごと (充分) 首い (に) まで ツカレよお (つかりなさい) 言うて、子供らん (達に)。4) 家が浸水して来てもツカル。2) 味噌漬 漬けたり だいこ 漬 漬けたりまあ ツカル 言うし (言います)。何でも水にしたす (ひたす) となあ つけた言うのなあ。洗濯もん (物) つける時ん (に) つけたとか、だいこ (大根) 漬 漬けん (漬ける) のも 漬ける言うしなあ、菜漬 漬けるとか、丁度 ええ (よい加減) 具合になった時ん (に) よお (よく) 漬かったよお、よお 漬かって ええ (よい) 加減やなあ (です) 言うて。風呂でも つかり加減な (が) ええなあ (よい)。風呂ツカルと 加減は どおど (どうですか) 言うて。

つかれる (憑) 【自ラ下一】 他の靈魂などに乗り移られた状態になる [会話] なんやら (なにか) つきもん (憑物) な (が) して、おかしげなねよお (変なのだ) 言うてな。狐な (が) 憑いた 言うのも有るし、呪うのを あれん (彼に) ツカレル 言うて よお (よく) 言うやんかい (言います)。祈り釘するやんない (でしょう) そいな (そんな) 執念の深い人な (が) ある人を どいらい (大変) 呪んどる (でいる) とすると、その人を なっとか (なんとか) したろ (してやろう) おもて (思っ) ご おわかして (腹立てて) 百度参り したり、人がた (人型) 藁のおを (のを) こさえて (作って) それい (へ) 祈り釘打ったり すんのをなあ (するのを) たたりもん (物) に ツカレル 言うて。そいな (そんな) にげな (人間) あんねてわい (有るのだそうです)。呪うにげ (人間) は また 違うん てわい。あおぎも やら (とか) 言うやんかい (言います)。そいなのん (そんなのに) ツカレルとなあ どこやかや (いろいろの所) なっとも (なんとも) 言われん程 具合な (が) わりなってくんね (悪くなって来るのです)。そげのん (そんなのに) とりつかれんのを (るのを) ツカレル言うてなあ。

つがわす 交尾させる。(北)

つかわれる 1) 使用出来る。使う事が出来る。

2) 人に雇われて、使用される。

つき (付) 【名詞】 顔付き 風体、人に対する態度 名詞について其の様子を表す。動詞 つく (付) の連用形の名詞化 (志 (布施田)、上、阿、張、名) [会話] 顔ツキも 有るし。

つき (付) 【名詞】 幸運 運勢 [会話] 魚やどけ (などが) 釣りん (に) いても (行っても) ツキなええ (よい) 言うしなあ、ちよいと (少し) 魚な (が) よけ (沢山) 釣れると ツキな (が) よおて (よくて) 今日は 言うし。

つぎ (縫) 【名詞】 1) 裁縫 (志 (布施田、神明、立神、志島、国府)) 2) 布きれ 衣服などの綻びに他の布を当て繕い縫う事、又それに用いる布 (志 (布施田、志島、国府、船越、浜島)、度、伊、南) [会話] 1) 裁縫する 言うの (言うのを) ツギする 言いおった (言っていました)。裁縫箱をツギ箱 言うて さいとの 張ったのおやたら (のとか) 籠の うちゃれたのお (壊れたのを) 張つといて (張っておいて) そや (それ) ツギ箱ん (に) 言うて こまかあい (小さな) 布も ほつららんと (捨てないで) 皆 入れてあんの (有るのを) ツギ箱や (だ) 言うて、ツギ箱 持て (持って) 来い しや (それ) ふくろべ (ほころび) のおたれ (縫ってやれ) 言うて。2) そんで (それで) 布の事 ツギや (だ) 言うしなあ。ツギ 持て来い これへ (ここへ) 当ててつがな (つがなければ) はざん (いけない) 、しきし (当て布) 当ての ツギ 持て来い言うて。ツギ 当てる ツギな (が) のおて (無くて) 言うて。ヒレツギも 無いねない (無いのだ) 言うて。戦争中に ついで ついで 元の (始めの) 布の無いよおな 破れてくと (いくと) さいご (その時) 他のツギ 持て来て 当てて そすと (そうすると) 又 その次の破れて もとの布な (が) 無いよおん (に) なるまで ツギおつたね (ついでいたのです)。まあ 物が無いもんで (ので) ツギハンデなあ (つぎはぎして)。こげなの (こんなの) おらに (私に) 着せおったのかい (着せて居たのか) 言うて、倉の二階に 入れてあんの (あるの) 出してくと (出して来ると) 着やななあ (着なければ) まだ みいな (肌が) 見えとらん (見えてない) だけな (が) ええんやれ (いいのだ) 言うて。

つぎ (次) 【名詞】 少し劣るさま ツギなにげ (人間) 2) 二番目

つきあい(つきあひ)(付合)【名詞】交際 [会話]
交際する事を ツキアイや(だ)言うてなあ、人ヅ
キアイ。人ヅキアイな(の) ええ(いい) とか、わ
り(悪い) とかなあ。ものすごお(ものすごく) し
たし(親しい) 人は 親類ヅキアイなあ、他人でも
親しいすんの(するのを)。まあ 親戚ヅキアイし
とんね(しているのです) 言うやんな(言うでしょ
う) あんまり 親しい人らは。あの家は わしら
(私) 親戚ヅキアイしとんねわい(しているのだ
す) 言うてなあ。

つきあいせん 交際しない、絶交。(鳥(坂手))

つきあう(つきあふ)(付合)【自ワ五】交際する

つきあげる(突上)【自ガ下一】吐き気をもよおす。
吐きそうになる。

つきあたり(突当)【名詞】1) 突き当たる所。行き止
まり 2) 行きつまる事

つぎあて(継当)【名詞】衣服などの破れを直すこと
又、そこに当てる布 [会話] きもん(着物)
の 破れ そくらう(修理する) のおを(のを)、
しきし(布) 当てる言うのをな ツギアテな(なけ
れば) はざんわれ(いけない)、そや(それ) 破れ
とて(ていて) おっきなつてかん(大きくならな
い) うちん(間に) 言うてな。今しの(今の) にぎ
や(人間は) しきし おかな(なければ) はざんな
あ(いけない) 言うて きれ(布) 当てん(る) の
を、昔の人ら、そやれ(それ) そんな(それが) 破
れてかん(ていかない) うちん ツギアテ とかな
(ておかなければ) はざんわれ 言うてなあ。

つきあるく(付歩)【自力五】まどわりつく いつも
ついている(南) [会話] あとい(後へ) 追わえて、
来るもな(者は) ほん(本当に) しりづきで まあ
言うてなあ。何処い(へ) でも 尻い(へ) ツキア
ルイテ しりづきでまあ言うて。そすと(すると)
さへじな(が) 付いた くらいやなあ(だ) 言うて。
さへじな じっきん(すぐに) ついてくんで(来
るので) 言うて。さへじ言う と 鯨の子 ちっちゃ
あい(小さい) のな(が) 追わえやあるいて(て)
くんねてや(来るのです)。ちっちゃあい ねけど
(のだが) 尻い(へ) ツキアルイテ そやもんで
(それで) にげ(人間) でもなあ あとい(後へ)
追わえて来るとなあ さへじな(が) ついて 来た
よお 言うて。

つきあわん 交際しない 絶交(鳥(答志)) [会話]
ツキアワン言う と つきやいを しやせんね(しな

いのです)。交際しやせん(しない) 言う と、あや
(彼は) まあ 変わりもん(者) やもんで(だか
ら) つきやい しやせんね、あれと(彼と) なかな
か つきやい な(が) しのくいんてや(しぬくい
のです) 言うてな。ちよいと(すこし) へんてこな
こむつかし(むつかしい) 事言うにげ(人間) や
(は)、あれ(彼) とは つきやい な(が) しの
くいんてや 言うて。

つぎいと(継糸)【名詞】裁縫するのに用いる糸 [会
話] 普通の 木綿糸の事を ツギイト 言うんや
ろなあ(言うのでしょうか) つぎする(裁縫する) 言
うてなあ 裁縫する言わんとなあ(言わずに)。

つぎきれ【名詞】着物の綻びに当てる布(志(鶴方)、
鳥、南) [会話] ツギキレも無いね(のだ) 言うて、
ちよいと(少し) したのおでもな(のでも) 皆 お
いとくねてや(残しておくのです)。ともつぎやの
ん(のに) しきし 当てんのん(るのに) 言うて
しきし 当てよおったもんで(当てて居たので) ちょ
いと ぼら(穴) な(が) あいてても(あいていつ
ても) しきし 当てな(なければ) はざんわれ(駄
目だ) 言うて、その きれ(布) を 使うもんで
(ので)。着るもん(物) こさえて(作って) とも
ぎれを ちっちゃあい(小さい) のでも 皆 とつ
ときよおったね(残しておいたのです) ツギキレも
無いねない(ないのだ) 言うてな、なんやかや(い
ろいろ) そそくって(そくらって) くれまあ(下さ
い) 言う と、其処ら探しても おおた のぎや(お
前の家は) ツギキレも ないねなあ(無いのだ) 言
うて

つきくだし【名詞】1) 天井裏、屋根裏の傾斜 2)
傾斜になって居る所。[会話] 1) ツキクダシ。二
階へ上がると 頭うちやよおったね(壊しました)
ひらもん(梁) で頭打って。

つきじり(月尻) つきずえ(月末)【名詞】月の終り
の頃 月末 下旬 つきがしら(月頭) に対する語。
[会話] 月の終わりの事を ツギズエ 言うんなあ
(言うのです)。一番始まりは 月初め言うし 真
ん中は 月中や(だ) 言うたしなあ、終りは ツキ
ズエ。いなん(不要な) 嫁なら ツギズエン(に)
言うてなあ 昔なら 霜月か 八月か にながつ
(二月) か 嫁貰う時は しょんがつ(正月) か。
そして 他の時や(は) よけ(多く) せらつたの
(しなかったのです)、そいといて(そうして) し
よんがつ まあなあ 潜ってくけど(いくけど) 早

よ（早く）せな（しなければ）はざん（いけない）
言う時や（は）まあ ツギズエン（に）なっても
樽入れ（結納）しょおや（しましよう）とか 言う
やんない（言うでしょう）。そと（そうすると）
いなん（不要の）嫁なら ツギズエン（に）言うて
ツギズエン（に）すると 嫌いおった（嫌っていました）。欲しいて（欲しくて）その月のうちにした
ろ（してやろう）言うとんねけど（言っているのだ
が）、くれる方は ツギズエン（に）すると そす
とさいご（その時）べつん（特別に）いなん よお
ん（ように）。書き出して（選んで）これでも言う
てまあ そのでも な（が）家の嫁な（に）なって
くね（行くのです）。あれやこれや 言うて選んど
ると（選んでいると）ツギズエン（に）なってくね。
そげな（そんな）時ん（に）その嫁な（が）いらん
でも（いらなくても）これでも もおとくか（もら
っておくか）言うよおな話して 樽入れすると、そ
やもんで（それで）その月末は いなん嫁 言うて、
もらう家は ええんけど（いいが）、くれる家は
娘に 値打ちな（が）無い 言うて 嫌うわい（嫌
います）。白紙一枚 書き出して あれこれ言うて
しても 嫁がのおて（無くて）これでも書いといて
（書いておいて）見よまあ（見なさい）言うて
“でも”言うて 書いといたのおが（書いておいた
のが）我が家の 嫁になった。

つぎする 裁縫する つぎ参照（志（船越、甲賀、鶴
方））

つきたくる 激しく突く 何回も突く（上、阿）〔会
話〕 おおた ツキタクッテ おこした（よこし
た）言うてな。ぎゅうと 突き出したと（てやる
と）、ひょろけてくね（て行くのです）。おおた 突
き倒して おこして（よこして）ひょろけてたない
（ていった）言うて 突きとばす 言う人 も有る
しな。

つきたくる 非常に幸運に恵まれる 〔会話〕 あのひ
た（人）運な（が）ツキタクッテ（ていて）あや
れ（あれ）まあ 梶 横ん（に）さしとても（差し
ていても）通る じき（時）やなあ（だ）言うて、
とんとんと 商売も おおたり（合ったり）、行く
と 大漁してくんなあ（来る）言うたりする家を
あの家や（は）まあな 運な 登りきとて（てい
て）梶 横ん（に）さしとても 通られ（通る）
言うて。

つきだし【名詞】 庇（南）

つぎたし（継足）【名詞】 増築 建て増し 〔会話〕
ツギタスななあ（のは）、ツギタシ せな（しなけ
れば）。家でも 柱でも ツギタス。短いと ツギ
タスやろ（でしよう）。家でも 一間（ヒトマー部
屋）ツギタシた 言うて 今し（今）で 言うと
増築やなあ（です）。昔や（は）ツギタシ言いお
った（言っていました）。そんで（それで）柱でも
短いのおは（のは）ツギタシテ 柱も ツギタシテ
あんなあ（あります）こやれ（これ）言うて。何で
も つなげんのを（継げるのを）ツギタス言うて
つなげる事を。

つきたらず（月不足）【名詞】 早産児 胎児が十カ月
に満たないで生まれる事 又、生まれた子供 〔会
話〕 とつき（十ヶ月）持たな（持たなければ）は
ざんのおを（いけないのを）やつき（八カ月）で出
て来ると ツキタラズの子や（だ）言うて。昔や
（は）言いおったなあ（言っていました）。やつき
ご（八ヶ月児）は育つけど ここのつき（九カ月
児）では 育だたせん（育たない）。あんで（あれ
で）九つ 言うのがわりもんで（悪いので）“く”
言うのが わりもんで 言いおったんかいなあ（言
って居たのでしょうか）。昔や（は）ここのつき
ごやよってん（九カ月児だから）言うて、嫌いお
ったん（嫌っていました）死んでくとさいご（死んで
いくとその時）あやなあ（あの子は）ここのつき児
やもんなあ（だから）言うて。この頃 初児な
（が）ツキタラズで よれやけど（沢山だが）。

つきづきのもん【名詞】 月経（志（布施田））

つきて（突手）【名詞】 鉾を持って漁をする人 〔会
話〕 しますの すくむ（隠れる）島の下は、そこ
へばつか（ばかり）入るのなあ。ツキテの人ら
（達）に言うたると（言ってやると）、その人ら
来て そこを あじろ（漁場）にして

つきて（搦手）【名詞】 餅などを搗く人

つぎて（継手）【名詞】 二つの物を継ぎ合わせた所。
継ぎ合わせる物。

つきてざわ【名詞】 魚を突く鉾につける竿 〔会話〕
突き手（魚を突く職業の人）の さわ（竿）をなあ、
ツキテザワ。つきての 持つ なあがい（長い）の
おを。（のを）。

つきなか（月半）【名詞】 一か月の中頃 中旬 つき
じり参照 〔会話〕 一番始まり（始め）は 月初め
言うし、真ん中は ツキナカや（と）言うし 終り
は月末

つぎなにげ【次人間】【名詞】馬鹿 少し馬鹿な人
[会話] ちよいと (少し) ましやなあ (だなあ) 言うて。ツギナニゲと、賢いのおと (のと) すると (比べると) ちよいと ましやなあ。

つきのかさ【月暈】【名詞】薄曇りの日に月の周囲に生じた光の輪。

つきのさわり【名詞】月経 [会話] おなごらな (女達は) ツキノサワリん (に) になると、汚がれるやんない (でしょう)。そやもんで (それだから) 常 (普段) の ひい (日) は 神さんに 炊いたもん (物) しやせん (しません)。

つきのなぬかにたびだちすとも、かえるまいぞえここぬかに【俚諺】

つきのなのかにたびだちすとも、かえるまいぞえここのかに

つきのなぬかにたびだちすとも、かえろまいぞやここのかに

つきのなのかにたびだちすとも、かえろまいぞやここのかに 月の七日に旅立ちすとも、帰るまえぞえ九日に旅立ちの戒。七、九を忌む事からか。

つきのもん【名詞】月経 (鳥 (答志)、員)

つぎのもん【名詞】1) 馬鹿、つぎなにげ参照 2) 順序が次の人。

つきのよ【月夜】【名詞】満月を中心に前後一週間、伊勢海老漁をしない期間

つぎはぎ【継接】【名詞】衣服などにつぎが沢山当たっている事 ハギ (接) はハギ (矧) より移った語。(大言海) [会話] ツギハンダ (いだ) きもん (着物) 着て 言うて。あっちゃ (あちら) つぎ、こっちゃ (こちら) つぎして いくとこも (幾箇所も) ツギハん (い) で まあ こしらえたよお (作りました) 言うて、一反で 二枚 こさえたや (作ったら) こや (これは) ツギハンダだよ 言うて

つぎはぐ【継接】【他ガ五】衣服などの破れに当て布を当てて修理する [会話] 元の布な (が) 無いよおん (ように) なるまで、つぎおったね (ついで居たのです) 物な (が) 無いもんで (もので) ツギハンデ。

つぎばこ【継箱】【名詞】1) 針箱 裁縫箱 2) 裁縫の布などを入れる籠 [会話] 1) ツギバコ言うな (のは) 裁縫箱。ツギバコ 持て (持って) 来い言うて。

つきはじめ【月初】【名詞】月の初め 初旬 つきじり参照 [会話] ツキハジメ 一番始まり (最初)

は ツキハジメ 言うし、真ん中は月なか 終りは月末

つぎはんぷ【継半分】沢山のつぎ (当て布) の当たっていること [会話] もつぱ みたよな (ようだ) 言うて、ツギハンぷ、つんではんだ (つぎはぎした) 着もん (着物)。

つきまくる【他ラ五】1) いつも後に付いていているまわりついている 2) 幸運に恵まれている。[会話] 1) いつでも うろうろと ついとると (ていとうと) おんな (俺の) 何処い (へ) でも ツキマクッテ 来て 言うてな、人の 行く とこい (所に) おわえて (追って) くんのを (来るのを) ま 行く先 ついて来て 言うてな。

つきまくる 激しく突く。何回も突く。[会話] ツキマクッタレ (てやれ) 言うて、そやれ (それ) そこん (そこに) 猫な (が) おられ (居る) ツキマクッタレ とか、あや 狸な (が) 来たれ (来た) そや (それ) 棒もてて (持って行った) ツキマクットイテ (ておいて) 来いとか 言うてなあ。ツキマクル言うな (のは) いっしょけんめ (一生懸命) 突き倒したれ (てやれ) 言うたり ツキマクレ 言うたり ツキマクッタレ とか。

つきまくれ 激しく突いてやれ 幾回でも突け [会話] いっしょけんめ (一生懸命) で、突き倒したれ (てやれ) 言うたり、ツキマクレ 言うたりな

つきみそお【つきみさう】【名詞】待宵草 アカバナ科の越年草、高さ 0.6~1m 全体に短毛を散布。葉は線上被針形で縁に、まばらな歯牙が有る。5~8月、葉腋ごとに黄色の四弁花が咲く。(志、鳥、伊)

つぎめ【継目】【名詞】物と物とがつなぎ合わせた所 つなぎめ つなげめ [会話] ツギメな (が) 判らんよん (ように) せな (しなければ) はざん (いけない) 言うて。きい (木) でも 大工の人ら 上手ん (に) つんでなあ (ついで)、糊で したると (してやると) つんだ (継いだ) ツギメな (が) 判らん よん (ように) 上手に するやんかい (します)。そすと (すると) 裁縫でも こまこお (小さく) 縫うて わりつぎして 鏝で ならして したると (してやると) ツギメな (が) 判らせん (ない) よん 上手ん (に) つんで あんなあ (有る) 言うて。

つきもん【憑物】【名詞】人について害をすることを考える動物の霊 これに取り付かれると精神に異常

を来すと言われる。[会話] ツキモンな (が) 来と
んねてない (来ているのうだ) 言うて。狐な (が)
よお (よく) 憑きおったのなあ (憑いて居ました)。
昔や (は) くだぎつね言うて くだ使う 言うて、
稲荷さん奉ったり しとると (していると) そのく
だな 乗り移って そんな (それが) 憑くと ツキ
モンな (が) した 言うて、おかしげな (変な) 事
してくんねてや (して来るのです)。狐みたいん
(に) 跳び歩いたり、顔も めえ (目) も 引きつ
って来んのなあ (来るのです)。ツキモンな (が)
すると ときつくって ものおこり な (が) して
来んね (来るのです)。時作る言うななあ (言うの
は) 三時なら三時 四時なら四時になあ 時間つく
って (定めて) ものおこり な (が) して来んね。
さぶけ (悪寒) や あつけ (発熱) や。今日も 三
時頃ん (に) して来ると 明日も その時期 (時
間) になるとしてくんのなあ (来るのです)、そい
なの (そんなのを) 時つくる 言うのんなあ。

つきもん (付物) 【名詞】 或る物事に必ず付いて居る
物事。

つきや (搗屋) 【名詞】 穀類を搗くのを業としている
家 又、その人 [会話] ツキヤえ 麦搗きや (で
す)。昔や (は) ツキヤな (が) はやったけど
(が) 今しや (今は) ツキヤも しやせんけど (し
ないが)、米や、麦や、とびきや 粟や 言うて
皆 搗いて 貰よった (貰いました)。わがとら
な (自分達が) 搗くと三人も よつたり (四人) も
かかって 唐臼で どたん ばたん 言うて せな
はざん (しなければならぬ)。ツキヤいもてきや
(持って行けば) ことことと しや (すれば) ま
あ じっぱん (立派に) おらして (こなして) 来る
けど、わがとらな すると、おおた こや (これ
は) 搗いたのおな (のが) まずいなあ 言うて、麦
でも 禰な (が) 取れんと おんない (居る) 言う
て。そやけど (しかし) ツキヤい (に) もてくと
(持って行くと) じっぱん (立派に) 禰も取って
おこしてなあ、おおた こげん (こんなに) じっぱ
ん なんのんなあ (なるのに) 言よったわい (言
っていました)。

つきやあるく。つきやあるく (付歩) 【自力五】 人の
後ろからついて歩く つきまとう まとわりつく
ほつつきあるく 参照 [会話] 男らな (達が) あ
のおなご (女) ええ (よい) 思うと、ツキヤアルク
やんない (でしょう)。

つきやい 【名詞】 交際 つきあい参照 [会話] あの
家と ツキヤイしてもろて (貰って) とかなあ、交
際する言うの。ツキヤイする言うんなあ (言うので
す)。行たり来たりしてまあ なんやかや (いろい
ろ) やったり 取ったりしとんね (しているのだ)
言うのをな、ツキヤイしとる (している)。

つきやいのくい 交際するのが困難である [会話]
にげ (人間) でも、あやまあ (彼は) ほん (本当
に) しぬくい (難しい) 人やなあ (だ) 言うてな、
ツキヤイノクイ人をなあ。

つきやう 【自動詞】 つきあう 交際する [会話] え
え (よい) にげ (人間) でも、わり (悪い) にげ
と ツキヤウと、そすと わり (悪い) にげと
うなし (同じ) よん (ように) なつてくのなあ (な
って行くのです) 朱に交われれば 赤くなる 言うて。

つきやがる 【自ラ五】 つけ上がる。調子に乗る。図に
乗る。(志 (布施田))

つきやく (月役) 【名詞】 月経 (鳥、員、津、松、多、
度、伊) [会話] おなご (女) の ツキヤク、月ん
(に) 一度。月経の事 かりや や (月経だ) 言う
て。かりやん なって 言うて、ひいなわりなつて
(火が悪くなって) 言うて。かりやん (に) なる
ひい (日) な (が) 来ると、ひどきな (が) わりん
よお (悪いのです) 丁度そのひい (日) は 言うて

つきやげる 【自ガ下一】 突きあげる 吐き気や、押さ
えきれない感情で胸一杯になる [会話] 吐きそう
になる、むなさき (上腹部) い (に) ツキヤゲル。

つきやま (築山) 【名詞】 庭園 庭 造園している庭
庭に土や岩石を置き築いた小さな山。(志 (布施田、
片田、甲賀)、尾、南、熊) [会話] ツキヤマ 庭
の事をなあ、ツキヤマ 言うの。家 庭先い (に)
きい (木) 植えたり、花作ったり 今し (今) の盆
栽みたいん (に) するやんない (でしょう)。それ
を ツキヤマな (が) 有って 言いおったなあ (言
っていました)。普通の庭やなしん (でなくて) 広
い庭いなあ (へ) なんか (何か) 植えると ツキヤ
マ 言う。花とか木とか 植えると、じっぱなのお
や (立派なのでは) 無いけど、わがとらな (自分達
が) こや (これは) ええなあ (いい) 思て (思っ
て) 持て (持って) 来て、庭の隅い (に) 植えた
りすると、ツキヤマ こさえて (作って) 言うてな
あ。

つきよたる 交際してやる。仲間に入れる。

つきよたれ 仲間に入れてやれ。交際してやれ。仲好

くしなさい。

つきよとる 交際している

つきんば【名詞】漁をするのに銚で魚を捕る人 突棒
(志(布施田)) [会話] あや(彼は) 今し(今)
ツキンボ しとる(している)。突きん(に) いた
り(行ったり) 鮑 採って来て こそ売り(内緒で
売る) しとる。

つく(突)(吐)【自カ五】1) 吐く 胸につく 吐き
出す 2) 押す 車ツク 3) 驚く 4) 言う。嘘
ツク [会話] 1) 胸を つきやげて(突き上げ
て) 来る言うのな、むなぐるし(胸苦しく) なって
くんのを(くるのを) 胸ツク 言うのあ。あげな
(あんな) 事言われて おら(俺は) 胸にツイタ、
肝ツイタ言うて びっくりした時ん(に) 肝ツイタ
よお 言うて、おどけて(驚いて) ものすごお(も
のすごく) おどけた 時ん(に)、あの子見とたら
(見ていたら) あそこから 落つくよおん(落ち
て行くように) しとて(していて) 肝つぶしたない
(つぶしました) 言うて、肝ツイタとか つぶした
とか びっくりする事なあ。

つく【自カ五】漬く 浸く 1) 漬け物が熟成して丁
度食べ頃になる 2) 湯水に浸る 3) 大水が押し
寄せて浸水する (一) [会話] 3) 水な ツク
言うて、水で浸る言うのを、川裾な(が) つまる
もんで(ので) 水な(が) ツイテキテ 言うて。大
雨な(が) 降ると また 水な(が) ツクよって
(ので) あらけとけよお(片付けておけ) 言うて。

つく【名詞】櫓の腕の部にある早緒をかける突起(南、
熊) [会話] どお(櫓)のツク。つかめんのをなあ
(掴まえるのを)、ツクな(が) 抜けてた(ていつ
た) 言うて、下手なもんな(者が) 突くと ツク
ばっか(ばかり) あてん(に) して するもんで
(ので) じっきん(すぐに) がたがたん(に) した
て(してしまつて) 慣れて来ると どお(櫓)の腕
もかけて 根元 つかめる(掴まえる) もんで(の
で) ツクな(が) いごかせんねけどな(動かないの
だが)、素人は ツクだけ しとる(している) も
んで じっきん ツク動かしたてなあ(してしまつ
て)、ツク抜いたよお 言よおったわい(言ってい
ました)。

つぐ(継)【自ガ五】1) 破れた所を修理する 縫う
つぎ参照(志(片田 布施田)) 2) 飯、茶、酒な
どを容器に盛る 注ぐ

づく(ずく)(尽)【名詞】沢山有るさま 美味しいも

んのづくや。づくめの略か。

づく【名詞】→ ずく 根性 性格

づくし【名詞】→ ずくし 熟柿

つくつく【副詞】真っ直ぐによく伸びているさまを表
す [会話] あらめ わけて(掻き分けて) 入って
て(行つて) 見回すと、榮螺な(が) ツクツクしと
んのおで(しているので) はりやいな(張り合い)
よかつた。

つくつくしとる 上に沢山ある 真っ直ぐによく伸び
て居る。[会話] 鳴神い いたや(行つたら)、ま
あ さざえ(榮螺) な(が) ツクツクシトテ(して
いて) 言うて。 さざえ な(が) せえ(瀬) に
よっけ(沢山) 有ると 上ん(に) 据わつとんのを
(ているのを) ツクツクシトル言うて。 さざえ な
(が) ツクツクシテ よけ(沢山) おつとんねよお
(落ちているのだ) 言うて。いそもんやどけ(など
も) 拾いん(に) いても(行つても) いそもんな
(が) ツクツク おつとて(落ちていて) よけ(沢
山) 拾ろたよお(拾つた) 言うて。 よけ あんの
(あるのを) 上ん(に) 据わつとんのをなあ(てい
るのを) ツクツクシトル 言うの。底ん(に) 隠れ
とんのは(ているのは) 言わせんけど(言わない
が)、上ん(に) ひよいひよい 据つとるわい(て
います) さざえは、そすと はたくら(側) ん
(に) おんのも(居るのも) 有るけどなあ(が) ツ
クツク 上ん(に) 据わつとんの(ているのです)
あらとこ(新しい所) は 誰も 拾ろたらん(てや
らない) うちゃなあ(間は)。

つくつくぼおし(つくつくぼうし、つくつくぼふし)

【名詞】つくつく法師 蟬の一種 筑紫恋し セミ
科の昆虫、羽根を含めて体長4～5cmの細形のセ
ミ、体は暗黄緑色で黒斑が有る。はねは透明。(桑
郡、桑市、員、三、鈴市、多、松、上、阿、尾、
南) [会話] ツクツクボオシ つつくんよお 蟬の
ちっちゃいのな(小さいのです)。ちっちゃいのな
(小さいのが) 鳴くね(鳴きます) ツクツクボオシ
な(が)。

つくつて 化粧して。盛装して。

つぐない(つくなひ)(償)【名詞】1) 報酬。返礼。
つぐのい参照 2) 仕返し

つぐなう(つぐなふ)【他ワ五】1) うめ合わせる。
返礼する。2) 仕返しする。

つくなる(蹲) しゃがむ うずくまる 屈む へたば
る(志(浜島、鶴方、神明、国府、安乗、甲賀)、

鳥（鳥羽）、桑市、尾、北）〔会話〕 ツクナル 言うてな。ねぶとおて（眠たくて）ねぶり（眠むり）こけて ツクネテタ（ていった）言うてな。ねぶつとてなあ（眠ていて）そして こげんして してくやんない（していくでしょう）まあ ねぶりこけて、ツクネトンネ（ているのだ）言うてなあ、酒ん（に）よおて（酔って）まあ ツクネトンネ（てい）言うて、転ろんどるとなあ（でいると）ツクナル 言うてな。

づくなわり → ずくなわり

つくねいも（**握芋**）【名詞】山の芋の栽培品種 その形がツクネタ様にして居るから。芋は径約 20 cm の不規則な塊状 成分は濃厚で粘りが強い（上、阿）〔会話〕 ながいも（長芋）は なあごお（長く）なるし、ツクネイモは まるくとお（丸く）なって きりよおな（が）わりんてや（悪いのです）。まるくとお なった うい（に）どいろお（大きく）なんね（なるのです）けど（が）、いかついん（抵抗が有る）けど（が）、ほって（捨てて）有っても、らいね（来年）植えるよん（ように）なってもなあ じっぱん（立派に）しとるけど（しているが）なあがい（長い）いまな（芋は）じっくん 腐ってくのでなあ（て行くので）種 置くのん（に）難儀すんね（するのです）。

つくねてかれ 座り込んでしまう 転ぶであろう〔会話〕 酔おて ぐれんそおんなってくと（泥酔して行くと）あやま ツクネテカレ 言うてな つくねる 手前を。

つくねてた しゃがみこんだ〔会話〕 ツクネテタ言うて、転んどると（でいると）言うし。まあ よおて（酔って）ツクネテよお（ます）言う時も 有るしなあ。そして ツクネトル（ている）時や（は）ツクネトラレ（ている）言うし、酔おて ぐれんそお（泥酔状態）ん（に）なって あやま ツクネテタ 言うて。

つくねとる 1）乱雑に押し込んで居る。積み上げている。2）元気無く、しおれて居る。（志（布施田））3）泥酔して、つぶれて居る つくねてた参照

つくねる（**捏**）【他ナ下一】乱雑に積み重ねる 整理せずに積み上げる 何もかも一緒くたにする（志（浜島）、鳥（鳥羽）、張）

つくねる 1）座り込む 力が入らなくてしゃがみ込む（鳥、熊）2）酔いつぶれて居る〔会話〕 1）

ツクネル。ツクネトラント（ていないで）寝やんかれ（寝なさい）言うて。そこらい（に）うつぶいて（俯いて）しとんのおを（しているのを）ツクネル。
2）酒 飲んで ツクネトタ（ていた）てやら（とか）。歩いとても（歩いていても）ぐたぐたと してくのも（していくのも）ツクネル言うし、酒 呑んで そこら うつぶいとると（倒れていると）あや（彼は）酒 呑んで ツクネトラレ（ている）言う。

つぐのい（つぐのひ）（**償**）【名詞】財貨や労働によって相手に与えた損失、過ちを埋め合わせる事 つぐない〔会話〕 ツグノイ せな（しなければ）はざんわれ（いけない）言うてな、なんやかや（いろいろ）してもろた（貰った）、そすと、そのれえ（札）に言う事をなあ。その ツグノイに まあ、わしや（私は）こげんするわい（こんなにします）言うてなあ、なんやかや してもろた 返しすんの（を（するのを））つぐないする言うてな。償い言う人と ツグノイ言う人とあんね（有るのです）。

つくばる（**蹲**）【自ラ五】1）しゃがみ込む うずくまる（志（布施田、神明、立神、国府）、桑市、松、張、北、尾、南、熊）2）突っ張る。意地を張る。（上、阿）

つくばる【動詞】しゃがみ込む しゃがむ かがむ つくばるの訛 つくねる参照（志（布施田）、桑市、員、鈴市、安、津、多、上、阿、張、名、伊、南、熊）〔会話〕 ツクボル言うな（のは）しょづくなると（膝を曲げて屈むと）ツクボル言うて、しょづくなつとる（なっている）とか、ツクボルとか、こや（これは）一緒や（です）。ツクボル言うななあ（のは）倒れてく（ていく）、くたばってくの（いくのを）つくねてた（ていった）言うて。

つぐむ（**噤**）【他マ五】閉じる 黙る〔会話〕 口、つぶっとけ 言うけどなあ（言います）。口、言わんよん（言わないように）口 ツグム。

つぐめ【名詞】小鳥 つぐみ ツグミ科の鳥 全長 23 cm 内外 体の上面は大体茶褐色で、下面は黄白色の地に黒褐色の斑点が有る 顔は黄白色で目の部分は顕著な黒いすじが走る 嘴の先端は僅かに下方に曲がる（志）〔会話〕 ツグメ 言うな（のは）釣りに行くやんかい（でしょう）。ツグメツリ 言うて 男の子らな（子達が）ツグメナガノ（延べ縄）茶園のとこ（所）はえんくんね（置きに来るのです）。めめず（みみず）の ちっちゃいの（小さ

いの) 掘って 釣り (釣針) をつけて 糸 隠して 餌だけ 茶園のとこ (所) へ こおしてなあ (出して)、こや (これは) ツグメナガノ はえてあんね よお (あるのだ) 言うて。ながのや (だ) 言うて はえん くんねてや (来るのです) そいらな (その者が)。茶園のとこ (所) へ、テグスばな (を) 土で埋めといて (ておいて) めめずの ほっそい (細い) の それへ 付けて そして 餌だけ出しとく と (ておくと) ツグメな (が) それ くわえると 朝ん (に) になると かかってとんねてわなあ (かかっているのだそうです)。ツグメな (が) かかつとんねよお (かかっているのだ) 言うて 取て (取って) 来る時な (が) 有りおった わい (ありました)。子ららな (子供達が) わがとら (自分達が) がっこ (学校) いて (行つて) おらへんし (いないし)、朝ん (に) になると かかって、よさ (夜) ん (に) になると はえん くんねやんかい (来るのです)。そしといて (そうしておいて) わがとら (自分達は) がっこ いたると (行ってしまうと) ばたばたと 畑で ほろろうとる (羽ばたきしている) 時な (が) あるわい (あります)。忘れたて (忘れてしまって) 取りん来やせんねどお (に出来ないのだぞ) 言うて。茶園 ちゃあ (茶) ななあ はえとんの おを (ているのは) 茶園や 茶園畑 言う。

つぐめつり【名詞】 つぐみを捕まえる方法。つぐめ参照

つぐめながの【名詞】 つぐみを捕まえるため道糸に多くの釣針をつけた道具 つぐめ参照

つくらいもん 修理すべきもの つくろいもん

つくらう(繕)【他ハ五】 1) 壊れたり傷んだりしたものを修理する 2) 手を加えて見た目をよくする 着物の乱れを整えたり化粧したりする 3) 焚火に、薪を加えたり、整えたりする [会話] 1) なんやかや (いろいろ) 拵える時ん (に) ツクラウ言うて。 3) 割木 (薪) 焚くと 割木 ツクロトケ (ておけ) 言うてな。 ひい (火) 燃やすのん (のに) 上手ん ツクラエまあ けぶたい (けむい) のん (のに) 言うてな、補充する時に、ツクラウ、ツクラエ 言うてな。

つくり(作、造)【名詞】 1) 魚の刺身 作り身 魚の切り身 つくり 作り 造り 物を作る事 (志(鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鈴市、安、上、阿、張、名、北、南) 2) 作った具合 よそおい 身なり からだつき、体格 3) 耕

作すること (津) 4) 化粧する。飾る。[会話] 1) ツクリミ 刺身の事、3) 畑を作る 作り手 言うて、作る人を。畑つくったんか (作ったのですか) 言うて、百姓 しとんねなあ (しているのだ) 言うのを、畑 作とんねなあ 言う。ツクル 刺身つくる 草履 ツクルとかなあ なんか (なにか) こしらえる (作る) 事を ツクル。2) 化粧すんのも (するの) 顔 ツクンノ、まえのき (眉毛) 作てもらいん (に) いたんよお (行った) 言 い おったやんかい (言つて居たで有りませんか)。 まえのき をなあ 剃てもらうのに 下も 剃て 上も剃て すんのを (するの)、まえのき ツクル 言うて。刺身も ツクリ 持て (持って) 来い 言うやんかい (言います) 刺身の事。

つくりえがお【名詞】 面白くないのに 相手を喜ばすためにする笑顔 つくりわらい [会話] 笑いた (たく) ないのを、にしょつと 笑うのなあ、ツクリエガオしてまあ 言うて

つくりが(つくりがほ)【作顔】【名詞】 おもしろくないのに わざと笑ふこと つくりわらい

つくりごえ【作声】【名詞】 生まれつきでない 粧った声。ねこなで声。

つくりごと【作事、作言】【名詞】 ない事があるように作り立てる事 又、その言葉や事柄。こしらえ事 嘘事 [会話] 嘘 言う事を ツクリゴト 言うて。無い事を まあ わがと (自分が) 作て、今日は まあなあ 仕事な (が) 有て どこそこ い (へ) いたね (行ったのだ) 言うて、いかんとおつてなあ (行かないでいて) 嘘 言うのを ツクリゴト 言うて。あや ツクリゴトやどお (だぞ) 言うて、言う事な (が) 有るやんない (有るでしょう)。 ほんとや (本当) 無い事を 言うとな あや (あれば) ツクリゴトやどお 言うてな。

つくりたて【作立】 作ったばかりで間の無い事。

つくりづち【作り土】【名詞】 畑の表面の耕作に適した土 (志) [会話] 畑の土をなあ 石をのけて (除いて) ちっさい (小さい) の (もの) ばっか (ばかり) を ツクリヅチや (だ) 言うてなあ、ここの ツクリヅチな (は) よお (よく) 沃えとて (沃えていて) 言うて、堆肥な (が) いとるな (十分に入っていると) ツクリヅチな (が) 沃えとるもんで (ているので) よお (よく) 出来て言うて、ツクリヅチな (が) 瘦せとるもんで なんも (何も) 出来やせん なあ (出来ない) 言う。土作る 百姓 しょお

思うと、物、作ろ（作ろう）思うと、こいな（こんな）地べた（地面）でもなあ 堆肥や土 寄せて、石や がら（がれき）は のけたて（除いて）細かい土だけ寄せて 畝 ん（に）して こや（これは）ツクリヅチな（が）なんも 無いけど そんでも（それでも）植える時や（は）沃やしゃなあ（せば）言うて、ちょいちょいつ（少しずつ）あんのを（あるのを）寄せて 植えて そいて（そして）又 ごみやとか（だとか）堆肥やって（与えて）沃やして ツクリヅチ 沃やさな（さなければ）なんも 出来やせんねわれ（出来ないのだ）。なんか 寄せて 堆肥しといて（しておいて）こしらえる（作る）時も 有るし、そんなりの（そのまま）とこ（所）あけとかんと（あけておかずに）ここへ なんでもうよ（植えよう）思うと、細かい土寄せて 堆肥と、きりよって（混ぜ合せて）植えときや（植えておけば）ええわれ（よろしい）言うて 土 こしゃえんのなあ（作ります）。

つくりて（作手）【名詞】 作人 作った人 [会話] 畑を ツクリテな（が）のおて（無くて）荒らしとんね（ているのだ）言うたり じょおり（草履）ツクリテな（が）のおて こおて（買って）履しとんね（ているのだ）言うてなあ、作人を ツクリテ 言うてなあ。

つくりなき（作泣）【名詞】 嘘泣き。悲しくないのに 泣く様をよそおう事。

つくりばなし（作話）【名詞】 無い事があるように作った話 嘘言 [会話] いろいろ 無い事、有ること、わがと（自分が）こしゃえて（作って）喋ってすんのを（するのを）、こさえ話して 言うて。こさえ話とか ツクリバナシとか

つくりみ（作身）【名詞】 刺身（志（片田、国府、甲賀）、鳥（相差 国崎 桃取）、南、熊）[会話] 刺身の事を ツクリミを こさえて（作って）言うて。

つくりもん（作物）【名詞】 1) 農作物 2) 刺身 [会話] 2) 刺身な（が）無いと ツクリモンな（が）のおてなあ（無くて）言う。1) 畑のツクリモン。芋や（だ）とか 麦や（だ）とか、ツクリモンな（が）今年や（は）わりいて（悪るくて）言う時も 有るしなあ。今し（今）の 若いもん（者）ツクリモン すんのな（するのが）下手で 言うね（言うのです）。

つくりやまい（つくりやまひ）（作病）【名詞】 1) 自分に原因が有る病気 原因を自分で作った病気

2) 仮病 [会話] 1) ツクリヤマイ こしゃえて（作って）言うて、こお（子）墮ろすのん（のに）しくじったて（失敗して）なが悪い（長い病気）しとると。（していると）。

つくりわらい（つくりわらひ）（作笑）【名詞】 おかしくないのにわざと笑う事 又、その笑い [会話] 笑い顔なあ、にしよっと 笑うの、笑いたないのを（たかないのを）にしよっと 笑うのを、ツクリワライ して 言うて。

つくる（作、造）【他ラ五】 1) 刺身にする 2) 粧う 化粧する（志（布施田）、上、阿）3) 耕作する 4) 子を産む。[会話] 2) まいのき刺ってもらうのん（のに）顔ツクッテ くれえ（下さい）言うて、まいのき（眉毛）ツクッテくれえ 言うたりな。1) 刺身 すんのん（するの）刺身 ツクル 言うてなあ。

つくろい（つくろひ）（繕）【名詞】 1) 衣服などの乱れを直す（身づくろい）姿 格好 2) 修理する 3) 女性が化粧する。[会話] 2) ツクロイもん（物）着物の破れ つくらう（修理する）のおも（のも）ツクロイ 言うし。ツクロイモン 言うて 昔や（は）つくらう人 頼んで しよおったん（して居ました）。

づぐろい【形容詞】 眞黒 [会話] ものすごい（大変）くうろおい（黒い）のおを（のを）ヅグロイなあ、どどぐろいなあ 言うて。色な（が）くうろおて（黒くて）あんまり 濃いのおを（のを）。色な（が）くうろい人 見ても あの人 見よ（見なさい）どどぐろい 言うて 地黒い（始めから黒い）とか どどぐろい とか 言うて。あんまり黒いとさいご（その時）。ヅグロイとかなあ。あの ひた（人は）黒がったい や（と）言うて、くうろいのなあ（黒いのを）黒がったいやなあ（だ）あの家や（は）。

つくろいもん（繕物）【名詞】 破損していて直す必要のあるもの [会話] ツクロイモン きもんの（着物の）破れ つくらうのうも（繕うのも）つくらう。

つくろう（つくろふ）（繕）【他ワ五】 1) 火がよく燃えるように薪を直す、補充する（志（布施田）、南）2) 修理する（志（布施田））3) 身だしなみを整える 化粧する [会話] 1) ひい（火）燃やしとる（燃やしている）時ん（に）、割木 ツクロウ 言うて、割木（丸太を割って薪にした物）焚くのを、はぎ（葉木葉の付いた小枝）ばっか（ばか

り) しとると (していると) ついとらな (ついていなければ) はざんよって (駄目だから) 言うて、割木 焚くのを くべん (くべる・焚く) のを ツクロウ 言うて。そして かまど将軍 言うて、割木 焚く時ん (に) しゅら (下に入れる台) に すんのん (するのを) 鉄のおな (のが) 真ん中ん (に) 横たわつたとよって (ていたから) それい (に) 割木をすると よお (よく) 燃えるもんで (ので)、べたっと したると (してやると) 燃えやせんやんない (燃えないでしょう)。 そやよって (それだから) 昔の人ら (達) しゅう (主) ときい (木) は 立てや (立てれば) 立てるほど ええ (よい) 言うて。主人を立てると ええやんない (よいでしょう)、きいも ペタンとしとると (していると) 火な (が) よけ (あまり) 立たせんし (立たないし) そして その将軍へ もたして (もたれさせて) 立てると よお (よく) 燃える 言うて そんで (それで) 昔や (は) しよおった (して居ました)。きいは立てや (立てれば) 立てるほど ええ 言うて、そや (それ) べたっと しとたや (していたら) 燃えやせんわれ (燃えない) けぶり (煙) ばっか (ばかり) で 言うて、火 あたと (暖をとると)。“けぶうり (煙) あっちゃい (あっちに) 行け ひのぼや (火登りは) こっちゃい (こっちに) 来い 言うて ちっちゃい (小さい) 時や (は) 言よおった (言って居た)。煙を手で けぶうり あっちゃい 行け ひのぼや こっちゃい 来い 言うて、けぶりは、こおしといて (こうしておいて・追い払って) 火の方を わが (自分の) いいな (に) 言うて。ぬきたい (暖かい) よってん (から) こやって (こうして) して 招くの。

つくろとく 1) 修理しておく 2) 火を焚く時薪を追加する。奥へ押し込む。

つくろとけ 1) 修理しておけ 2) 薪をくべておけ、補充しておけ

つけ (付) 【名詞】 1) 物品の売買を現金でせず 帳面 (かよい) に記入し後に一時に支払う売買の方法 (志 (鶴方)) 2) 1) を合計した勘定書 請求書 勘定書附の略 (大言海) 【会話】 2) 掛け取りな (が) ツケ 持て (持って) 来て、置いてときおったやんかい (置いて行きました)。 そや (それ) 掛け取りな (が) 来たかして (来たのか) ツケな (が) 置いてあられ (あります) 言うて。 そすとまあ (そうすると) こんだ (今度は) 又 来て ツケ

と 引き換えやけど (だが) よお払わんと (支払い出来ない) 又 あの気の毒なけど (だが) 二、三日 待つてくれえ (下さい) とか、明日 持てく (持って行く) とか言うて。昔や (は) 二十五日な (が) 過ぎると “掛け取り (鳥) 言う鳥な (が) 来んねよって (来るのだから) 野暮言う棒で かりまくったれ (かりたおしてやれ) 止まらせんと (止まらないように) 言よおった (言っていました)。そして 半年つうつで (づつで) 二十五日になると 二十五日迄は 行かせんねけど (行かないが) 二十五日になると 皆 掛け 取りに回りおった (居ました)。

つけ (告) 【名詞】 告げる事、知らせる事。死者の有る時に近所や親戚などに知らせに行く事 【会話】 神さんの、オツゲに 今日は、どこそこい (何処へ) 参いたらはざん (いけない)、何処い (へ) いたら (行ったら) はざん 言うて、ゆんべ (昨夜) 夢のツゲん (に) 有った 言うて、夢のツゲん (に) 有ったんてわれ 言うて (そうだ言うて)、夢見ると こげんして (こんなに) せえ (しなさい) 言うて 言うんやろなあ (言うのでしょう)。 わがとら (自分達) な (が) まあ それを信じて まつつたり (祀る事を) すんのなあ (するのです)。

つけあがる (付上) 【自ラ五】 相手の 寛大さにつけ込んで 増長する いい気分になって思いあがる 【会話】 ツキヤガッテ (つけあがって) 来て言うて。 あまい (甘い) あまい 言うと ツキヤガッテ来て まあ 言うて。あまい 言や (言えば) 親や おもて (思つて) ツキヤガッテ来て言うて、よお (よく) わるわれよおったんやんない (叱られて居たでしょう) あまい、あまい 言うて ツケアガル よってん (から) わるい (叱り) 殺し とかな (ておかなければ) はざんわれ (駄目だ) 言うてなあ

つけぎ (付木) 【名詞】 杉や桧の薄い木片の一端に硫黄を付けたもの 火を移し転ずるのに用いる (松、上、阿、張、名) 【会話】 ツケギ言うの。昔 波切から 絹売る婆や (だ) 言うて、じょおり (草履) 作る 絹や (だ) てやら (とか)、ツケギや (だ) マッチ持つて 婆さんな (が) 負いねて (背負つて) 売りんきよおつてなあ (来て居て) そや 波切のばあさんな (が) 来たら ツケギ こおとけよお (買っておきなさい) 言うてなあ、うっすうい (薄い) 板のさきん (に) えんしょ (煙硝) な (が) 青いのな 付いとんのやんかい (ているので

す)。その えんしょ ひい (火) い (に) すると、ひい (火) な (が) ついて、使い木ん (に) こまこ お (小さく) 切って 入れ箱な (が) ひい (火) 焚く横ん (に) 有ってなあ。それい (それに) 皆 さ いて (差して) 有よおったわい (有りました)。

つけぐすり (付薬) 【名詞】 皮膚に付ける薬 [会話] 阿呆につける くすや (薬は) 無い 言うたや (言ったら)、ツケグスリな (が) 無けな (れば) 飲む薬くれ (下さい) 言うて

つけぐち (告口) 密告。 人の隠事、過失などを他の人に密かに知らせる事。(志 (布施田))

つけごと (告事) 【名詞】 密告 (志 (神明、立神、志島、国府))

つけことば (附言葉) 【名詞】 例えにそれをつけて言う言葉 [会話] 融通な (が) きかん (きかない) な (のは) 小麦団子で、かっとおて (堅くて) 言うて、ツケコトバ 言うわい (言います)。

つけこむ (漬込) 【他五】 漬物を漬ける。

つけじる 【名詞】 麺類。テンブラなどを食べる時につける汁。

つけだき 【名詞】 付け焚 火を移し転じるための薄い木片の一端に硫黄を塗った物 付け木 (志 (鶴方片田 志島 浜島)、鳥 (坂手)、度、伊) [会話] ツケダキ。つけぎ 言うのを ツケダキ。うっすう (薄く) 切って あんのへ (あるのへ) えんしょ (煙硝) な (が) 先い (に) ちょいと (少し) 付けてあんのな (あるのが)、藁で からげて (束ねて) ○爺な (が) にのて (担って) 付け木なあ (です)。ぼろ (ぼろ布) やると、一わあつ (一束ずつ) 置いてたりして (いったりして) 替えん (に) 来よおったの (来て居たのです)。ツケダキ 言うのなあ。おき (燠・置火) な (が) あると 燠いし (といて (しておいて) ちゅうと マッチの代わりなあ。マッチや (は) 始め 火種な (が) のおても (なくても) つけられるけど 付け木や (は) 火種な (が) なけな (なければ) 出来やせん (出来ません)。

つけだけ 【名詞】 竹で作った火を付けるもの。つけだきに同じ

つけたし (付足) 【名詞】 主な物に対し、それに付け加えるもの [会話] ちょいと (少し) 言う言葉が中心になって それに ツケタシ言葉な (が) 有る。同じ 事やけど (だけど) 少し 言う事やけど (だけど)、それい (に) 言葉な (が) 付いとんね (付

いているのです)。ちょいとしたてくれ (してやって下さい) とか、ちょいとくれ (少し下さい) ちょいと来い とか ちょいとな (が) 中心や (です)。

つけだし (付出) 【名詞】 母屋などに仮屋根を付け足して作った簡単な部屋 [会話] 庇を さしかけ 言うの。さしかけ してもろて (貰って) 言うの (のを) 庇の事なあ。庇 出してもら言うのを、さしかけ してもろて 言うて、軒い (に) おおだれ みたよん (庇のように) して、ちょいと (少し) さしかけ してもらおやんかれ (もらいましょ) う 言うて、さしかけの事、ツケダシ や (と) 言う。

つけたす (付足) 【他サ五】 ある物の上にさらに付け加える 追加する

つけつけ 【副詞】 遠慮会釈なしに事を行なう事。図々しい。[会話] ツケツケと なんでも (何でも) 言うてとか、するとか、言うなあ。づけづけと なんでも 言う、遠慮せん と (せずに) どいな (どんな) 事でも 言うにげ (人間) を ツケツケ。あや遠慮せん と づけづけ入って来てなあ てやら (とか) づけづけ 言うたら (とか)。

づけづけ 【副詞】 遠慮会釈なく物を言ったりするさま [会話] ツケツケ言う 言うのかい (ですか)。なんでも 言いの (に) くい事 ツケツケ言うて、まあ お前家や (は) 誰それな (が) どおでなあ 言うて 言いの くい事でも はっきりと言う人をなあ。ツケツケと 言いの くい事も あの人 よお (よく) 言うてなあ 言うて、おた あの人 言いの くい事も ぼんぼん言うて ぼんぼんゆい やなあ (だ) 言うて、ツケツケ言う にげ (人間) をなあ。

つけつけいう。づけづけいう 遠慮しないで物事を言う。づけづけ参照熊、

つけとる 1) 着物を着ている。2) 船を接岸させている。3) 記入している。4) 食物をよそっている。5) 漬物をしている。

…**つけとる** 行い馴れて居る。(志 (布施田))

つけね (付け根) 【名詞】 1) 物と物とがくっついて いる根元の部分 2) 関節 (上、阿) [会話] 1) 煙管のツケネ やとか、(だとか) 2) 足のツケネや (だ) 言うて、いぬごもと (鼠蹊部) の ツケネな (が) 痛おて (痛くて) 言うやんかい (言うので有りませんか)。なんも (なにも) かも 根元を つな げて (つないで) あるもん (物) は つなげめ (つなぎめ) とか 言うてなあ。

つけび (付火) 【名詞】 故意に火を付けること 又それに依って起こる火事 放火 [会話] ツケビして言うて、しんぶんがみ ん (に) ひい (火) つけてほったり 油まいたり あいなの (あんなのを) ツケビ する言うて。

つけひば (附紐) 【名詞】 子供の着物の帯をする時に縫いつけておく紐。結んで其の上に帯をする。

つけまあす (附廻) 【名詞】 いつ迄も何処迄も後を追ふ。まわりつく。つけまわす。

つけめ (付目) 【名詞】 相手の弱点、自分の有利になるように利用出来る相手の欠点や隙。つけこみどころ [会話] こちらな (が) 難儀な事 あれ つけこんで まあ 言うて ツケメやなあ (だ) なんやか んや (色々) 因縁つけたりする事を ツケメして あや (あれ) 言うて。

つけめ (尽目) 【名詞】 最後 終わり [会話] あのひた (人は) 運のツケメや (だ) 言うて、よお (よく) 言うやんかい (言います)。運のツケメで あのうちや (家は) わり (悪く) なって来た 言うて、わり 事した後は 運のツケメな (が) くんど (来るぞ) 言うて 言うなあ。

つけめ (接目) 【名詞】 つないであるところ [会話] ツゲメな (が) 判らん言うて、つなげめ (継目) な なあ (が) 有ると、こや ツゲメな (が) はっきりわかっとんなあ (ている) 言うて。上手ん (に) つ げて (つないで) 有るのは ツゲメな (が) 判らん よん (ように) してあんなあ (して有る) 言うしなあ、ツゲメな (が) たかばったり (高くなったり) ひっちゃかったり (広がったり) しとるんのな (しているのを) あや (あれ) ツゲメも えごつと (十分に) 隠さんと (さずに) 言うて。

つけもん 【名詞】 漬け物 (志、桑市、員、三、鈴市、安、一、上、阿、張、名) [会話] ツケモンなあ (ですか) だいこ (大根) 漬け、菜あ漬、味噌漬け。“旦那 だいこ 漬け、奥さん 菜漬け、置いたおな ごしゃ (女中は) かぶら漬け”

つけもんいし 【名詞】 漬物石 漬け物を漬ける時に重しにする石 [会話] ツケモンイシは 真石や (滑らかな石は) つかめのくいもんで (掴みにくいの)で、ちっさい (小さい) のおは (のは) 使うけど、おっきいのおは (大きいのは) ずべつと (滑らかに) しとて (していて) 重とおて (重くて) 持ちの くいわい (持ちにくいです)。滑ってて (ていつて)。ツケモンイシは 御影石のざらざら石の、下は ば

あ (面) の ええ (よい) ごつごつしたの (のを) 使う。

つけもんおけ (つけもんをけ) 【名詞】 漬け物をする桶 [会話] だいこ (大根) 漬けや (とか)、菜漬けをなあ 漬ける たある (樽) を、つけもんだある や (だ) 言うて ツケモンオケ 言う人も 有るけど。

つけもんだある。つけもんだる 【名詞】 漬物樽 漬け物を漬けておく樽 [会話] だいこ (大根) 漬けや (とか)、菜漬けをなあ 漬ける たある (樽) をなあ、ツケモンダアルや (だ) 言うて。ツケモンダアル 言う人も 有るけど (が)、ツケモンダルを洗わんと (洗わずに) そんなり (そのまま) 置いとくとなれ (ておくと) はっしやんでかんで (乾燥しなくて)、今度 漬ける時ん (に) 洗うと ええわれ (よろしい) 言うて、あろたると (洗ってやると) しおもんな (塩物が) 入いつとた (ていた) も んやもんでなあ (物なので) がさがさん (に) なってくんやわい (て行くのです) そすと ま 今度 漬けるよん (ように) になると それ 湿して 幾日も 水入れて しとかな (しておかなければ) 口な (が) ふさがせんね (ないのです)。ほとべて (湿気を含んで) 来てすると ふさぐんけど (のだが)、そやもんで (それなので) ツケモンダル 糠な (が) 付いたのおを (のを) みい (中身) だけ 出しといて (ておいて) そんなり (それなので) 置いとくとと (ておくと) しおもん (塩物) で、糠や (だ) もんでなあ (なので) はっしやんでかせんの (乾燥して行かないのです)。

つけもんや 【名詞】 漬物屋 漬け物を作ったり、売ったりする事を業とする家 又、その人 [会話] ツケモンヤ 言うななあ (のは)、だいこ (大根) 漬け や (とか)、なあ (菜) 漬けやなあ (だとか) 漬けて 出しておこす (寄こす) ツケモンヤいなあ (へ)

つけやがる 付け上がる。図に乗って増長する。つけあがる参照 (志 (布施田))

つけやき (付焼) 【名詞】 醤油などをつけて焼く事 又、その焼いた物 [会話] ツケヤキ。しよい (醤油) の ツケヤキ。しよい つけてな (が) 焼きすんのなあ (するのです)、あんして (あんなにして) 焼くとさいご (その時) てりやきん (に) すると、美味しいねなあ (のだ) 言うて よお (よく) 言うやんかい (言います)。鰹や おっきい 魚ん

(の)のおをなあ おっきい(大きい) 切っといて
(ておいて) しよいえ つけといて (ておいて) そ
れ 焼くとなあ、照焼して 美味しいねなあ 言う
て

つけやれる 1) 付けられる 付けることが出来る
(鈴市、伊) 2) 後を追えられる。尾行される。
[会話] 2) ツケヤレレ 言うんかい (のですか)。
あれん (彼に) ツケヤレテ まあ 弱ったよお (困
った) 言うて、おわえやあるいとと (後を追って
いると) ツケヤレテ 弱ったよお 言うて、ついで
くんのをなあ (来るのを)。

つける(漬)【他カ下ー】 1) 水に浸す 2) 肉、魚、
野菜などを塩、ぬかみそなどに入れておく 漬物に
する。

つける(付、着、就)【他カ下ー】 1) 着物を着る
2) 舟を接岸させる もやう 3) 記入する(志
(布施田)) 4) 食物を食器によそう(南) 5) 魚、
特に鳥賊などを釣る。(志) 6) 塗る、阿呆にツケ
ル薬 [会話] 2) 舟ツケル、6) 薬ツケル とか、
きもん え 衿ツケルとか、そおで(袖) ツケルと
かなあ、ひつつける事をツケル 言うなあ 1) き
もん 着るのも、ツケル。

…つける いつもして居る。習慣になっている。
(鳥)

つげる(告)【他ガ下ー】 伝える。伝え知らせる。

つけんと 1) 着ずに。2) 船を接岸させずに 3)
記入せずに 4) よそわずに 5) 漬けずに

つごお(つごう、つがふ)【都合】【名詞】 具合よく
工面する事 算段する事 [会話] ツゴオな(が)
わり(悪い)。ツゴオな(が) よかったら 来てく
れるかい(くれますか)とか。仕事頼んでも なん
か(なにか) 頼むのおでも(のでも)、ツゴオな
ええか(よいか) わりか(悪いか) 聞いといて(聞
いておいて)、あんた(貴方) どおどい(どうです
か) ツゴオは 言うて。ツゴオな よかったら し
てくれるかいとか 言うて。ツゴオつけてもろて
なあ(もらって) 言う事は、具合よお(よく) して
もろた(もらった)時に、何か 頼む時でも ツゴ
オな ええか わりか 聞かな(聞かなければ) は
ざんしなあ(いけないので)。そいな(そんなに)
時ん ツゴオな(が) よかったら してくれるかい
(くれますか)とか。ツゴオつけてもろてなあ 言
うて。品もん(物)を 貸してもらうとか 金も貸
してもらうとか、言う時に ツゴオつけてもら

具合よお(よく) してもらう時 ツゴオつけてもお
て ツゴオよお してもろてなあ(もらって)。

つごおしだい(つごうしだい、つがふしだい)【都合
次第】【名詞】 その場の様子に従う事 自分のおか
れた状態によって [会話] 都合な(が) わりかっ
たら(悪かったら) やめといて、ツゴオシダイで
しよおやんかい(しましょう) 言うのなあ(です)。
まあ、お前な(が) ツゴオシダイで おら(俺は)
いつでも ええわい(よろしい) 言う時やなあ(で
す)。

つごおしてもおて(つごうしてもうて) 好都合にして
貰って。整えて貰って。つごお参照

つごおつける(つごうつける) 1) 金銭を融通する
工面する やりくりする 2) その状態にあわず
[会話] 1) ツゴオツケテ もろてのお(貰って)
言うてな、ぜん(銭) でも かして 貰うと、な
んでも(何でも) 頼んでなあ して貰うと、おおた
ツゴオツケテもろて(貰って) よかったのお(よか
ったです) 言うてな。2) なんやかや(いろいろ)
かして(借せて) くれとか、こさえて(作って)
くれ(下さい)とか 言うて 頼むの、ツゴオシテ
もろてなあ(貰って) 言うてなあ。ツゴオツケル
言う時は、してやる、こげんして(こんなにして)
ま したるわい(してあげます) 言うと、おおきん
(有難う) ツゴオシテもろてのお 言うてな。

つごおよお(つごうよう) 好都合に 具合よく(志
(志島)、名) [会話] ツゴオヨオ してもろて
(貰って) まあ 言うて、誰それを 雇とて(雇っ
て) くれえ(下さい) 言うたや(言ったら)、そし
たや(そうしたら) 雇とて(雇って) もろたや(も
らったら) おおた どいらい(大変) ツゴオヨオ
してもろたのお(もらいました) 言うてな、まあ
あの家い(へ) いたてくれえ(行ってやって下さ
い) 言うて 頼んだとすると、ま はい行くわい(行
きます) 言うて、そすと たのだ(頼んだ) 家や
(は) おおた よかったのお(良かった) ツゴオヨ
オしてもろて 言うてな。

つこた 使った(阿、度) [会話] ぜん(銭) ツコタ
とか、かったもん(借りた物) ツコテ まあ そん
なり(そのまま) ほって(捨てて) とかなあ、人
ツコテ 言うのも 有るしなあ、俺家い(へ) ツコ
タル(使ってやる) 言う家も あるしなあ、ツコテ
もろて(貰って) 言う家も 有るしなあ。

つこだ 掴んだ [会話] 掴んだ 言うのを ツコダ

言う。ツコデ来て 言うて、掴んで来た言う人も有るし、てえ (手) 一杯 ツコデタ 言うてなあ。

つこたた 使ってしまった [会話] 一年に、七くら (七回) やあくら (八回) 旅行 行きおったもんで (行って居たので) 皆 銭ツコタタ。

つこだた 掴んでしまった

つこたて 使ってしまった 使ってやって [会話] まあ 皆 ぜん (銭) も ツコタテ、なんも (少しも) 無いわれ (です) 一銭も 言うて。

つこだて 掴んでしまって [会話] あんな (彼の) 暮みたよな (のよな) てえ (手) で 一掴み ツコダテ、あた (後は) なんも (少しも) 無いわれ (です) 言う。

つこたてて 使っても

つこだてて 掴んでしまっても。掴んでも。

つこたら 使ったら (志、阿、張) [会話] これ ツコタラ ええやんかあ (よろしい) 言うて、そして えんじょ (遠慮) 無しん (に) まあ 使わして もらおかいいお (もらいましょうか) 言うて。これ ツコタラワ 言うて ま、そんなきや (それでは) まあ えんじょ 無しん それ 使わしてもらおかいいあ (もらいましょう) 言うてなあ。

つこだら 掴んだら

つこたらわ 使ったら 使いなさい つこたら参照

つこだらわ 掴んだら。

つこたらんかい 使ってやりなさい。

つこだらんかい 掴みなさい

つこたらんかな (女性語) 使ってやりなさい

つこだらんかな (女性語) 掴みなさい

つこたらんかれ 使ってやりなさい

つこだらんかれ 掴みなさい

つこたりおった 1) 使ってしまった 2) 使ってしまふところだった [会話] 1) 旅行 行て、ぜん (銭) も 皆 ツコタリオッタ。

つこだりおった 1) 掴んでしまった 2) 掴んでしまふところだった

つこたる 1) 使ってやる (使用してやる 雇ってやる) 2) 使ってしまう 消費する (金銭などを使う) (尾)

つこだる 1) 掴んでしまふ 2) 掴む [会話] 1) おおた (ああ) ひい (火) ツコダテ、あたとお (熱くて) まやがった (飛び上った)。

つこたれ 1) 使ってやれ 2) 使いました

つこだれ 1) 掴んでやれ 2) 掴みました

つこて 使って (一、松、阿、北)

つこで 掴んで [会話] そこらへ ちよろちよろと 回って 来てな (来ては)、ちよいと (ちょっと) ツコデ すんのな (するのが) つかみぐい。

つこてけ 使って行け [会話] それ ツコテケ 買わんと (ずに)、まあ それ ツコテケ 言うてなあ こおてこかいなあ (買って行こうか) 買わな (なければ) 無いしなあ 言うたや (言ったら)、ま それ 買わんでも つことや (使っていれば) ええわれ (よろしい) 言うなあ。

つこでけ 掴んで行け [会話] あられやとか (だとか) 豆とか 一掴み ツコデケ 言うて。

つこてた 使って行った。

つこでた 掴んで行った [会話] あんな (彼の)、暮みたよな (のよな) てえ (手) で、一掴み ツコデタや (ら) あた (後は) なんも (なにも) ねえわれ (無い) 言う。

つことや 使っていれば [会話] 買おかいいあ (買おかな) 買わな (なければ) 無いしなあ言うたや (言ったら) ま それ買わんでも それ ツコトヤ ええわれ (よろしい) 言うてなあ。

つことや 掴んで居れば。

つことる 使っている 使用している

つこどる 掴んでている 握っている

つごも【名詞】晦日 月の最後の日 つごもりの末尾省略。ツギゴモリ (月隠) の略 (大言海) (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗) 鳥、三、松、北、尾、阿) [会話] ひて (一日) 二日 言うて 昔の人な (が) 勘定した言うて。ツゴモ言うな (のは) 一番最後の事をなあ ツゴモ、月末の事を。オツゴモは 一番暮れ (年末) のひいで (日) で コツゴモ 言うて その前の日を。普通の月でも、月末は ツゴモ、朔日 言うて、朔の前日な (が) ツゴモ その前日を コツゴモ。嬢よ この月や (は) 大かれ (か) 小かれ (か) 言うて ととな (夫が) 問うたや (たら) “抱いて (大) 寝た夜は しょうじやないか” (小でないか) 言うて。抱いて 寝や (寝れば) せな (しなければ) しょなない (しようがない) もんのお (から)。

つごもり【名詞】月末。年末。(志)

つじ (辻) (旋毛)【名詞】頭のつむじ つむじの転 旋毛 まいまい 笠などの頂上 てっぺん つむじ 頭頂に有って毛が渦のように巻いている所 1~2 カ所あり。(志 (布施田)、四、安、一、度、南)

〔会話〕 頭のツジ にないツジ (担い仕) やたら (だとか)、かたぎツギ (傾仕)。左かたぎのもんら (者は) 度胸な (が) あんねてわい (有るそうです)。担いツジの子は 賢い言うやんかい (言います)。担いツジ 言うのは 二つ並んどる (並んでいる)。

つじ (仕) 【名詞】 道の分かれている所 追分

つじがき 【名詞】 吊るし柿

つじがみ 【名詞】 頭の旋毛。つむじ。

つたいあるき (つたひあるき) (伝歩) 【名詞】 ある物をつかまえてそれに沿って歩く事 〔会話〕 子供な (が) 立って来て、こんだまあ (今度は) ちょこちょこ歩いて来た 言うて。しりもちばつか (ばかり) ついとんねけど (ているのだが)、なんやかやそこらん (に) 有るもん (物) えなあ。ツタイアルキ まあ よお (よく) して来たれ (来ました)、今し (今) ツタイアルキして来たれ 言うて。

つたえ (つたへ) (伝) 【名詞】 1) 言い伝え 伝説 昔からの習慣 2) ことづて 伝言 〔会話〕 1) こやまあ (これは) 昔から おら家の (に) ツタエやよってん (だから) こげんして (こんなに) するよおな 家風に ツタワッテ 来とんねよってん。しょうがつ (正月) には、こげんして 盆には こげんして (こんなに) 先祖からの ツタエや よってん (来て居るのだから)、その 教どおり ん (に) してくれよ (して下さい) 言うて。2) 言伝すんのも (するもの) ツタエてくれ (下さい) まあ、誰それん (に) こげん (こんなに) 言うて ツタエてくれえ (下さい) 言うて、昔なら 言うてくれえ (下さい) 言うて あの人に こげんして ツタエてくれえ、わしな (私が) こげん 言うとた (言っていた) 言うてな。

つたえといてくれ 伝えておいて下さい

づたづた。づだづだ 【形容詞】 → ずだずだ。

…つたら 【接尾語】 したら、ば (北)

つたわる (つたはる) (伝) 【自ラ五】 世間一般に知れ渡る ツタワ (伝) の延 (大言海) 〔会話〕 ツタワル。こやれ (これ) しじくな (零が) つとて (伝つて) くられ (来る) 言うなあ 流れてくんのをなあ (来るのです) つとて くられ 言うたりな。世間え 全部 知れ渡るのも ツタワル あんな (彼が) 言い、二人言いして まあ 皆 ひろがってて (ていつて) 言うてなあ。そのツタワル 言うの (のです) ひろがる 言うの (のです)。和具中ツ

タワッテタレ (ていった) 言うのも、ひろがってたれ まあ 言うて。

つち 【名詞】 1) 槌 (志 (布施田)) 2) 相槌。つちうつ参照。〔会話〕 1) 藁 打つ、ツチ、藁 打つ ツチやなあ (とか)。あいヅチ 金ヅチ スッコロヅチ よこヅチ。餅 搗く時は杵。わがとらな (自分達が) 片手で持つとて (持っていて) つつく (突つつく) 時んのおは (ののは) ツチや (だ) 言う。杵 ふりさげて 味噌つきに来た 言うて 小野の小町な (が) 道風に、わがた (自分は) うぬぼれて花の色は いつ迄も綺麗や (だと) 思とて (思っていて) 千日 かよたら (通ったら) 貴方のままになります 言うて 小野の小町な (が) 言うたや (言ったら)、道風は 千日言うと 三年やんかい (です)。その間 一日も 欠かさんと (欠かさずに) かよて (通つて) 戸口い (に) 行て (行つて) コンコンと ノックしとて (しておいて) 来んねてわい (来るのだそうです)。千日通ううち (間) は 毎日 コンコン行くと そすともあ (そうすると) 道風 来たな 思てするし (思います) わがとも (自分も) 始めのうちや (うちは) そげん (そんなに) 言うたけど、三年も 言うたら おなご (女) の 花の散り時やんない (でしょう)。十九でたち花 二十で見花 二十一から おくれ花” 言うて 花の色な (が) 散つてく (行く) 頃や (です)。そやもんで (それだから) わがとも (自分も) 鏡見て。” 花の色は 移りにけりな いたずら に 我が身 世にふる ながめせましに” 言うて 歌 歌とて (歌つて) 来るの 待ち兼ねて、そして 道風な (が) コンコンと しとて (しておいて)。トントンと叩く雨戸は 誰やらん” 言うて 小野の小町な (が) 中から 言うと 杵 (陰茎)、ふりさげて 味噌 (女陰) つきに来た” 言うて 小野の道風な (が) 言うて そすと (そうすると) 又 小野の小町な (が) なつ豆 (味噌豆、豆は陰核の陰嚢) ゆでて さますところ” 言うて こつく (叩く) の 待って そげんして (そんなに) しとると (していると) 今日な (が) 千日の満願や (だ) 言う日に なつたや (なつたら) 戸口で 倒れとたんてわい (倒れていたそうです)。うぬぼれて 申し込んだ おりん (時に) OKすや (すれば) ええもんを (よいものを)、断つて 値打ち 持たして (持たせて) 千夜 通たら 貴方のままん (に) になります 言うて、そげん (そんなに) 言うたや (言ったら) し

まいに (終りに) 待ち遠しなって来て そげん (そんなに) しとんのなあ (していました)。

つちあし (土足) 【名詞】 土が付いて汚れている足
[会話] 畑から来て 忙して (忙しくて) ツチアシで 家入られやせんし (入れないし)、だいこ (大根) 漬け 出して来て 丸っぽ (丸ごと) で かぶりつく時も あるし。

つちあそび (土遊び) 【名詞】 土をこねたり、掘ったりして遊ぶ事 [会話] 子供らな (が) ともと (庭) で、土 寄せて来て 団子こさえたり (作ったり) 山こさえたり してすんのなあ (するので)、つちなぶりして てえ (手) も わや (目茶苦茶) やなあ (だ) 言うてな、ツチアソビ ツチナブリも一緒や (です)。

つちいきれ (土熱) 【名詞】 夏の強い日射で、地面が熱気を発する事。又その熱気。

つちうつ 相槌をうつ [会話] ツチウツ言うのは、相槌する言う事やなあ (です)。こや (これは) こおや (こうです) 言うと 合して (合わせて) そおやなあ (そうだ) 言う事は 相槌するわけやなあ (です)。

つちくうむし 【名詞】 異食症。回虫症 [会話] ツチクウムシな (が) 有って、あしこの (あすこの) 山の土や (は) 旨い 言うて 土 取りんいて (に行つて) 赤土を。

つちくれ (土塊) 【名詞】 土の塊。ツチクレ (土石) の義 (大言海)

つちけいろ (土気色) 【名詞】 土のような色 蒼白色 生氣のない色 [会話] おおた なんやらな あの人のな (の) 顔色 ちごとななあ (違っている) 言うてな、あの人の顔色 見よまあ (見なさい) ツチケイロしとるとか (していると) 紫色しとるとか 言うて 病氣揚句の人見るとなあ。

つちけぶり 【名詞】 土煙 土砂が強風のため舞い上がって煙のように見えるもの けぶりはケムリ (煙) [会話] 西の風な吹いて、ともと (庭) の土を みな まいあげて来て、あやれ ツチケブリな (が) 立つとられ (ている) 言うてな。土をなあ 風で舞い上げん (る) のなあ (です) そして 吹けてなあ いやあれ あの ツチケブリ 見よまあ (見なさい) 言うて。

つちごさえ 【名詞】 耕作に適した土壌にする事。つちつくり。[会話] 酸性土壌ん (に) なつてくと (なつて行くと)、はざんよって (いけないから) ツチ

ゴサエ せな (しなければ) 言うて、酸性ん (に) なると なんも (なんにも) 出来やせんわれ (出来ません) 言うて。

つちこね (土捏) 【名詞】 子供が土遊びする事。

つちごろ 【名詞】 土まみれ。土で全体が汚れる事。

つちしごと (土仕事) 【名詞】 農作業 [会話] てえ (手) へ ひびな (が) 割れる。ひび切らして 冷たい事ばっか (ばかり) すんので (するので)、そしといて (そうして) ツチシゴトするもんで (ので) ばんばん割れて。

つちたび (土足袋) 【名詞】 畑仕事に履く古くなった足袋。

つちだらけ 一面土で汚れて居る。

つちつかず 【名詞】 足の裏のくぼんだ所。(松、多、阿、張、名、尾、南、熊) [会話] ツチツカズな (が) 無いにげ (人間) べたあし (偏平足) なあ (です)、ぴったんとなあ 板 歩くかすよん (ように) しとんね (しているのです)。

つちつくり (土造) 【名詞】 畑の耕作する土を作る事、堆肥などを入れる事 [会話] ツチツクリ。堆肥を作ったり 鶏糞や 石灰や 言うて 混ぜといて (ておいて)、そして ええ (よい) 土を こしらえんの (作るのを) ツチツクリ。酸性土壌なつてくと (なつて行くと) はざん (いけない) よって (から)、つちこさえ せな (しなければ) 言うて、酸性ん (に) なつてくと (なつて行くと) なんも (少しも) 出来やせんわれ (出来ない) 言うて。

つちなぶり (土弄) 【名詞】 土を玩具として遊ぶ事 つちあそび参照

つちのこ 【名詞】 踝。足の踝。(志 (布施田)) [会話] ツチノコ 言うて 足の そここんぶ (外踝) の事をなあ、ツチノコや (だ) 言うんなあ (言います)。

つちふまず 【名詞】 足蹠のくぼみ。つちつかずに同じ。

つちべ (土辺) 【名詞】 地面 (志 (御座、神明、志島、国府、安乗)、鳥 (菅島)) [会話] ツチベ言うと ちべた (地面) の事なあ。ツチべい (に) 座つて はざんやんかあ (駄目でないか) 言うて、ツチべい (に) 座つとると (座っていると)。そや (それ) それ なんもかも ツチべい (に) 置くなまあ (置くな) 言うて ちべたい (に) 置くと。

つちべた 【名詞】 地面 地べた (志 (神明、立神、安乗)、度、多、伊)

つちばこり (土挨) 【名詞】 細かい土が風に吹き上げられて煙のように見えるもの。又、その細かい土

つちけぶり [会話] ツチボコリ 言うてな、土な
(が) 吹けて くんのを (来んのを) ツチボコリで
汚なのおて (汚なくて)、弁当な (が) くて (食べ
て) おられやせんよお (居れない) 言うて。

つちまめぐり (土塗) 【名詞】 泥まみれ 土にまみれ
ること 一面に土で汚れる事 (志) [会話] 土な
(が) 一杯付いとるのおを (付いているのを)、ツ
チマメグリやれ (だ) そやあれ (そら) 言うて。何
処もかも 一杯付いとるのおを (付いているのを)。
土な (が) 一杯付いとる (付いている) 事 ツチマ
メグリや (だ) 言うて。土だらけ 言うのも言うけ
どなあ。土で まめんで (混ぜて) よけ (沢山) 付
いとると ツチマメグリ。

つっかい (つっかひ) (突支) 【名詞】 支柱 ささえに
する物 (志 (布施田、鶴方)、熊)

つっかいばお (つっかいぼう) (突支棒) 【名詞】 戸な
どが開かないようにしたり、物が倒れないように支
えたりする棒 (南) [会話] ツッカイボオ な
(が) なけな (なければ) はざん (いけない) 言う
て。にげ (人間) でも、ちよいと (少し) とろくさ
い (鈍い) な (のは) 尻押ししな (が) 無いと その
尻押しを ツッカイボオ 言うのな (です)。尻
押ししな (が) なけな (無ければ) あんななあ (彼
が) 世渡り よおしょおかれ (出来ない)、しんし
よ (財産) よお もとかれ (もてない) 言うよおな
のおな (です)。積んだもん (物) でも かいって
(倒れて) 来そおなと (だと) ツッカイボオ うっ
とかな (なければ) あや (あれば) かいって くん
ど (倒れて来るぞ) 言うてな、家でも やかな (堅
固でない) 家なら 風な (が) 吹くと ツッカイボ
オで、せんだる (支えている) 家な (が) 有るやん
かい (有ります)。

つっかえ (つっかへ) (突支) 【名詞】 支柱。つっかい。
(南)

つっかかる (突掛) 【自ラ五】 争いをしかける くっ
てかかる 言いがかりをつける 文句を言う [会
話] ツッカカルわしに (私に) 言うて よお (よ
く) 嫁さんな (が) 言うやんかい おら家 (私の
家) の 婆やん おんな (私が) なっとか (なんと
か) 言うたや (言ったら) ツッカカッテ めえ
(目) も つやげて (つりあげて) くんね (来るの
だ)

つっかけ (突掛) 【名詞】 足の指先につっかけて履く
簡単な履き物、サンダル (鳥、張) [会話] ツッカ

ケ 下駄の あの のおを (のを) ツッカケ履いて
言うて、今しや (今は) 下駄 履かせんけどな (履
かないが)。はあ (歯) な (が) ついとんな (付い
ているのは) 高下駄や 日和下駄や 言うてな、
板ん (に) なっとんな (なっているのは) ツッカケ
や (だ) 言うてな。

つっかけさがす 1) あちらこちらと突き当たる
(志 (布施田)) 2) 履物をあれこれと分別なく履
く。 3) 無分別にあらゆる事に手を出して完成し
ない。

つっかける (突掛) 【他カ下一】 1) 履き物を無造作
に履く 指先にひっかける ツキカケルの言便 (広
辞苑) 2) 文句を言う。喧嘩を売る。[会話] 1)
はきもん (履物)。つっかけを 足い (へ) ツッカ
ケル 言うてなあ。サンダル あればっか (ばか
り) 履いとて。2) 喧嘩を ツッカケル 言うてな、
喧嘩ふっかけた 言うてな。あんな (彼が) 酒のお
で (飲んで) 喧嘩 ふっかけんねよってん (るのだ
から)

つづきがら (続柄) 【名詞】 血縁としての関係 親子、
夫婦、兄弟などのつながり [会話] 親と子の間と
か、ちい (血) な ついとる (ついている) 言うの
を ツヅキガラ。

つづきぐい 【名詞】 あれこれと少しづつ箸をつけて全
部食べない事。

つづきさがし (突探し) 【名詞】 1) あちこち箸をつ
けて食べ残す事 2) 仕事などあちこち手をつけ中
途半端でしておく事 [会話] 1) 雀な (が) きん
こ (芋の煮切り干し) ツツキサガシテ まあ 言う
て。あっちゃ (あっち) も、つづき、こっちゃ (こ
っち) も つづき。きんこな (が) 干してあると
網のめえから 皆 ツツキサガシしたんねてや (し
てしまうのです) 雀な (が)。知恵比べやなあ (だ
なあ) 言うどんね (言っているのです) どげんして
も (どんなにしても) 何処からともなしん (なく)
入って来んの (来るのです)。目白あ (は) 又 雀
より賢いねてや (のです) 知恵比べして 負けんね
(るのです)。目白にや (には) じっばん (立派
に) 囲て (囲って) こんだ (今度は) 蚊帳ほどいて、
ごそつと 底も 皆 囲って して こんで (これ
で) 大丈夫や (だ) 思ても (思っても) どっかい
何処から入んでもなしん (入るのでもなく) 上 囲
うと 簀の下から ぶらさがつとんね (ぶらさがっ
ているのです)。ちっちゃい (小さい) 爪な (が)

脚ん (に) 付いとるもんで (付いているので) 簀の上は 被せてあるし 横も、どっから (何処から) 入んねかいなあ (入るのだろうか) 思うと 皆 下ん (に) ぶらさがっておって (ぶらさがっていて) 食うとんの (食べているのです)。 ほんとん (本当に) 賢いもんやなあ (ものです) 目白は。子供らな (達が) 箸で あっち つつき こっち つつきする 箸で よけ (あまり) ツツキサガスナ (つつくな)。²⁾ 仕事なんかも しさがして 片ずけんと (片ずけずに) ほって (放って) あれをしい これをしいすると、仕事も ツツキサガシテ こやれ (これは) 言うて 片付けも せんと (せずに) こやれ 言うて。

つつきさがす【他サ五】 1) あちこち箸をつける 2) 仕事などあちこち手をつけて中途半端にしておく 3) 欠点をせめる [会話] ¹⁾ 小鳥な (が) 来て なんもかも (なにもかも) 皆 ツツキサガス。柿も 皆 ツツキサガスてやら (とか)、蜜柑も今年や (は) みな つついたた (てしまった) てやら 言うて、小鳥な (が) ツツキサガス 取るよん (ように) なる迄 無いよん なつてく (て行く) 言うて。小鳥な (が) ツツキサガスもんでなあ (ので) 皆 おってて (落ちてしまつて) なんも (少しも) とられやせんね (獲れないのです)。

つつきちらす【他サ五】 1) あちこち箸を付けて散らかす 2) 仕事などあれこれ途中で止める 3) 欠点を突く [会話] ¹⁾ 突ついて そこらい 落したんのを (てやるのを) ツツキチラス。

つつきまある【突回】 1) 相手の欠点などを求めてあちこち歩く 2) つきまとう [会話] ²⁾ おなご (女) の尻 ツツキマアル 言うて、おなご (女) の方い つきやあるいとると (付つきまわっている)、あや (彼は) おなご の 尻ばっか (ばかり) ツツキマアシトンネ (ているのだ) 言うて、¹⁾ 相手のあら (欠点) 探すのも ツツキマアル。 なんや かや (いろいろ) こごごと (こまごと) 人のあら ばっか (ばかり) ツツキマアッテ こそこそ 言うてなあ。

つつきやい【名詞】 1) つつきあい 喧嘩 2) 一つの皿や鍋の物を皆でつついて食べる事。(熊) [会話] ²⁾ ツツキヤイ しとられ (している) 言うて、小鳥でも 一つの のを なあ、やうち (一同) な (が) つつきさがしん (に) 行くのなら ええけど (よいが) 一つの 柿い (へ) むしりついて ツツ

キヤイしとんねよお (しているのだ) 言うて、¹⁾ 喧嘩して まあ やい ツツキヤイ しとんねよお、掴みやい (あい) しとる (している) とかな。

つつきる【突切】【他ラ五】 海や野原、道などを一直線に横切る [会話] 真っ直ぐに 大島むいて (向かって) ツツキテタ (ていった) 行ききつてた 言うて。あの舟 見よまあ (見なさい) よじよや 鳴神や言うて あしこらい かけやせんねなあ (綱を入れないのだ)、沖 むいて 行ききつてたれ (ていった) 言うてなあ。

つつく【突】【他カ五】 1) 詮索する 2) 弱点を攻める。あれこれと言つてある行動をとるようにしむける 催促する

づづぐろい → ずずぐろい。

つつこみ【突込み】 物品の大小優劣をかまわずひとまとめにする事 均一 込み (志 (布施田)、鳥) [会話] ツツコミ 言うのは、なんやかや よけ (沢山) あんのい (あるのへ) ええのと (よいのと) わりのおと (悪いのと) ツツコミん (に) して、混ぜ混ぜん (に) したれ (してやれ) 言うのを ツツコミして。 うんのでも (売るのでも) おっきいの いくら 言うて分けたらんと (分けずに)、ちっさいのおも、中なのおも、(の)も 混ぜ混ぜん (に) して ツツコミで いくら 言うて、ねえ (値) 言う時な (が) あるわい (あります)。なんやかや 売ったり、こおたり (買ったり) すんのん (するの)に 混ぜ混ぜん (に) して ツツコミ いくら 言うて。仕分けんと (仕分けずに) 売り買いする時ん (に) ツツコミの いくらで どおどい (どうですか) 言うて。

つつこむ【突込】【他マ五】 1) 勢い良く突入させる 2) 二つ以上のものを入れ混ぜる

つつこむ【突込】【自マ五】 勢い良く突入する 無理に入れる [会話] 舟な (が) せえ (瀬) ん (の) 中い (へ) ツツコムてやら (とか)、おら家の舟の真ん中い (へ) ツツコム てやら 言うて、よお (よく) 喧嘩する時な (が) 有るわい (有ります)。舟 つける (もやう) 時んなあ (に) せばい (せまい) とこ (所) い (へ) 割り込んで 入いつてくと なあ (て行くと) なんど (なんだ) おら家の舟い ツツコンデキテ言うて、怒つて来る人らな (が) 有つてなあ。物を 袋え詰めたり すんのも (するの)も ツツコム。

つつころがす 突き転ばす。突き倒す。(志 (布施

田))

つつたつ (突立) 【自タ五】 1) 真っ直ぐに立つ 勢よく立つ 2) なにもしないでぼんやりしている [会話] 1) 立つとんのをなあ (ていののを) ツツタツ。あしこい (あそこに) まあ ツツアントンナイ (たっている) 誰やら来て 言うてな、真っ直ぐ立つとる (ている) ツツタツ 言うてな。

つつだる 包んでやる。

つつきさがす つつきさがすに同じ。 1) あちこちと箸をつけて食べ残す。(熊) 2) 仕事などあちこちと手をつけやり残す。 3) 欠点をせめる。

つつつく (突々) 【他カ五】 1) 突く 2) 掘る。耕す。

つつっぱ (筒抱) 【名詞】 筒袖 つつっぽう 筒袍 つつそでに同じ。和服で袂の部分の無い袖 又、その袖のついた着物 (志 (鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥 (鳥羽 加茂 答志)、桑市、員、三、鈴市、安、一、多、上、阿、張、度、伊、北) [会話] 筒袖の事を ツツッポ。着物の袂やなしん (でなくて) 元録は袂の隅な (が) まあう (丸く) 袂あ (は) 四角ん (に) なつとるし (なっている)。筒袖言うとはすかい (斜め) こおなつとて (なっていて) 服の袖みたよん (のように) しとんの (しているのを) 筒袖や (だ) 言うて 着物のなあ。

つつで 包んで [会話] 鳥な (が) あたためる (卵を) 時や (は)、はがいへ 皆 ツツデ しとるやんない。(しているでしょう)。

づと → **ずと**。

つつどる 包んで居る。

づつない → **ずつない**。

つつぱり (突っ張り) 【名詞】 倒れたり、外から押し開けられないために支えとする柱や棒 つつかい棒 (志 (布施田)、鈴市、安、上、阿、張、名、北、熊) [会話] ツツパリかう (する) 言うて、ぼおしな (高く積んだ物が) かいってかれ (倒れて行く) ぼお (棒) もて (持って) 来て ツツパリこおとけ 言うて、やかな (堅固でない) 家や かたんで (傾いて) 来たれ ツツパリ こおとけ (支えておけ) 言うて。

つつぱりかう 心張り棒を当る かう 支う 倒れそうな物を支えるため斜めに下から棒状の物を当る [会話] ツツパリカウ 言うて、かいってく (倒れて行く)、こけてく (いく)。かたんで (傾いて) 来たり、こけてきそおん (こけていきそうに) しとる

と (していると) ツツパリカウ 言うて。つつぱりは つつぱり棒。にげ (人間・人) でも つつかい棒な (が) なけな (なければ) はざん (駄目な) にげやとか (人間だとか) 言うて。尻つきな (が) 無いと なんも 出来やせん (出来ない) とか 言う時も つつかい棒な (が) 無けな (無ければ) 言うなあ。そしてまあ わがと (自分) つつぱって 人な (の) なんやかや言うても 自分のばつか (ばかり) 偉そおにして つつぱる 言う時も 有るなあ。

つつぱる (突張) 【自ラ五】 1) 無理な事を言う 強情を張る ツキ (突) ハル (張) の音便 (大言海 広辞苑) 2) 肩などが張る 凝る 3) 支える。 [会話] 1) ツツパル。話、しとてもなあ (していても) 人の言う事 聞かんと がまん (頑固) な事 言うて、ツツパル 言うて。2) よけ (あまり) 立ったり (ていたり) しよずくなったり (掘んだり) するとなあ、腹な (が) ツツパッて痛いわれ (です) 言うてな、あんまり (あまり) 仕事のなあ きつい 仕事 しとると (していると) ツツパッて痛いわれまあ 言うてな。

つつぱ 【名詞】 筒袖

つつまし (慎) 【形容詞】 1) 表立たないで控え目である 思慮深い でしゃばらない 2) 質素で有る。 [会話] 1) つつましく しとれまあ (してなさ) い 言うてな。しんびよお (神妙) ん (に) しとれまあ 言うて、子供ら わるう (叱る) 時ん (に) ツツマシ しとれまあ 言うてな

つつみ (堤) 【名詞】 堤防 ため池 但し和具では固有名詞として堤防で水を塞き止めた所を示す (一か所のため) [会話] “ツツミの橋の真ん中で 唐傘枕にしてやった こんな臭いぼぼ やった事ない ちり紙 さんじょ (三帖) ただ 捨てた” 言うて 踊って わしや (私は) あんな (あれが) めずらんうわとんね (臉にやき付いて居るのです)。この時 ツツミ 言うとあすこ (あそこ) だけや (で) ないんかい (ないのですか)。あしこ (あそこ) は ゆりのと みたよん (のように) してあったもんで (ので) ツツミ、あれの上に ゆりな (水遊びが) してあったやんかい (でしょう)。ちょつと (少し) 上に (上流に) ゆりのと な (が) 有りおって (有って)、そして ちょいと (少し) 橋もなあ 太鼓ん (に) なつとて (なっていて) あの橋を降り んのん (降りるのに) 怖かりおったやんかい (怖かったものです)。車 曳いとると (曳いていると)

どんどんとして来て 煙草屋の方 向いてにえこま
してて (走りきってしまつて)。

つつみこ。つつみだま。つつみだんご【名詞】餅の中
に出来る粉の塊り だま参照

つづめる【他マ下一】1) 短くする。2) 簡単にする。

つづら【名詞】1) 縦にさけてぼろぼろになつたさま
つらら つづれ(熊) 2) つらら 水が垂れ吊つて、
凍つたもの(尾)【会話】 2) つらら 言う人も
有るしなあ、ツヅラ言う人も有る。こころん(此の
辺) にげ(人間) は(は) おかた(大半) ツヅラや
(だ) 言うわいな(言います)。ツヅラ言うな(の
は) 露な(が) 落ちたのおな(が) 凍つてくの
(て行くのを) ツヅラや(だ) 言うて。1) きもん
やどけでも(着物などでも) 裾な 裂けてしとると
(して居ると) ツヅラやとか(だとか) びろれんや
とか 言うて びろれんになつとんない(なつて居
る) 言うて びらびらしとると(して居ると)。2)
そして(そして) ツヅラ 氷の事 ツヅラ 言うて、
屋根から 雨垂れな 落ちて来ると そんな(それ
が) 凍つたのおな(のを) ツヅラ。

つづらんなる 裂けて ぼろぼろになる 裂けて垂れ
下がる【会話】 ツヅラン(に) ナットンナイ(な
っている)。きもんな(着物が) 破れて さがって
来るとな さがって くんのなあ(来るのを) ツヅ
ランナル 言うてな。

つづれ【名詞】襦袢 ぼろ(志、鳥、上、阿、張)
【会話】 つづら。破れて ツヅレン(に) なつとる
(なっている) 言うて。吊がつとんのおを(吊がっ
ているのを)。破れて あや(あれ) びろれんにな
つとんない(なっている) 言うの。びろれん 千切
れて しとんの(しているのを) びろれんや(だ)
言うて。ツヅレン(に) なつとんのおを(なつてい
るのを) 破れて さがつとんのおを(下がっている
のを)、あやれ(あれ) ツヅレン(に) なつとんのお
(なっているのを) 着て、うそみとみない(見苦
しい) 言うて。

つて(伝)【名詞】てずる てがかり【会話】 ツテ
言うな(のは) あんたと わしと 心やすうて(心
安い・仲は良い) なんやかや(いろんな事を) あん
たのおかげん(で) たので(頼んで) してもらた
(貰った) 言う事なあ(です)。あんたのツテで
してもらた あんたのツテで、あの人と つきあわ
して(交際させて) もらて(もらって) とか、ツテ
で 世話してもらた とか言うて、あんたのお陰で

言うよおな時ん(に) 使うやんかい(使います)。
なんか ツテな(が) なけな(なければ) とか、き
っかけな(が) 無けなとか言うやんかい(言いま
す)。

つと(苞)【名詞】1) 藁などを束ねて魚、野菜など
を包む物 藁づと(志(甲賀)) 2) 十一月七日山
の神に小豆飯を供える 藁で作った容器【会話】
1) 藁のツト言うて 藁 あとさき(後先) しばつ
といて(縛っておいて) 魚や なんやかや 詰める
と ツトい(に) つつでけ(包んでいけ) 言うて
ツトツツミ(包み) や(だ) 言うて。2) そして
山の神のよびこ や(だ) 言うて、ツトこさえとい
て(こしらえておいて) それい(に) 飯 盛つて
山の神い(に) 供えん(に) 行きおつたの(行つて
居たのです)。“いんのこもちゃなんどれ ひいろて
(拾つて) 食うたら めつつぼや(飯粒だ)” 言う
て その食うた(食べた) かす(残りを)を 藁
しばつといて(縛っておいて) 打つとなあ どづい
て(強く叩いて) 藁な(が) ぬた(柔らかく) ん
(に) なるほど どづいとる(ている) 子らな(達
が) 有りおつた(有りました)。山も神のよい子や
なあ こしとらの年に 祝わんもんは(祝わない者
は) おおに(鬼) もおけ(産みなさい) 蛇もおけ
角のはえた子もおけ” 言うて、歌いもて(歌いなが
ら) それ投げんねてや(投げるのです)。霜月(十
一月)の七日 藁のツトい(に) 小豆飯を盛つて
その上い(に) さいら(秋刀魚)を 一つ ぜんぎ
り(輪切り) ん(に) して そして 奉りんなあ
(に行きました) そすと(そうすると) 付近の子供
らな(達が) 来て それをあけて 食べんのおが
(食べるのが) 嬉して その後 縛つて たあら
(俵) みたよんして(のようにして) ひぼ(紐) つ
けて “いんのこもちゃ なんどれ 拾て 食うたら
めつつぼや” 言うて 男の子らな(達が)。男の子
らな(達が) それを、どづいて(叩いて)、そすと
(そうすると) さいわら(粗藁)で してあんのな
(あるのが)、ぬた藁(柔らかい藁) みたいん(の
ように) なつて、どづいて やいこお(柔らかく)
ぐたぐたん(に) なつてくの(いくのを) ぬたや
(だ) 言う。わけぎ(葱) やどけ(など) ぬたん
(に) する言うやろ(言うでしょう)。やいこお
(柔らかく) なるもんで(ので) そんで(それで)
ぬた みたよおん(のよう)になる、ぬたや(だ)
言うて。霜月 おだいしこや(だ) 言うて そばの

団子入れて 小豆飯炊いて ふろふきで して あやめの箸ですんの (するのです)、美味かりおつたのんなあ (美味しかった)。

つつつみ【名詞】 苞で包んだ物 藁で包んで両端をくくったもの [会話] 藁で 編んでなあ、魚やどけ (など) 藁のあとさき (後先) しばって (くくって) さげんの (さげるのを) ツツツミ。

つどつど【副詞】 その度ごとに。(熊)

つとて 伝わって

つとてくる 伝わって来る。(志(布施田))

つとまる(勤)【自ラ五】 辛抱出来る 耐えられる
ツトメ(勤) らるるの約転(大言海)

つとめにん(勤人)【名詞】 官公庁や会社などで働いている人 月給取り [会話] 月給取りのことを、ツトメニン や (と) 言いおった。(言って居ました)。

つとめられる 勤めることが出来る 辛抱出来る [会話] あしこい (あそこへ) 勤めて よお (よく) ツトメラレルか、あの家や (は) きびしねど (厳しいのだ) よお 勤めるか言うのな (です)。ツトメラレル 言うのは 其処で 辛抱な (が) 出来る、しんぼな (辛抱が) 出来んで (なくて) 戻ってきやせんか(来ないか) 言うて、してまあ (そうして) よおしんぼせんで (辛抱出来なくて) 行くと、よお (よく) 勤めんと (ずに) 戻って来た 言う。

つとめる(勤、努)【自マ下一】 1) 我慢する 辛抱する 2) 仕事をする [会話] 2) がつこ (学校) い (に) ツトメルと、役場い (に) ツトメルとか、言うて。働く事を ツトメル言うて。昔や (は) 月給取りの事を 勤め人 や (だ) 言いおったなあ (言っていました)。常に 他で 働いとんのおは (ているのは) 働きん (に) 行く言うねけど (言うのだが) 役場にツトメトンネてわれ(勤めているそうだと)とか、がつこに ツトメトンネ、銀行とか、昔や (は) その位やわい (です)。役場か銀行か 組やい (組合) 言うて ちょいと (少し) 二、三人 おる (いる) だけで、そいな (そんな) とこ (所) やなけな (でなければ) ツトメルとこ (所) 無いもんなあ (有りません) そお言うとこ (所) 行くのを 勤め人や (だ) 言うて。1) ツトメルで しんぼ (辛抱) するとか、舅の つとめな (が) えろおて (大変で) 言うて しんぼする事なあ。

つなうち(み) 綱打ち。綱を縫い合わせ太く、強くする事

つながり(繫)【名詞】 つらなり 1) 良く続く事又、そのもの 2) 関係のあること 関わりのあること 3) 血統。親類。[会話] 3) あの家や (は) あの家と ツナガリやなあ (だ) 言うてな。ツナガットンネナイ (ているのだ) 言うてな、そげん (そんなに) 言う。ツナガリを言う時もあるしだ、1) しなもん (品物) でもなあ ひつついとると (ていとう) ツナガットンナイ (ている) あやれ言うてな

つながる(繫)【自ラ五】 1) 連なる 長く続いている 2) 関係が有る [会話] 2) つづいとる (ている) 事なあ、ツナガル言うてな。あの家と ちいな (血が) ツナガットンネ (ている) よってん (のだから) 言うてな。

つなぎ(繫)【名詞】 動詞つなぐ(繫)の連用形の名詞化 1) ある物とある物の間を結ぶもの 2) もろい物 粘り気のない物などが壊れたり、くずれたりするめを防ぐため混入する物。3) 食事と食事の間に食べる一時凌ぎの食べ物 しのぎ 4) 連絡 [会話] 4) ツナギつけな (なければ) はざんなあ (いけない) 言うて、連絡せな (しなければ) はざん 言うのもな、あの家と こいな (こんな) こたなあ (事は) ツナギ つけとかな (つけておかなければ) はざんやんか (いけないでないか) 言う時もあるもんな (有ります)。連絡しよお 言う事を、ツナギ つける 言うてな。2) ツナギ 言うて蕎麦粉だけやと (だと) 粘りな (が) 無いよって (から)、小麦の こお (粉) を ちょいと (少し) 混ぜて ツナギ入れな (なければ) 言うて。粘りな (が) 無いと 切れてくよって (て行くから) ツナギ入れな はざん 言うて。そお言う ツナギも 有るしなあ。3) 昼と夜の間に ちょいと (少し) まあ ツナギん (に) なんなと (なにでも) く とこやんかれ (食べておきましょう) 言うてな、ゆざけを。ゆざけや (だ) とか こびるとか 言うてなあ 朝飯と昼との間に くうな (食べるのは) こびる、昼と夕飯のあいこに 食うな (のは) ゆざけ。

つなぎぐそ。つなぎびそ【名詞】 結び玉 糸を結んだ時に出来る塊 [会話] ツナギビソ 言うな (のは)、たかばるやんかい (高くなります)。ちゅっと拗ねって すんの (するのを) ツナギビソを こさえんなまあ (作るな) 言うて。ツナギビソばつかや (ばかりだ) 言うて。毛糸でも 切れてくと (て行くともったいない) もんで (ので) こんだけ (こ

れだけ) の のおでも (のでも) つなげて (つないで) 編むやんない (でしょう) おおた こや (これは) ツナギビソ ばっかで 編まれやせんない (ない) 言うて。

つなぎむし【名詞】 米 麦に虫がついて 虫の出した物によって 米 麦が連なっている状態 [会話] つないどんのおを (つないでいるのを) 言うて、蚕 な (が) まい (繭) の 糸みたよな (のよな) 尻から出して 糞な (が) ついてなあ つなんどんのなあ (つないでいるのです)。その つなんどんのおを ツナギムシ、糸 い (に) みななあ 糞な (が) ついて こお 引っ張ると 米もなんも 引っ付いた なりなあ (まま)、つなんで (つないで) 来てなあ。こやまあ (これは) ツナギムシやなあ (だ) 言うてなあ、虫 そのもの や (で) なしん (なくて) わがとは (虫は) 麦 食うてなあ それの糞たれると 糸 出して おこすと (よこすと) 吊げるとなあ、麦や (とか) 米 な (が) 皆 つなんで (つないで)。

つなげべそ (つなげびそ)。つなげみそ【名詞】 結び玉 つなぎびそに同じ [会話] ツナゲベソ 言う ねやろけどな (のだろうが)、たかばっとなねよってんなあ (高くなっているのだから)、臍みたよん (のように) しとんねよってん (して居るのだから) ツナギベソ 言う ねやろけど (のだろうが)、ツナギビソ こさえんよお (作るな)、ツナゲベソ ばっかで (ばかりで) まあ 言うて。

つなげめ【名詞】 繋ぎ目 繋ぎ合わせた部分 継ぎ目 (志 (布施田)) [会話] なんもかも 根元を つなげてあるもん (物) は ツナゲメとか ねも と 言うて。

つなげる【他ガ下ー】 繋げる 結び付けて一緒にする つなぐ 繋ぐ 離れている物、切れている物を一続きの物に結び付ける 紐状の物を結び止めて離れないようにする ツナ (綱) を活用した語 (大言海) (鳥) [会話] 糸 ツナゲル。つなぐ 言う事を ツナゲル 言う。嫁 ん (に) いて (行って) 戻って来た のおも (のもの) あれも 又 元々に ツナガッタ てない (そうだ) 言うて よお 言いおったやん かい (言って居たで有りませんか)。

づなし【名詞】 → ずなし

つなずさ【名詞】 上塗り壁のつなぎに入れる 古い綱を小さく切った物 [会話] 上塗り すんな (するのは) ツナズサ。粗壁 い (に) つけんな (付けるの

は) すさ、藁を切つてなあ、粗壁 い (に) 塗る時や (は) それなし (です)。上塗りする な (のは) 使われん よん (ように) なった 古い綱を 鉋で こまこお (小さく) 切つて それを 捌いて 上塗りする 時ん (に) 使よおった (使いました)。

つなんで 1) 繋がっている状態 手などを握り合つて連れだっている状態 男女が並んでいる状態 2) つないで下さい 連れだつて手を握つて下さい [会話] 2) てえ (手) ツナンデ くれえ (下さい) 言うてな、ふたんな (二人が) てえ つなごやんか (つなぎましょう) 言うたや (言ったら) わしと (私と) ツナンデ くれるかい (くれますか) 言うてな。1) ふたんな てえ ツナンドンネ (つないでいるのだ) 言うてな、みよとな (夫婦が) てえ ツナンデ 歩いとんない (ている) 言う時も 有るしなあ。てえ 組んで歩いとんない 言う時も 有るしなあ して 若い もん (者) な (が) ふたんな てえ ツナンドンネ 一緒んな とんねなあ (なっているのだ) 言うてな。

つなんでく 繋いで行く 連なつて行く [会話] ずつなざん (数珠つなぎに) なつて言うて、おお (後ろ) い (に) ついて ツナンデ くの ずず (数珠) つなぎ 言うて

つなんどる 1) 繋がっている 船などが岸にもやつてある 2) 手を握り合っている 男女が並んでいる 3) 連なっている (志 (布施田)) [会話] 1) ずんずくずんに つないで来た 言うて。つなんど来ると 蟻な (が) つけとても (つけていても) 蟻な (が) ずんずくずんに ツナンドル 言うて。

つね (常)【名詞】 いつもの通りである事 ふだん 平素 平常 あたりまえ (志 (志摩町)、南) [会話] ツネ 言うな (言うのは) 普段の事を ツネ 言うて。ツネから あや (彼は) あげん (あんなに) して ぶらぶらして、常日頃から あや (彼は) あげなね (あんなのだ) とか 常日頃 言うて。いつもの事 言うのなあ (言うのを) ツネ や (と) 言うてなあ。

つねぎ (常着)【名詞】 普段着 常着 ふだんぎ参照 (志 (浜島、神明、国府、安乗)、桑市、多、北、南、熊) [会話] ツネギ 普段着の事 ツネギ や (だ) 言うて、普段着。ちよいちよい 着 いっちよろ着、ものすごお (大変) ええ (よい) のを 一番わがと (自分) な (が) 大事の おを (のを) いっちょろ (一張羅) 着や (だ) 言うて、ちよいちよい

着は ちょいと (少し) ええ (よい) 方や (です)。
つねぎる 抓る。ツメキル (爪切る) の訛。

つねことば (常言葉) 【名詞】 普通の言葉、普段使っている言葉 [会話] しょんがつことば (正月言葉) に ツネコトバ。いつも使う言葉 ツネコトバ。
飯くおや (食べましよう)、ちゃあ (茶) 飲もや (ましよう) 言うのなあ。つねの言葉を ツネコトバ。

つねづね (常々) 【名詞】 いつも 平素 日頃 [会話] 青年団な (が) ツネツネから、じんじ (祭り) になったら やったるやねえ (やっつけてやろう) 言うて、下地からかんまえてて (構えていて)。

つねでも いつも。普段でも。

つねなつね 平素の行いに対する批判。(志 (布施田))

つねに (常に) 【形容詞】 いつも つねに同じ ツネはツナ (蔓) の如く連なる意 (大言海) [会話] じょおく (いつも) 言うね (言うのです)、じょおくあげな (あんな) 事 しとんね (しているのだ) とか、あげな事 言うとんね (言っているのだ) とかな、ツネニ 言うの、じょおく (いつも) の事や (だ) 言うの (のです)。

つねのきもん 【名詞】 普段着 (鳥)

つねのこと 【名詞】 日常行われている事 いつもの事 [会話] いつもの事 言うのをな、じょおく (いつも) あげな (あんな) 事言うたり したりして 言うてな。じょおく こげなもん (こんな物) おら (俺達)は くとんねやれ (食べているのだ) 言うたりな、ツネコト言うの (のを) じょおくの事や (だ)。

つねひごろ (常日頃) 日常 普段 いつも いつものであること (志 (布施田)) [会話] いつもの事 言うのなあ (を)、常や (だ) 言うて、ツネヒゴロや (や) 言うて。

つの 【名詞】 擬似餌。牛などの角で作るから。(尾、熊)

つのかく 【名詞】 擬似餌を使った漁法。

つのだる (角樽) 【名詞】 上に角のように長い柄の付いた酒樽 多く朱塗りで祝いの時に用いられる。樽の両側について居る柄が角のようである事から。[会話] 酒樽の事なあ (です)。あの家や (は) 誰やらな (かが) 嫁ん (に) 行たんかして (行ったのか) つのな、来たない (来ました) 言うて。たある (樽) な 来るとなあ、かけのゆお 持って来るや

んない (でしょう) ツノダルな (が) 入いったよお 言うてな。

つのぼら 【名詞】 法螺の一種 オニサザエ [会話] ツノボラ 言うのはなあ、角な (が) よっけ (沢山) 生えとんねてや (生えて居るのです)。そのまた ツノボラな尻な (が) 旨いねてや (旨いのです)。ツノボラな (な) おるとか (居る所は) あらとこや (だ) 言うて、ツノボラよけ (沢山) 拾て (拾って) 来たやんかあ (来たでないか) てや (言うて) あらとこやなあ (だ) 言うて、よお (よく) 言よおったてや (言っていました)。人な (が) よけ (あまり) まあらんとこなあ (廻らない所です) あらとこや (だ) 言うて。人な (が) まあったると (行くと) ツノボラ 落つとらへんよって (落ちていないので)、ツノボラ 落つとる (落ちている) とか (所は) 人な (が) よけ (あまり) 行かせん (行かない) とこ (所)。ツノボラ、美味しいねん なあ (美味しいのです)。ツノボラ にし (螺) ん (に) よお (よく) 似たのおやよって (ものだから)、ツノボラの尻 八反田と かよ (換えよう) 言うもんやよって (ものだから)、美味しいね (のです)。ツノボラの尻の とんがり 焼くと。たあ (田) の八反やっても (あげても) 食いたい (食べたい) 惜しない (惜しくない) 位 美味しいんやろ (のでしょう)。

つば 【名詞】 釜について全体を取りまく薄く張り出して居る部分。竈の縁に掛けるのに使用される。

つばき (唾) 【名詞】 唾液 つば 口腔粘膜面に開口する唾液腺より分泌物、粘性性と漿液性と有る (志 (御座、越賀、布施田)、鳥 (坂手、答志)、伊、桑郡、員、鈴郡、安、一、飯、多、上、阿、張、尾) [会話] ツバキ 飛ばした 言うし、ツバキ 飛ばして そやれ (それ) 言うて。唾の事を ツバキや (だ) 言うて。

つばきあぶら (椿油) 【名詞】 椿の種子から取れる不乾性油 黄色つばく特有の匂いが有り食用油、髪油などに用いる [会話] 椿を搾っのおを (のを) ツバキアブラ ツバキアブラ 付けると 白髪ん (に) ならせんねてわいなあ (ならないそうです)。

つばくろ 【名詞】 燕 ツバクラの転 (広辞苑) (桑郡、桑市、員、三、安、久、一、松、上、阿、張、名、度、伊、鳥 (桃取、相差)、尾、南、熊)

つばす 【名詞】 鰯の幼魚 (鈴市、度、北、尾、南、熊)

つばな【名詞】 チガヤ チガヤの穂 (志 (鶴方)、鳥、員、鈴市、津、伊)

つばめ【名詞】 節約すること 浪費しないこと [会話] あの人 なんもかも (すべて) ツバメな (が) ええさけん (よいから)、まあ ばあばあ せんと (せずに)、しまつ (節約) して たぼつと て (貯えていて) あやれ (あれ) まあ 言う

つばめる 儉約して貯える。(志 (布施田、鶴方、甲賀、安乗)、鳥 (鳥羽))

つび【名詞】 1) 陰核 つび 玉門 陰門の古名 (志、度) 2) つび 螺 巻き貝の古名 つぶ つみ つぶ 粒 3) 丸くて小さい物 (めしつぶ・米粒) [会話] 1) ツビ、しやね (陰核)。おらな (私が) ちっさい (小さい) 時ん (に) 大石を “おいし いし いし いしな ぼぼ 叩いた、しやね 先い 飛んで ツビや (は) 後ろい (に) 残った” 言うて いよおったね (言うて居たのです)。2) ツブ 言う 貝な (が) ちっちゃい (小さい) 磯ばた (海岸) の つぶも 有るし。

つぶ【名詞】 貝。ふじつぶ (志) [会話] ぜんぼ (ふじつぶ) な (の) ついとる (付いている) 言うて ツブの事。

つぶ【名詞】 詳細 内容 つぶ (円) 副詞。まるで全くからの転意か。(志 (越賀)) [会話] どいらい (大きい) 声で 言うて ワンワン言うたよおん (言ったように) しとて (していて)、ツブな判ら せん (の判らないのです)。

つぶこ【名詞】 魚の卵巣 しらこ 参照 [会話] さ いら (秋刀魚) の ツブコ (卵巣) や、白子 (精巣) や 言うて。ツブコ言うな (言うのは) こお (子) に なんねやろし (なるのでしょうか)、白子 言うな (言うのは) それと もよて (一緒になって) 二つ 入っとなね (入っています)。

つぶされた 壊された。

つぶしむぎ【名詞】 大麦を押し潰したもの (志 (布施田)) [会話] びしゃき麦 言うのを、びしゃけと る (潰れている) もんで (ので)、びしゃき麦 言うねけど (言うのだが)、ツブシムギや (だ) 言う にげ (人間) も有るしなあ (有ります)。

つぶす【動】【他サ五】 1) 外部から圧力を加えてもとの形をなくす 壊す 破壊する 2) 泥酔させる。3) 屠殺する、鶏をツブス [会話] 1) しらめ (風) ツブス、蚤ツブス、ねぶと (出来物) ツブス。昔や (は) ねぶとツブスとなあ、仇や 仇や 言う

てな 親や兄弟は痛がると てえ (手) 放すやんな い (でしょう) そすと仇は 痛いも 尻糞も あ ろかれ (有るものか) 言うて 押しまくって 芯な (が) 出る迄押しまくるもんでなあ (ので)、ね ぶと 押すよん (ように) になると 仇 たので (頼んで) 来い 言うて、仇 仇 言うて 押してもら よおったの (もらって居たのです)。

つぶつ。つぶつぶ【粒々】【名詞】 仏に供える木 ひささき (掟) ひしょご (山柵)。ひめささきの変化した語。ツバキ科の常緑低木、又は高木。高さ約3 m葉は短柄を持ち二列に互生し長さ約3~8 cmの随円形で縁に細鋸歯が有る。雌雄異株、早春葉腋に紫白色で鐘状の小さな五弁花が下向きに咲く果実は球状で紫白色に熟す。(志 (布施田)) [会話] ツブツのきい (木) 墓い (に) 参る。ツブツ食うた (食べた) 目白みたよな あ (のようだ) 言うて、目白な (が) ツブツ食うと ふくれて くんで (来るので) 胸毛 ふくろかして (膨らませて)。にげな (人間が) 首すっこめて ふくれると あや (あれ) ツブツ食うた 目白みたよん。こころは ツブツを あげんして (あんなにして) 墓い (に) 参んのん (参るのに) かなもん みたよん 言うけど。かなもん 言うて 大事なもん (物) 見ると かなもん みたよん して 言うの。大事な もん (物) とか、少ない たしない (少しの) もん (物) 見ると かなもんやよつて (だから) こやま あ (これは) 言うて。

つぶつぶ → ずぶずぶ。

つぶとつけ 1) まくりあげなさい つびぼるの転訛。2) 黙認しておきなさい。つむるの訛。

つぶとい【ずぶとい】【形容詞】 図図しい 厚顔である 大胆である [会話] おっちゃん (横着) な のおをなあ (のを) ツブトイ。あやまあ (彼は) し よおしよ (少し位) 言うたてて (言っても) 聞かせん (ない) 言うてなあ。ノブトオテ (図太くて) 言う事 聞かせんね (聞かないのだ) ツブトイねよつてん (のだから) 言うてな。

つぶなわからん 話、言葉の発音や意味が判らない。(志 (布施田))

つぶもん【名詞】 粒の物 穀物 (志 (布施田)) [会話] うどん粉とか 小麦粉とか、とびきとか、米の粉とか、そばの粉とか言うて、ツブモンを挽いた もん (物) を こおや (粉だ)。

つぶり【名詞】 1) 丸く巻いたもの。丸い形で一塊り

になったもの。2) 頭 (志 (布施田)、桑市、津)
[会話] 1) なあ (縄) のおて (なって) 巻いてあ
んの (有るのを) ひと (一) ツブリ 言うの (ので
す)。巻いて有って 一つの塊りん (に) して、か
い山ん (に) 行くのは 二把あつ (づつ) のおて
(なって) ひとツブリん (に) してなあ。そのひい
(日) 一日 しばんの (くるのです) ちっちゃあ
い (小さい) のをな 枕ほどけんのおを (程のの
を) 二把 なうと そんな (それが) 出来んね。
(出来るのです)。

つぶる (瞑) 【他ラ五】 閉じる め (目) つぶった
死んだ (志 (布施田)) [会話] めえ (目) ツブ
ル。めえ (目) ツブツトル (瞑っている)。めえ
(目) つむる 言うのを、めえ (目) ツブル 言う
の。めえ (目) ツブル 言う時は 死んだ まあ
あのひた (人は) めえ (目) ツブッタンテワレ (瞑
ったそうだと) 言うて、めえ (目) ねぶった (眠っ
た) 言うの (のを)。めえ (目) 閉じる 死んだ時
や (で) のおても (なくても) 子ららん (達に) で
も、寝てく (いく) 時ん (に) になると ばちばちし
とると (していると) めえ (目) も、ツブッテ 言
うて。めえ (目) も ふさんで (閉じて) 言うのを
めえ (目) も ツブッテ 言うて。ふさげ、(閉じ
る) 目つぶれ 言うて。

つぶれ 【名詞】 海の石が多い所。つむれ ツチムレ
(土群) の略。土の小高くなつ所。(志、鳥)

つぶれかけ 壊れかけ。

つぶれた 1) 壊れた 2) 倒産した [会話] 1)
ツブレタ 言うて、やいこい (柔らかい) のおな
(のが) うちやれてくと (壊れて行くと) つぶした
たな (てしまった)、そやれ (それ) つぶれてた
(ていった) 言うて。2) あの家や (は) ツブレタ
ンテナイ (たそうだと) 言うのな。倒産するとなあ。
あの家や (は) ツブレカケやどお (だぞ) 言うてな、
倒産する前 商売な (が) さかまいん (逆転) なっ
て 来ると、あの家や (は) ツブレテクんどお (て
行くのだ) つぶれる前やれ (だ) まあ 言うて。

つぶれてた 1) 壊れて行つた。2) 倒産した。

つぶれる (潰) 【自ラ下一】 1) 壊れる 砕ける 崩
れる 2) 酔って正体がなくなる 3) 倒産する
(南)

つべこべ 【副詞】 よく喋る 多弁 又、そのさま
(鳥) [会話] ちべこべ 喋んなまあ (喋るな) 言
うて。よけ (沢山) ぶつぶつ 言うと、ちべこべと

よけ (沢山) 喋ってとか、ちべこべ ぼやくとか、
ツベコベ ちべこべ 言うのなあ。ツベコベも 言
うね (言うのです)。ツベコベ よけ 言うなまあ
(言うな) 言うて あんまり (あまり) 小言 言う
と ちべこべ言うなまあ言うて。

つべこべいう いろいろと文句を言う (鳥)

つべたい (冷) 【形容詞】 外気が皮膚に当たって冷え
る ひんやりする。物の温度が低く触れると冷やや
かな感じがする、つめたい。つめたしの口語。(志
(立神)、鳥、桑郡、桑市、員、三、四、鈴市、久、
一、松、上、阿、張、名、伊) [会話] 冷たい 言
うの (のを) おおた てえな (手が) 冷とおて (た
くて) 指の先な (が) こおってたれ (凍っていつ
た)、やめられ (痛い) 言うて。寒中ん (に) なる
と、水なぶりした後 おおた てえな (手が) 冷と
おて やめんねよお (痛いのだ) 言うて、つめたい
言わんと (言わずに) ツペタイ言う人も 有るわい
(有ります)。

つべつべ 【副詞】 つべこべに同じ よくものを言うさ
ま

つぶ 【名詞】 粒 一ツボ 二ツボ めつツボ (飯粒)
つぶ 粒 丸くて小さい物を数えるのに用いる。ツ
ブ (粒) の訛 (広辞苑) (志 (布施田)、鳥、員、鈴
市、鈴郡、一、上、阿、張、名、度、伊、北) [会
話] ちっちゃい (小さい) 一ツボ、めつツボ (飯
粒)。粒の事を、小粒なもん なあ (物を) こや (こ
れは) 小粒やあ (だ) 言うし。豆ツボやとか (だ
とか)、米ツボやとか 麦ツボやたら 言うて。板
間い (に) そばツボ こぼしたよおな (だ) 言うて
鼻の ひっくい (低い) 人見ると おおた (ああ)
鼻 見よまあ (見なさい) 板間い (に) そばツボ
こぼしたよん (ように) しとる (している)。ひっ
くうて (低くて) 顔な (が) べたべたみたよおん
(のように) 鼻な (が) どこやら 判らせん (判ら
ない) ので、板間い (に) そばツボ こぼすと ど
こやら判らせんので (判らないので) そんで (それ
で) 板間い (に) そばツボ こぼしたよおな鼻や
あ (だ) 言うて、極くちっさい (小さい)。数 数
えん のでも (数えるのでも) 一ツボ 二ツボ 言
うて、豆 勘定すんのん (するの) 一ツボ 二ツボ 言
うて 勘定して。おつごも (大晦日) の
豆 頂くのん (の) 幾ツボ言うて 勘定して頂く
よってなあ (のだから)。わしや (私は) 九十三
食べな (食べなければ) はざん (駄目だ) そやよっ

てん（それだから）はあ（端数）だけ 食うときや（食べておけば）ええね（いい）、三つ。私や（は）八十五も よお食べんやんない（食べれないでしょう）。そやもんで（それだから）八つと五つと していて（しておいて）食べんの（食べるのです）。

つぼ【名詞】 急所 大切な所 肝心な所（志（立神））〔会話〕 ツボ押してまあ言うて ツボ押して、くれまあえ（下さい）言うて。なんでも（なにでも）当たると、当たった、ツボやなあ（だ）言うてなあ、仕事しとて（していても）商売しても あやまあ（あれは）ツボい（へ）当たったなあ言うて、急所どこ（所）言うの（のを）ツボ言うて。

つぼ【名詞】 穴 特に墓地の穴（鳥（長岡）、南）〔会話〕 ツボ堀り 棺柩入れんの（るのを）ツボ堀り 頼む 言うてなあ。

つぼ（壺）【名詞】 本膳につく少し深い目の容器 〔会話〕 皿は ひらくとおて（平らで）しとんねけど（しているが）ちよいと（少し）小鉢みたよおん（みたいに）なって、縁な（が）曲がつとて（曲がついて）おっきいのが（大きいのが）ひらで ツボは ちょっと なあが（長い）ので。

つぼあん【名詞】 粒餡 小豆を潰してない餡（上、阿、伊、熊）〔会話〕 氷の中い（へ）餡入れると 金時あれも ツボアンにしといて（しておいて）

つぼおす 1) 凶星をあてる つぼ 壺 灸をすえ鍼を打って効果のある人体の定まった箇所、物事の大事な点 急所 肝要な所 凶星 おす 押す 圧す 念を押す だめを押すの形でたしかめる 2) 念を押す。〔会話〕 1) 肩のつぼとか 痛いところ（所）押すと、つぼな（が）有るやんかい（有ります）。つぼい（に）灸すえる 言うて 押しといて（押しておいて）痛いとか（所は）つぼやよってん（だから）灸すえる言うて よお（よく）すえよおったわい（すえて居ました）それを ツボオス 言うて。今しみたよん（今みたいに）医者な（が）診てくれやせんし（くれないので）、わがとら（自分達）けんと（見当・あてずっぽう）で 押して見て 痛いとか（所は）こか（ここは）つぼやなあ（だ）言うて、そこい（に）灸据えおったの（据えて居たのです）。2) 話して 肝心の事を ツボオサレてまあ言うて、肝心のところ（所）で ぎゅっと 言うと ツボオサレて 言うてなあ。

つぼき【名詞】 正月に用いる藁で作った神に供える食

器様のもの（壺器）つぼきはつぼみたる形より呼ぶ。或説につぼきのきは器の字なるべしと言へども、きは虚字にてツボク、スボクなど言うクに通ふべき字なるべし。みつくらいはしを箸と思ひて飯を盛るツボキの辺に立つ。大戸口に松三本（左二本、右一本）建。榊を添藁にしてツボキと称し、器の形を制、左右に一つ一つ結わえつけ注連縄を張りて、白紙にて四手を作り、橙、海老、ヒイラギの葉、蘇民符の札を押す。正月十五日、小豆粥の祝いにツボキに小豆粥をそなえる。ツボキと云う物は藁にて作りたるもの又トオクラベの葉、ヒビの木葉、ユズリハの葉など備える家もある。（五十鈴の落葉）（志（神明、立神、安乗）、鳥、度）〔会話〕 ツボキ 神さん しゃんがつどん（正月殿）へ 供える お茶碗。藁で編むの（のは）ツボキ言うのなあ。まあうしたの（丸くしたの）茶碗と皿と 一つ い（に）飯して一つつあ（は）なますして 一對にしといて（しておいて）ほいついや（祈りの言葉）言うて、御神酒やどきや（などは）ついつい（祈りの言葉）しといて。

つぼっとく 1) 短くする。2) 仲間外れにする。3) 省略する。

つぼっとけ 1) まくり上げなさい 短くしなさい 2) 省略しておけ 3) 仲間外れにしておけ

つぼのうち【名詞】 中庭 内庭（志、鳥、桑市、員、三、四、鈴市、鈴郡、安、津、一、飯、上、阿、名、伊、尾、南）〔会話〕 庭の 池な（が）あつて、外い（に）垣な（が）してある家な（が）有るやんない（でしょう）。あいなとこを（あんな所を）言わせんのかいのお（言わないのでしょうか）ツボノウチ 言うな（言うのは）。

つぼひら【名詞】 椀と皿 御馳走の本膳につく木製の容器 〔会話〕 本膳で ツボヒラな（が）ついてどいらい（大変な）ごっつお（御馳走）やった（だった）言うて。ヒラ 言うな（言うのは）ひらくたいなあ（平な）。ツボ言うな 煮しめもん（野菜の煮た物）盛ったりすんの（するのです）。そしておつけ（味噌汁）盛んな（よそうのは）おつけ 盛んなので（よそうので）又 違うの。

つぼほり（壺掘）【名詞】 穴掘り人 特に墓地（志（布施田、片田、越賀）、鳥、熊）〔会話〕 ツボホリや（は）死んだ人の穴 掘んの（掘るのを）ツボホリ。墓掘り人 墓掘り。

つぼまる（俵）【自ラ五】 小さく狭くなる つぼむ

すばまる [会話] ツボマル 言うの (のです)。
傘でも さいたると (さすと) ツボゲトカンカレ
(ておきなさい) 傘も 言うてな、ツボゲトケ言う
ね (すばめておけ言うのです)。

つぼむ (窄) 【自マ五】 小さくなる 狭く小さくなる
花などがしぼむ しおれる つほ (壺) を活用した
語 (大言海 広辞苑) [会話] ツボム 言うて ち
つちよおなる (小さくなる) ちつちよお なんの
(なるのを) ツボンドンネ (でいるのだ) 言うてな。
おおた、せぼおて (狭くて) せぼおて ツボンドラ
ナ (でいなければ) 入いられやせんない (入られな
い) 言うてな、ちつそお (小さく) なんの (なるの
を) ツボム言うて。

つぼめる (窄) 【他マ下一】 1) 窄める 開いていた
物を閉じて小さくする 先の方の幅を狭くする す
ぼめる (志 (布施田)、鳥) 2) 縮める 3) 少な
くする [会話] 1) すぼめる。尻をひって 尻ツ
ボメル。子供らの おりん (折に・時に) かるた取
り しよおったやんかい (して居ました)。泣き面
に蜂、尻をひって 尻ツボメ言うて。ツボメル
3) なんやかやを へずめる (少なくする) 事をツ
ボメル 言うて。2) 縮める事を ツボメル 言う
て。巾着の口も ツボメトケとか、しぼる事を ツ
ボメル 言うの。何でも おっきいもんを (大きい
物を) 小さくすんの ツボメル、傘でも開いたら
(いたら) ツボゲンカ (窄めなさい) 言うやんな
い。(でしょう)。

つぼり 【名詞】 短くすること 又そのもの 縫上げ
[会話] きもん (着物) 着ても、ツボりな (が)
の おて (無くて) この きもん はざんな (いけ
ない) 言うて。きもん なあごお (長く) 三尺五
寸で ええ (よい) のを 四尺ん (に) し といて
(しておいて) ツボり 腰い (に) し といて、ツ
ボりな (が) 無いと みとみないわれ (見苦しい
です) 言うて つぼらな (なければ) はざんねて
や (いけないのです)。子供の時にや (には) の
いあげ (縫い上げ) 言うてな のやげ (縫上げ)
しよおったね (して居たのです)、つぼしよおったね
(って居たのです)。そやけど (しかし) 大人ん
(に) になると ツボり こしひぼ (腰紐) し といて
てなあ (しておいて) はぼりをせな (しなければ)
みとみない、帯した おりん (時に)。

つぼる (窄折) 【他ラ五】 1) 裾を端折りする (志
(浜島、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、伊、松、

尾、北) 2) 節約する 短くする 除く 省く (志、
松、北、尾) [会話] 1) ツボル 尻ツボルとか
なんでも なあがいの おを (長いのを) 短こお (短
く) すんの (するのを) ツボル言うて。きもん (着
物) でも 尻まくり 尻 ツボル 言うて。電気の
傘のひぼ (紐) も ちよいと (少し) なあがいの、ツ
ボットケまあ (ておけ) 言うたり、なあがいの もん
(長い物) 縮める事を ツボル 言うて。2) 財布
の紐 縮めるのおも (のも) ツボル 言うて。そし
て 親戚の呼ぶごと (集める・呼び集める行事) で
も あると、あの家や (は) ツボットケ とか、は
ぼっとけ とか 言うて。あの家や (は) うっすい
のん (血縁が薄いのに) ツボットケ言うて。うっす
い (薄い) よってん (から) 呼びや (呼べば) ええ
けど (よいが) 座敷も せばいよって (狭いから)
そいなな (そんなのは) ツボットキャ (ておけば)
ええわれ (よろしい) 言うて。うっすいよって こ
らい といて (許しておいて) もらおや (もらおう)、
ちよいと (少し) のけ といて (のけておいて) 又だ、
配りもん (物) でも するやれ (しましよう) 言う
て よお (よく) 言うやんかい (言います)。

つまし (儉) 【形容詞】 儉約する 無駄遣いしない
生活が地味である ツツマシ (約) の意 (大言海)
[会話] ツマシ。こおと (質素) ん (に) する事な
あ あのにげや (人間・人は) ツマシよってん (か
ら) なんやかや よけ (沢山) ためてなあ言うて。
無駄遣いせん (しない) 事を ツマシよってな あ
言うし。

つまづく (蹶) 【自カ五】 失敗する [会話] “昔なじ
みと ケツマズイタ石は 面は憎うても 後を見
る” 言うて。痛おて (痛くて) 後 誰でも見るやん
かい (見ます)。そして 商売で失敗しても ツマ
ヅク言うて。

つまみぐい 【名詞】 1) 他人の夫、妻と情交する。
2) 盗喰い

つまむ 1) つかむ 2) 着物の少しの破れをなおす。

つまど 【名詞】 辻棲 つまどんあわん参照

つまどんあわん 辻棲が合わない、つまどは妻戸 (両
開きの戸) からか。両側の戸が合わない事から。
[会話] ツマドンアワン言うな、何ん (何に) して
も ツマドンアワンで言うて、何しても どく (満
足) な事 しやせん と (しないと)、辻棲なあわん
事言うたり、したりする事を、ツマドンアワンよお
な事言うて。

つまめ【**名詞**】豆 [会話] ツマメモ 食うたら 団子も にのて (担って) じさん (爺さん) も ばさん (婆さん) も 孫らも 一緒に よいそら よいそら。

つまらかす 1) 詰める つまらす 2) 便秘する [会話] 2) ぐみの 渋いの (のを) 食うて 尻い (に) ツマラカス。

つまらん 1) 粗末だ まずい (鳥 (相差、答志))
2) 張り合いがない 気持ちがその気にならない
3) 対象として取り上げる値打ちがない 4) 容器に一杯にならない [会話] 1) あやまあ (あれは) ツマランなあ あいな (あんな) 事して ツマラン事 したなあ言うて、わり (悪い) 事やなあ (です) あんで (あれで)。2) 自分でも なんも張り合いも のおて (無くて) なんしょお (何しよう) 言うても (言っても) 何もしたない (したくない) 時、まあ (もう) ツマランナあ言うて。○、言う人な (が) 有ったやんない (でしょう)。そして妾 持つとて (持っていて) 昼も夜も 寝とんねて や (寝て居るのです)。そお言う事が 好きやもん で (なので) そすと (そうすると) 男の子ららな (達が) とと (夫) かか (女) 寝て ぼぼしょお (性交しましょう) ぼぼしょお言ってる間に 夜が明けた、ツマラン ツマラン かつこめ かつこめ 言うてかまうんやんかな (からかうのです)。夜も昼も 寝とんねやんかい (寝て居るのです)。ねごと (寝事・寝てする事・情事) な (が) 好きなんな あ (なので)。

つまる【**自ラ五**】1) 行き詰まる 2) 逼迫する 3) 戸、障子などがかたい事 (南) 4) 密集して居る (北) [会話] 1) 鼻な (が) ツマルとか、2) 節季が来て 金にツマルとか、3) とお (戸) な (が) ツマットテ (ていて) 入れやせん (入れない)。節季が来て 金がのおて (無くて) 金ん (に) ツマル言う。金に つまんなあ (つまるのは) いっち (一番) どもならんけどなあ (どうにもならない)。

つみ (罪) 罪。ふびん。気の毒に思うこと。他人を悲しまたり苦しめたり惑わせたりするような要素を持っていること。情け。(志) [会話] ツミな (が) 重いど (ぞ) 言うて、ツミな (が) かかる 言うて、わり (悪い) 事するとなあ ツミな かかんど (かかるぞ) 言うて。あの子は ツミな子で 言うて可愛いそおな子で 言うばやい (場合) ツミな子な

(が) あんで (あるので)。ツミな子な (が) あって 言うな (言うのは) おなご (女) 他所い (に) こさえて (作って) こお (子) な (が) 出来た 言うの ツミ作って ツミなこお こさえて (作って)。そんで (それで) ツミなこお (子) に情けかけんのおも (かけるのも) 言うやんかい (言うのです)。あや (彼は) ツミなこおや よって (子だから)、ツミも かけたらな (かけてあげなければ) はざんわれ (いけない) 言うて、情けかける事を ツミかける言うなあ (のは) ツミ 作たら らな (作ってあげなくては) はざんわれ 言うて。

つみかける 情けをかける。つみ参照

つみつくり (罪作) 【**名詞**】情けない事をする人 人に気の毒な思いをさせる人間 (志 (志島、甲賀)) [会話] ツミツクリやなあ (だ) 言うて。びんぼ (貧乏) したり、難儀したり、しとると (していると)、兄弟でも親でも、あんな (彼が) 難儀 しとんのん (しているのに)、なんか (なにか) したら な (してやらなければ) はざんわれ (いけない)、どげんも (どんなにも) したら な はざんわれ 言うのをな、あやまあ (彼は) ツミツクリでなあ 言うてなあ。しょうがつ (正月) な (が) 来たよって (から) 米の一斗も、こおたら な (買ってやらなければ) はざんわれ 言うて。みんな な (皆が) つみつくんのなあ (作るのを)、ツミツクリやなあ (だ) 言うてな。

つみつくる 悪い事した 気の毒な事をした

つみなこと 可哀相なこと

つみなにげ【**名詞**】可哀相な人

つみにする 不憫がる 可哀相に思う (志)

つみびと (罪人) 【**名詞**】罪を犯した人 犯罪者 [会話] ツミビト 言うて 罪人の事やなあ (です)。

つみやげる 積み上げる [会話] おしやげて (積み上げて) 有ると、おしやげといた (押し上げておいた) とか、ツミヤゲトイタ (積み上げておいた) とか。

つみんなる 不憫で気に掛る。(志 (布施田))

つむ (詰) 【**自マ五**】混雑する こみ合う 密で隙間無く詰まる 1) ふさがる (志 (神明、立神、甲賀)、鳥、松) 2) 一杯である (志、鳥、松、桑市、四、鈴市、鈴郡、安、津、多、上、阿、張、名、伊、尾) [会話] 1) 席な (が) ツム事を、今日は 人づみな (人込みが) えろおて (大変で) 言うて。そして 昔や (は) おお (緒) を 繫げんの な (繫げ

るのが) 緒ツム (紡ぐ) 言うて、緒を きさいとい
て (裂いておいて) 糸に よる迄、籠い (に) よつ
といて (選んでおいて) こんだ (今度は) 機械で
いくこ (幾重ね) んも (にも) すんの (するの) そ
れを おおツム 言うて つなげんのを (つなぐの
を)。つなげる (つなぐ) のも ツムやし (ですし)、
2) 物一杯 詰め込むのおも (のもの) つめるとか
ツムとかなあ。正月に寝る時に 稲ツム 言うて。

つむ 紡ぐ 前項参照

つむ (切) 短くする。髪を刈る。爪を切る。

つむ (摘) 【他マ五】 1) 省く 2) 摘み取る。

つむ 【他マ五】 前歯で噛む。(志 (布施田、甲賀))
[会話] 蚤や しらめ (虱) も 身内やわい (で
す)、ちい (血) 分けた兄弟や (です)。ちい 分け
た兄弟 何処やることな (が) あるや (あるか) 言
うて 皆 ぶつぶつ ツンダンノ (つんでやるので
す)、昔や (は) 口い (に) 入れて 皆つめおった
やんかい (つみました)。口でツム 言うな (言う
のは) 潰す 口で ぶつんと 潰すのなあ。

つむり 【名詞】 1) 頭 ツブラ (円) の転 (大言海)
(志 (布施田)、伊、桑市) 2) 丸い形をした物。

つめ (詰) 【名詞】 1) 詰める事 物の隙間などにつ
める物 栓 (志 (志島、国府)、上、阿、張、名、
南) 2) 末端 (物、時間、すべてに) 最後 年末
(志 (布施田)、北) 3) 支持棒 (南) 施錠 [会
話] 2) ツメ 言うのは 端の事も 言うやんかい
(言います)。一番端の事を ツメい (に) ま
で いた (行った)、ツメい (に) まだ届いたか 言
うて。年のゴクヅメや (だ) とか、オツツメまで 言
うて 節季の一番ツメん (に) になると、オツツメ
のお (迫って) 言うて、端ん (に) なって来ると。
錠おとすのおを (のを) ツメトケよお。大戸 (玄
関) とか 流し (台所) も ツメタカ 言うて 錠
おとす事を ツメトケよお 言うて。1) 隙間に詰
める 詰めもん (物) も 詰める 言うて、なん
でも こめんのを (込めるのを) 穴い (に) 詰めとけ
詰め込んで まあ言うて。3) ツメ こおとけ (し
ておけ) 言うな (言うのは)、時化の時 芯張り棒
で つめぼ (棒) で詰めおったやんかい (詰めて居
ました)。竹で はすかいに (斜めに) して 戸尻
と 柱い (へ) 突っ張って ツメや (だ) 言うて、
ツメぼ や (だ) 言うて。昔や (は) 錠の無いとか
(所は) ツメぼ しとけ (しておけ) 言うて 棒で
つめよおったやんかい (詰めて居ました)。

づめ (詰) (語素) → ずめ

つめあい (つめあひ) (詰合) 【名詞】 ひしめきあう
群がる [会話] ええ さいて (鯛を掬って) 来た
早よ (早く) 貰いん (に) 行て (行つて) 来い お
ら (俺は) もおて (もらつて) 来た 言うて、皆な
(が) ツメアイして 貰いん (に) 行きおったわい
(行きました)。

つめあう (つめあふ) (詰合) 【自ワ五】 乗り物、会場
などで隙間を少なくするため互いに奥の方に進む
[会話] みんなな (皆が) ツメヨテ (あつて) 詰め
込んで 言うて、まあ一杯で 入いられやせんけど
(ないが) sonde mo (それでも) 詰め込め言うてな。
芝居 見いん (に) 行ても はよ (早く) まあ せ
ばいけど (狭いが) 詰め込んで入いやるんか (入
りましょう) 言う時もあるしなあ。せぼおて (狭く
て) せぼおて 押し込みやいで (あいだ) 詰め込
んで まあ ぎちづみ やれ (だ) 言うて。

つめあかざれ 【名詞】 指先に生ずるあかざれ

つめおぼえ 【名詞】 爪で搔いた傷跡、又それが化膿す
ること。[会話] ツメオボエ 爪で搔いて 傷こさ
えたんの (作るのを) ツメオボエ こさえた (作っ
た) 言うて、搔きむしったるやんな (てやるでしょ
う) 後で黴菌な (が) 入って かぼん (出来物に)
なつてくんねやんかい (来るのです)。ツメオボエ
から黴菌が入って。

つめかう 心張りをかう かう 支う 倒れそうな物
を支えるため斜め下から棒状の物をあてがう。鍵や
門をかけて扉が開かないようにする。[会話] 錠す
る言う事をなあ ツメカウ しや (それ) 勝手も、
言うて、何処もかも、ツメカエヨオ (しなさい) 言
うて。錠、落とせよお 言うのをなあ。そいて な
んでも おつてく (落ちて行く) 思うと ツメコオ
トカナ (しておかなければ) 落つてかせんか (てい
かないか) 言う時も、有るしな。

つめがき 【名詞】 足袋 脚絆 帙などを止める爪形の
もの こはぜ [会話] 足袋のこはぜ。足袋のツメ
ガキ ツメガキ 言うたり こはぜ言うたり。

つめがみ (結紙) 【名詞】 穴や隙間などに詰めて塞ぐ
紙。多く遊女などが客をとる際 妊娠を防ぐため、
又、月経時などに陰部につめて使用した [会話]
まちがや (間違えば) 間違うもんだよ おそその
ツメガミ、そのまま 置いたら さんごおじ (珊瑚
珠) と とりまちごおて (間違えて) 三百三十三匁
三分三厘 値をつけた。

つめきり【名詞】約束。ゆびきり。

つめぎりそお【名詞】まつばぼたん 百日草(志、鳥、伊、桑郡、桑市、鈴市、安、上、度、南)

つめぎる【動詞】爪の先でつねる つねる 爪や指先で皮膚を少しつまんでねじる(志(浜島、布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥(鳥羽)、員、三、鈴市、鈴郡、安、多、上、阿、張)[会話] ひねぎる 言うの、ひねぎって おこした(よこした)、爪立てて こやって(こうして)痛いやんな(でしょう) ツメギルと、えぐる 言うな(言うのは) こして(こうして・指先で) すんの(するのを) えぐって おこした(よこした)。爪やなしん(でなくて) 指の腹で みい(肉) をこして(こうして・ねじる) すんのを(するのを) えぐられた言うて、なんやかや 言うて 口 えぐったろかあ(てやろうか) 言うて、口 ねじるやんない(でしょう)。ツメギル言うな(言うのは) 爪立てる 爪でねじて。こお(子) おおどても(背負っていても) わり(悪く) すると ツメギル 言うて 親らな(達が) 言よおったけど(言って居たが)、えぐる 言うなあ(言うのは) みい(身) を ねじんの(ねじるのを) えぐられた 言うて 口答えすると だれ(どれ) 口 えぐったろん(てやろう) 言うて ねじんなあ(ねじります) ねじんのおと(ねじるのと) ツメギンナア(爪ぎるのは) 違う。

つめする 栓をする 施錠する

つめだめ【名詞】儉約して貯える事 [会話] ツメダメ言うてだ(です)、こおと(質素) ん(に) する事なあ(です)。せえこん(精根) こめて、ツメダメと ためたけど(が) 息子な(が) ずぼら(怠け者) で 皆 しんしょ(身上) しもた(失った) とか 言うて、いっしょけめ(一生懸命) で 節約して 派手な事よおせんと(せずに) ええもん(よい物) も よお食わんと(食わずに) しまつ(節約) して ためた金やけど(だが) 息子な(が) 代ん(に) なったや(なったら) こげん(こんなに) したて 言うて。

つめつめする 儉約する 質素にする けちけちする [会話] 儉約して、こおと(質素) ん(に) する言うのなあ(です)、ツメツメスル 言うて。

つめつめと【形容詞】儉約して居る状態 質素にしている状態 [会話] ツメツメト言うのは ものすごお(大変) こおと(質素) にした事をなあ(です) ツメツメト言うのなあ。

つめとく 1) 施錠する 2) 詰めておく

つめとけ 1) 施錠しておけ。2) 詰めておけ。

つめとんどう 待ち構えて居る。(志(布施田))

つめなどがめる 爪の周囲の傷が化膿する事 [会話] とがめて 膿んで来るやんかい(来ます)、ツメナトガメル 病む言うの。爪のふちくた(周辺) な(が) さかもけ な(が) 出来て それから 黴菌 な(が) 入んねかして(入るらしく)。爪まあしよおで(病んで) 言うて 膿 持ってくんのなあ(来るの)。

つめば【名詞】心張り棒 戸などが開かないように支える棒(志(布施田)) [会話] つめこおとけ、時化の時 心張り棒で ツメボで つめおったやんかい(居たで有りませんか)。竹で はすかいにして(斜めにして) 戸尻と 柱い(に) 突っ張って ツメボや(だ) 言うて。

つめまわし【名詞】爪の周囲の化膿 つめおぼえ [会話] 爪のなあ 周りを病んで来んの(来るのを) ツメマワシ。まあり(周り) な(が) 膿んで来る時な(が) 有るんなあ、黴菌入れおったんやろなあ(入れて居たのでしょう) よお(よく) 膿んで来いおったわい(来ました)。傷やみ するよってん(から) 言うて、十七闇を拝んで、十七夜さん(十七日の月) 傷やみ さしてくださん(さしてください) 言うて。十七闇 出て来んの(来るのを) 待ってて(待っていて) 拝め 言うて、十七闇 ちよいと(少し) おっそいやんない(遅いでしょう)。夕食食うて ちよいとすると出て 来るわい(来ます)。そや(それ) 十七闇 拝めよお言よおった(言っていました) 傷やみするもんで(ので)。

つめもん【名詞】隙間に詰める物 詰め物 [会話] 隙間に詰める ツメモンも 詰める 言うて。

つめる(詰)【自マ下】1) 容器や箱などに物を隙間のないように沢山入れる 穴や隙間に物を押し入れて塞ぐ はさむ(志、鳥、松) 2) よく勤まる 根気よく続ける 3) 狭む(志(鶴方、立神、志島、国府、安乗)、鳥、伊、桑市、桑郡、松、多、阿、張、名、尾、北、南、熊) 4) 座席を少しづつ寄って座席をつくる。5) 塞ぐ。(南) [会話] 3) てえ(手) ツメル、なんかで(なにかで) ツメル、とお(戸) 閉める時ん(に) よお(よく) 手 ツメテナア、戸で ぴしゃんと 閉めると 血豆出したり すんのと(するのと)、2) 勤めん(勤める) のも 毎日休まんと(休まずに) 行くと ツメル 言うし、

1) なんやかや (何や彼や) を 寄せるのも 詰め込め 言うて、袋い (に) 詰め込め 言うて。詰め込んで ロな (が) 出来んほど (締まらないほど) 詰め込んどけ (でおけ) 言うて ねじ込め、ロい (に) ねじ込まれた 言うて よお 言うやんかい (言います)。

つもご【名詞】 月の最終日、つごもりの略訛 (桑市、三、鈴郡、鈴市、安、津、一、久、松、多、上、阿、名、度、伊、尾)

つもだり 摘んだり [会話] 仕事のなかいれ (一休み) する時にや (には) 煙草吸うたり (吸ったり) ちゃあ (茶) 飲んだり、ちゃあ 飲む言う時や (は)、ちゃあ だけやなしん (でなしに)、きんこ (芋煮切り干し) や だんがられ (芋団子) ツモダリ ちょいと (少し) ええと (よいと) あられ 混ぜり (混ぜり) の そら豆や (です)。

つもり【積】【名詞】 多分 そうなるだろうと言う考え、又、こうしようとする意図 心掛け。[会話] そげん (そんなに) する ツモリや (だ) 言うのかい (ですか)。今日は どげん (どんなに) する、ツモリやったねけどなあ (だったのだが) 言うて、したツモリ 食うたツモリ言うて 思うだけや (です) ツモリ言うななあ (のは)。

つもりごと。つもりもん【名詞】 謎かけ遊び (志 (布施田))

つもりやい【名詞】 謎かけ遊び 当て較べ [会話] つもって 見よまあ (見なさい) 言うて、ツモリヤイ しょおや (しましよう) 言うて。今し (今の) のクイズ、ツモリヤイ言うて これ つもって見よまあ (見なさい) 言うて。

つもる【積】【自ラ五】 推量する 言い当てる (志 (布施田、立神、甲賀、国府、安乗)) 2) 思い詰める [会話] 2) 思いがツモルとか、つものとか。つる ツモル 一緒の言葉や (です)。恋がツモルとか、思いな (が) ツモルとか、思いつめる事を 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。1) つもって 見よまあ (見なさい) つもりやい (当て比べ) しょおや (しましよう) 言うて、今し (今の) のクイズ すん (する) のを つもりやい しょおや、これ つもって見よ 言うて。“天からくるくるきい (木) から くるくる、くるくる竹の底抜け竹け これ なあに” 言うて 火吹き竹。“おまや (お前は) 左行け わしゃ (私は) 右い (に) 行く” 言う と まいかけ (前掛け) のひぼ (紐) を

言いおった (言っていました)。“しき 新左衛門 中通る とんざえ門” これなあに 言うたり 戸と しき (敷居)。

つや【名詞】 通夜。死者の前で一晩中見守って居る事。よとき参照 (津、多、張)

つやがる 1) 引きつられている。(傷、腫物の後)

2) つり上がる (怒った時の目など) つやげる参照

つやがみ【艶紙】【名詞】 片面に美しい光沢、色彩を持つ紙。

つやげて 吊り上げて。つやげる参照

つやげる 吊りあげる [会話] ツヤゲル 吊り上げる 言うのをなあ。めえ (目) も ツヤゲテ ひっかかって (掛かって) くんねんなあ (来るのです) 言うて。

つやつやしとる 光沢がよい、色艶がよい、元気そう だ

つゆあけとおか 最も天候がよく、穏やかな期間

つゆかぶれ【名詞】 植物の露によっておこる皮膚炎 (北) [会話] 朝露に 畑い (へ) 入ると 手袋も掛けてせな (しなければ) ツユカブレ すんど (するぞ) 言うて。皮膚の弱いにげや (人間は) かぶれんねてや (るのです) 露な (が) 有るとなあ。

つゆぶいとる 壁などに露が多く浮いて居る。結露している。

つゆり (つゆり)【梅雨入】【名詞】 梅雨 はえ つゆ 六月頃降り続く長雨 (志 (畔名、志島)、鳥、尾、北、南、熊) [会話] ツユリ 言う と、雨な (が) 幾日も続くと ツユリやなあ (だ) 言うて。五月のツユリ ん (に) になると、ひげ (細雨) な (が) わいて (生じて) こやまあ (これはもう) ツユリやれ (だ) 言うて。ひげ雨 (細雨) 降って 言うて、五月、雨な (が) 降って来ん (来る) のを ツユリ。長のツユリん (に) 腐らんもんは (腐らない物は) 言うたや (言ったら) 川の飛び石 ぼぼのしやね (陰核) 言うて 昔や (は) ツユリな (が) すると なんもかも (何も彼も) 皆 腐らかしおったやんかい (腐らせて居たで有りませんか)。はえ 言うの、(のです) はえやわい (です) 五月のはえは ツユリやんかい (です)。雨な (が) 幾日も続けて降って 降った思うと 止んでて (でいって) 又 降りするもんで (ので) ツユリなあ。しらはえ 言うのは はえ ちゅうん (の間に) 天気 (晴天) な (が) 続くと しらはえん (に) なった 言うし、くろはえ 言う と 雨ばっか (ばかり) 降んの (降

るのは) くろはえや(です)。波な(が) 立つのは
そこばえ 言う。五月ん(に) になると 海の波な
(が) でござと 多いねてや(の)です) そこばえ
やまあ(だ) 言うて。

つよおて【**形容詞**】強くて(北)

つら(面)【**名詞**】1) 顔面 2) 物の表面(鳥) [会
話] 1) 顔の事。ツラも 見たないわ(見たくな
い) 言うて。憎うて(惜くて) 憎うて ツラも 見
たないわ 言う人もあるし、あの人の ツラな
(が) ええよお みよ(りっぱだなあ、見なさい)
言うて、器量のええ 言うの。ツラのかあ(皮) な
(が) あつつい(厚い) 言うて。

つらあい【**形容詞**】辛い。(志)

つらあて(面当)【**名詞**】あてつけ。嫌な人の前でそ
の人の恥となる様な物事を行なつて、その人に反抗
の態度を示す事。

つらい(辛)【**形容詞**】悲しい(志(国府)、鳥、松、
鈴市、津、一、度、伊、北、南) 2) 気の毒だ
(伊) 3) 残念だ 困った状態(阿) [会話] 1)
つらまし。姑婆な(が) 嫁ん(に) いて(行つて)
ツラカッタ いつでも わが(自分の) 家やよつ
て(だから) 戻つて来いよお言う人らな(が) 有る
やんかい(有ります)。つろおても(辛くて) し
んぼ(辛抱) して そんな(それが) 幾瀬の橋やよ
つて(だから) 渡らな(渡らなければ) はざんねよ
つて(駄目だから) しんぼ して おらな(居なけ
れば) はざん 言う家や(は) ええねけど(いいの
だが)、ツラカッタ おらんで(居なくても) え
えんどお(よろしい) 戻つて来いよお いつでも
わが家やよつてん 言うて、甘口 見せる家な
(が) 有るやんかいな(有ります)。悲しいとか
ツライ つらまし 言うね(言うのです)。つらま
し 言うて つらまして ほんおとっしや(本当
に) 泣かれて 来られ(来ます) 言うて そげん
(そんなに) 言うて あわれめ(憐み) 請おて。つ
らましなあ(のは) なんやてて(何と言つても) 他
人と おんねよつて(いるのだから) つらましけど
それ しんぼ(辛抱) せな(しなければ)。しんぼ
は 金や(だ) 挽臼や(だ) 石や(だ) 言うて。し
んぼ(辛抱) して おりさいしや(えすれば) しま
いにや(には) ええ(よい) 事も 来んねけど(来
るのだが)、その ええ事な(が) 来るまで よお
(よく) しんぼ せんで(出来なくて)。

つらがまえ(つらがまへ) (面構)【**名詞**】顔の格好。

顔つき。

つらがる 気の毒がる(志(神明、立神、志島、甲賀、
国府))

つらきつてく 大変辛い。悲しい。

つらくす。つらくる 吊す(志(神明、立神、国府)、
鳥(鳥羽、加茂)、一、松、多、上、阿、張、名、
北、尾、南、熊) [会話] ツラクル 言うな(言う
のは)、つるくす(吊す) のを、ツラクル。ぶらく
る 言うたり ツラくつケ(ておけ) つるくしと
け言うね。上から さがらかすの(のを) そこへ
つるくしとけ(ておけ) 言うて。

つらだし(面出)【**名詞**】出席する事。

つらつき【**名詞**】顔の様子。顔つき

づらづら【**副詞**】長く連なっているさま ツラツラ
(連々)の義。絶えず続く意(大言海) [会話] ズ
ラツラ 並んどる(でいる) 言うんか(のですか)。
づらりと、並んどる 言う時も有るし、づらと。

づらと 一面に 一面 [会話] ズラッと 並ん
でしとる(している) 言うてな、ズラッと 並ん
で 人ごみん(に) なつとられ(なっている)

つらなとる 連続している。続いて居る。つらなる
参照。

つらなにくい 憎い。つらにくい。[会話] 憎らしい
言うのを ツラナニクイよおななあ(ようだ) 言う
て。

つらなる(連)(列)【**自ラ五**】つながる 連続する
列を作る [会話] ツラナル、あれと、これと、ツ
ラナッとンネ(ているのだ) 言うて。つながつとる
(でいる) 言うんかい(言うのですか)。ツラナル、
つながる 一緒やなあ(です)。つながる言うてな
あの家や(は) あの家と つながつとんね 言うて
な。

つらなにくい(面憎い)【**形容詞**】憎い 可愛いらしく
ない(志、南) [会話] ツラニクイて 見たないわ
れ(です) 言う。なんやかや(いろいろ) 言われて
ごおなわくと(腹が立つと)、おらまあ(俺は) あ
のにげや(人間は) こげん(こんなに) 言われて、
ごおなわいて、ツラニクウて 見たない(見たくな
い) よおな 言うて。昔やろめと(彼と) けつまず
いた石は 面な憎うても あとを 見る言うて、面
な(が) 憎うて 顔な(が) 見たない(見たくな
い) 言う事やなあ(です)。

つらねる(連)(列)【**自ナ下一**】列を作る 列に並べ
る ツラヌ(連)の活用(大言海) [会話] 順々に

ツラネル。ずずつなぎ (数珠つなぎ) やなあ (だ)
言うて、並んでしとるとな (していると) あやれま
(あれ) ずずつなぎん (に) なつとられ (なっている)
言うて 数珠みたよん (のように) 並んどう
(でいる) 言う事やなあ (です)。

つらのかあ (つらのかわ、つらのかは) 【名詞】つら
のかわの訛。顔の表皮。

つらのかあせんまいばり 厚顔無恥 あつかましい
(上、阿) [会話] ツラノカアセンマイバリ 言う
な (のは)、なん (何) 言われても うまづら (知
らぬ顔) で ごおわかととなあ (腹立てずに)
知らん顔しとんのなあ (しているのです)。つらの
かあ (皮) な (が) あつつうて (厚くて) まあ あ
や (彼は) なん 言うたてて (言っても) ごおわか
させん (腹を立てない) 言うてな。 なん (何) 言わ
れても 平気な時と 自分はなんでも 無茶苦茶し
ても 恥ずかしい (かしくない) 言う事なあ、人
に恥じる事知らん言うのをなあ 面のかあ (皮) な
(が) あつつい (厚い) 言うんやろなあ (言うので
しょう)、あやまあ (彼は) センマイバリやれ
(だ) 言うて、よお (よく) 言うやんかい (言いま
す)。

つらまえる (つらまへる) 【他ア下一】 1) 捕まえる
2) つかまる

つらまし 【形容詞】 苦しい 難儀だ (志 (布施田))
[会話] ツラマシ。お前や (は) どけや (どうだ)
こげや (こおだ) 言うて、姑婆ん (に) 苛められて、
ツラマシ言うのも 有るしなあ。仕事な (が) えろ
おて (大変で) ツラマシ 言うのも 有るしなあ。
辛い言うのを ツラマシ 言うのな (です)。 つろ
おて (つらくて) つろおて 言うのを ツラマシて
言うてなあ。

つらましかった。つらましかりおった。つらましかり
よおった 辛かった。苦しかった。

つらまる 【自ラ五】 1) とりすがる。つかまえる。
2) つかまる

つらめた 1) 捕まえた。2) 掴んだ。

つらめられた 1) 捕まえられた。つかまえられた。
つらめる参照 2) 捕まえる事が出来た

つらめる 捉える つかまえる つらまえる (志)
[会話] つかめる言うの (言うのを) ツラメル 言
うなあ。かくれんぼ しとて (していて) ツラメラ
レタ。

つらよごし (面汚) 【名詞】 名誉、体面を汚す事、又

その人。

つられる ぶらさがる つかまえる (志 (布施田、神
明、立神、志島、甲賀、国府)、鳥) [会話] 鰯の
わいとる (群がっている) 時ん (に) こずの (疑似
餌) 投げると 引くと 一杯 ツラレテ 来て。

つり (釣) 【名詞】 1) 釣針 (度) 2) 釣り銭 (志、
鳥、桑市、員、三、四、鈴市、安、一、多、上、阿、
張、度、尾、北、南、熊) [会話] 2) お金 買い
物に 行て (行つて) 釣り銭も 有るし、1) 魚
釣るツリもあるし。魚 釣る時のツリは ツリ針や
どけ (などは)、ツリや (だ) ツリや 言よおった
(言いました)。ツリ針言わせんね (言いわないの
です)、ツリ つけとけ (つけておけ) とか、なが
の (延縄) のツリ さばきん (はずして修理する)
行く 言うて じょおし (漁師) の人らは おおか
た (大多数・殆ど) ツリやわい (です)。ツリも
そや (それ) はずしとけよお (ておけ) 言うて、な
がの (延縄) 行くと ツリ 食わえとるやんない
(ているでしょう)。 そすと (そうすると) 食わえ
ると、ツリを はずすのんなあ (のに)、ながの
(延縄) さばき ん (に) 行くやんかい (行きま
す)。 そすと (そうすると) ツリも はずしとけよ
(ておけ) 言うて、2) お金なんかも 物 こおて
(買って) おつきい (大きい) ぜん (銭) やると
ツリ。汽車の窓から ちんこ出して 汽車ちん 出
したと大威張り そこへ 車掌がやって来て あま
りでつかいので ツリがない

つりがき (吊書) 【名詞】 系図 縁談の時に相手に示
す家族歴、本人歴を言う。

つりざあ 【名詞】 釣竿 (志 (浜島)、南)

つりしえん 【名詞】 お釣り 釣銭 (志)

つりせん 【名詞】 お釣り。釣銭。(一、阿、伊)

つりせん (吊線) 【名詞】 真珠養殖籠を海中に吊すた
めのロープ [会話] たんぼ (筏) の ツリセン。
籠やだす (網) を、さがらすの (のを) ツリセン。
ツリセンも えごっと (十分に) あげて 言うて、
よお (よく)、ツリセン 外しん (に) 行くわい
(行きます)。

つりのんどる 懐柔されている。

つりばこ (釣箱) 【名詞】 漁師道具を入れる蓋付の四
角な木箱 (三重県全域) [会話] 道具を。てぐすや
とか (だとか) 釣 (釣針) やとか (だとか) こさこ
さ (細々) したもん (物)、漁師の入れんの (入れ
るのを) ツリバコや (だ) 言うて。四角な のおは

(のは) しよおったわい (して居ました)。じゅうぶた(重ね蓋) ん (に) になって、ひぼ (紐) つけて、たま (綱) の柄 差して にのて (担って) 浜い(に) 出てきおった (行きました)。

つりやう【名詞】 釣合う。両方が互に平均して居る。

互に相応して居る。似合っている。

つりよとる 釣り合って居る。似合って居る。

つる【名詞】 つるはし、土を掘り起こす道具。

つる【他ラ五】 婦女をあざむきます。

つる(釣)(吊)【他ラ五】 二人、又はそれ以上で担ぐ(志(神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、多、安、員、四、鈴郡、鈴市、一、飯、尾) [会話] 首ツルとか、魚 ツルとか、おなご (女) も ひっかけんのも (引っ掛けるのも) おなご (女) ツル 言うて。物をさがらかすのも (吊すのも) つつとけ言うて、そして 肩で、二人で 担うのを ふたんな (二人が) ツル言うて、土持ちやたら (だとか)。

づる【名詞】→ ずる ぜんざいにとびきの団子を入れたもの。

づる → ずる 滑り落ちる。

つるくす 吊るす (志(浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、松、伊)

つるくる(吊繰)【他ラ五】 吊るす ぶらさげる (志(御座、布施田、鶴方、神明)、鳥、三、鈴市、安、松、上、阿、張) [会話] ツルクルのも、ツルクスのも 一緒や (です)。そのにげん (人間、人に) よって、つらくつとけ 言う人もあるし、つるくしとけ 言う人もあるし、さがらしとけ 言う人もあるし、ぶらくつとけ 言う人もあるし その人ん (に) よって。

つるしがき(吊し柿)【名詞】 1) 渋柿の皮をむいて吊るし、日に当てて甘くした物 干し柿 2) 男性器 [会話] 1) ツルシガキ、ツルシガキや (は) 柿 剥いて、串い (に) さい といて (刺しておいて)、つるくしとる (吊している) やんかい (います)。軒に ツルシガキな (が)。2) 男の道具も きんだま (陰茎) ぶらさげとる (ている) よってなあ (から) ツルシガキみたよおななあ (のようだ) 言うて。

つるつる【副詞】 滑らかなさま 表面が滑らかで光沢があるさま 次項 つるつる参照 (志(布施田))

つるつる【名詞】 種類を言う幼児語 (上、阿、張、名) [会話] 頭 きんかで すべすべしとんの (しているのを) ツルツル しとる (している) 言うて

な。うどんや素麺も 子供らん (に) ツルツル 食うか言うてな、ツルツルと吸るもんで (の) ツルツルや (だ) 言うんな (言うのです)。

づるづる → ずるずる

つるてん【名詞】 禿頭 [会話] 頭な (が) きんからこ (光っている) ん (の) のおを (のを) ツルテンや (と) 言うやんかい (言います)。光つとる (光っているのを) 人を ツルテンや (です)。

つるどる 1) 交尾して居る。(志) 2) 男女がよりそって居る。連れ立って居る。つるむ参照

つるな【名詞】 植物 ザクロソウ科の多年草。海岸の砂地に生える高さ30～60cm 茎はややつる性で、下面は地面をはう。茎、葉ともやや多肉で細かい粒状の突起を密布する。葉は柄をもち厚く三角状卵形で、長さ約5cm。夏から秋にかけ葉腋に1～2ヶづつ咲く花をつける。花卉は無く蔓筒は長さ4～5mm裂片は広卵形で外面は緑色、内側は黄色 果実は4～5個に大形の刺状の突起を持った蔓筒に包まれ数々の種子を含む。新芽と葉は侵し物や汁の実に使う。[会話] ツルナ 言うななあ (のは) よお (よく) 土手ん 吊がつとるやんない (ているでしょう)、よっけ (沢山) ぶえて (ふえて) はあ (葉) な (が) まるくとおて (丸くて) 蔓な (が) よっけ (沢山) 出てくんねてや (来るのです)。それを はあ (葉) を取ってなあ ゆがい といて (茄でておいて) 味噌で あえて 食うと うまいねてや (旨いのです)、しゃりしゃりと 歯ざわりな (が) よおて (よくて) どいらい (大変) 旨いの (のです)。あれ りゅういんじゃく (腹痛) の葉や (だ) 言うて

つるます 交尾させる

つるむ(交尾)【自マ五】 1) 交尾む 動物の雄と雌とが交尾する つるび つるぶ つるむ 連む 連れ立つ 行動を共にする (志(布施田、甲賀)、鳥、松、員、一、多、上、阿) 2) 二人連れ (一) [会話] 1) ツルム言うの (のは) さかつとる (交尾している) 言うのを ツルムどる (でいる) 言うて。猫な (が) さかつとられ 言うて、雀な (が) さかつとられ とか、ツルムどんのおを (でいるのを) さかつとる 言うの。いん (犬) が さかつとられ 言うて ツルム 言わせんね (言わないのです) さかつとる 言うて、さかりなつて (発情して) まあ言うて。

つるんどる 交尾している 男女二人が連れ立って

る [会話] 蚤な (が) ツルンドル、とか、しらめ (虱) な (が) ツルンドルとか、あや (あれ) 猫な (が) ツルンドルとかなあ、つるむのを。男とおなご (女) が 一緒んなあ ふたんな (二人が) 床ん (に) 入ととと (ていると) あや まあ、ツルンドンネオド (でいるのだ) 言うて。

つれ (連) 【名詞】 友人 仲間 一緒に行くこと 一緒に行動すること 同伴者 (志 (鵜方)) [会話] 友達のことを ツレ ツレな (が) のおて 言うて。友達な (が) のおて 言うのん (のに) 伽なのおて言う人もあるし、ツレな (が) のおて (無くて) 言う人もあるし。旅は道ツレ 世は情 言うて そのツレな (が) 無いとか 伽な (が) 無い 言うの友達を。この時は 別ん (特別に) 親しい友達やのおても (でなくても) 一緒ん (に) 連れだって 行く人を 伽や (だ) 言うし、知らん (知らない) 人でも 連れだって行くと あのひと ツレん (に) なって 言うて。他所の人やけど (だが) ツレん なって行て (行つて) 言うやんない (言うでしょう)。守り (子守) は 守りツレ、子は 子ツレ、若い男は おなご (女) ツレ、娘は 男ツレ” とか 言うて 昔や (は) 言いおった (言っていました)

つれあい (つれあひ) (連合) 【名詞】 夫婦の一方、ある人の配偶者 夫婦の一方が 自分の、夫、妻をさして言う つれやい (志 (鵜方)) [会話] 夫婦の事 ツレアイ。ツレアイな (が) 無いので 言うて よお (よく) 言うやんかい (言います)。

つれあるく (連歩) 【自力五】 連れて歩く 同行させる [会話] 何処い (へ) 行くのも、かか (妻) ツレアルクてやら (とか)、子供をツレアルク とか 言うて。

つれこ (連子) 【名詞】 再婚の人が連れて来た前の配偶者との間に出来た子供 [会話] 結婚して 戻って来て こお (子) 連れて。そして こお (子) 連れて結婚すると ツレコして、結婚したんてない (したそうだ) 言うて。

つれしょんべ (つれせうべ) 【名詞】 連れ小便 仲間の者がする放尿に誘われてする小便 (志 (布施田)、阿、張、名) [会話] おなごの ツレションベ 言うて、しょんべ (小便) しょおやんこ (しましょう) 言うて、溝の方い (へ) いて (行つて) 尻 ほっ立ててしととと (していると) ツレションベかな (ですか) 言うて、ツレションベやよお (だ) 言うて。一人がしととと (していると) 俺も しょおか

いね (しょうかな) 言うて すんのなあ (するのを) ツレションベや (だ) 言うね (言うのです)。しょんべ 一里に 糞 三里 言うて しょんべ しととと (していると) 一里も ほられて (遅れて) 糞しととと 三里 ほられて。

つれたた 連れてやった。[会話] おんな、(俺が) つれたるわ 言うてな、おんな (俺が) ツレタタ ネ言うのを、ツレタタ 言うてな 連れてやると ツレタタネ 言うて。

つれたたね 連れてやったのだ つれたた参照

つれたるわ 連れてあげます。つれたた参照

つれたるわい 連れてあげます [会話] 連れてあげます 言う。一人やつたら、(だつたら)、わしな (私が) ツレタルワイ言うて。

つれたろに 連れてあげます。(度)

つれたろん 連れてやろう。[会話] おんな (俺が) ツレタロン言うてな、つれてるわ (連れてあげます) 言うてな、連れてあげます言うの (のを)、一人やつたら (だつたら) わしな (私が) 連れてあげるわい 言うの ツレタロン言うて。

つれって 連れて行って下さい [会話] ツレツテ 言うのも つれてて言うのも 一緒やわい (です)。俺も一緒にツレツテ言うて。

つれて 1) 連れて下さい 2) 一緒に連れて 同伴して [会話] 1) ツレテ 言う時は、連れてくれと (下さい)、2) 一緒ん (に) 行く言うの、ツレテ 行く言うのと。

つれてく 連れて行く (尾) [会話] ツレテク。おんな (俺が) ツレテクわ言うて、わがと (自分が) 連れて行くのを、ツレテクわ 言うてな。

つれてたた。つれてたたね 連れてやった [会話] おんな、(俺が) ツレタタタネ (連れてやったのだ) 言うのを、ツレタタタ 言うてな。

つれてたろん 連れてあげます [会話] おんな (俺が) ツレタタロン言うて 連れてあげます言うの。

つれてたるわ 連れてあげます。つれたろん参照

つれてて 1) 連れて行って下さい、連れて下さい 2) 連れて行って (一、久、上、張、名) [会話] 2) ツレテテ 言うの 一人のもん (者) な (が)、婆さんに 一緒に いこや (行きましょう) 言うて、行くのを ツレテテ言うてな。

つれない 【形容詞】 1) 人の心を汲もうともせず、ひややかである 情け知らずだ 2) 心苦しい 悲しい

つれのおて 悲しくて。心苦しくて。情け知らずで。
[会話] つらい 言う事やわい (です) すごい
言う事な ツレノオテ。

つれもて 連れながら。連れだつて。(松)

つれやあるく 連れて居る。連れ歩く。[会話] 何処
い行くのも かか (妻) ツレヤアルク言うてな、つ
れて 歩いととなあ (ていとう)、ツレヤアルク
言うてなあ。

つれやい【名詞】ある人の配偶者 夫婦が 自分の配
偶者を第三者に對し言う語 (名、北)

つれやれる 連れて行く事が出来る。(松)

つれよて 連れ立って。

つれらった 釣れなかった [会話] 魚な (が) ツレ
ラッタとか、かいむやなあ (皆無だ) 言うて

つろお 辛く

つろおて (つろおて) つらくて 悲しくて [会話]
ツロオテ つらまして (つらくて) 言うてな、つら
まして まあ言うて

つろく【名詞】つりあい 調和 均衡 相応 (志 (布
施田)、鳥、員、鈴市、安、津、多、上、阿、張、
名、度、伊、北) [会話] ツロク 釣り合いな
(が) とれやせん (取れない) 言うの。にやわせん
(似合わない) 言う事を 釣り合いが 取れやせん
なあ あれ (彼) と あや (彼女は) 言うけど。

つろくする 釣合う。(鈴市)

つろくせん 釣り合わない。(志 (甲賀、国府))

つわぶき (つはぶき) 植物 キク科の常緑多年草。フ
キとは別属。暖地の浜辺に自生。葉は長柄有り。フ
キに似 厚く光沢が有る。初冬60cm 位の花茎を
出し、黄色の頭花を房状に配列若い葉柄は食用。つ
やぶき 山蓴

つわりやみ【名詞】つわり 妊娠 悪阻 すわりやみ
参照 (四)

つんだる 1) 齒で潰してやる つむ参照 2) 着物
の破れをなおしてやる。3) 酒を注ぐ。飯をよそう。
4) 積んでやる。[会話] 4) ツンダルわ。荷物、
車い (へ) おもたい (重い) よって (から) おんな
(俺が) ツンダルわ 言うて 2) きもん (着物)
ツンダルわ 言う時もあるしなあ、破れとんの (て
いるのを)、ツンダルわ言うて そくろたる (そそ
くってやる) 言うの ツンダルわ 言うて。車い
(へ) 積むのでも、ツンダルわ言うし、舟い (へ)
積むのでも ツンダルわ たっかい (高い) とこ
(所) い (へ) 据えん (る) のも そこい (へ) 積

んだれ (でやれ) 言うて、1) 酒もなあ 酌すんの
(するのを) ツンダル 言うて 1) いん (犬) の
蚤で 噛み当てる 噛む言うの、ツンダル はあ
(歯) で、噛むの (のを)、しらめ (虱) ツンダル
言うて、噛んで言わせん (言いません) しらめ
(虱) つんで言うて。

つんだれ 1) 積んでやれ 2) 積みました 3) 詰
めてやれ 4) 詰めました 5) 縫ってやれ 6)
縫いました [会話] 1) 荷物 車い (に) ツンダ
レ とか、にい (荷) 舟い (へ) 積めとか、たっか
いとこ (高い所) い (に) 積んどけ 言うて。ひと
とこ (一カ所) い (に) まとめる事を 積んどけ
(でわけ) 言うて、積みやげた (積み上げた) 言う
て おしやげて (押し上げて) あると、おしやげと
いた (押し上げておいた) とか、つめやげた (積み
上げた) とか、言うて 積み上げる 言うの。つみ
やげた 言うの。ツンダレ言われる時と ツンダレ
言う時と 積んだ 積んで終わった事 ツンダレ
言うて、それも ツンダレよお 言うて よけ (沢
山) ばらいといて (散らかして) そや (それ) それ
も ツンダレよお言うて、したや (したら)、ツン
ダレ 言うて、終いにや (には) 上に上がるか 下
がるかで 積んどきなさいと 積みましたと 積ん
どけよお 言うのは 積むまでの事なし (ですし)
ツンダレ言うと すんだ事なあ (です)。

づんづくづん【副詞】次々に連なっているさま [会
話] ズンヅクズン 言うて 次々と連なってくる
事なあ (です)。ズンヅクズンに 並んで来たない
(来た) あやあれ (あれ) 言うやんない (でしょ
う)。ずうっと 連なっとる (ている) 事を ズン
ヅクズンや (だ) 言うて。

つんつらつん【副詞】着物の丈の短い事。(度)

つんつるてん【形容詞】1) 衣服の短いさま (志 (浜
島、布施田、神明、立神、国府)) 2) 禿げ頭。[会
話] 2) 頭な (が) きんからこ ん (の) のおを
(のを) ツンツルテンや (だ) 言うて 言うやんか
い (言います)。光とつる (ている) 人を つるて
んや (だ) 言うて。1) 着物でも短かったら あや
(あれ) ツンツルテンや (だ) 言うし 短い羽織着
ると、〇〇爺な (が) あんもで羽織 (不似合の羽
織) 着たようおな (だ) 言うて。

つんつん【副詞】1) 高慢 2) 不気嫌 無愛想
3) 鋭い刺すよおな痛み [会話] 3) ツンツン
やめて、ねぶと (出来物) な (が) ツンツンと 夜

がなよおじゅう（一晚中）やめとたよお（痛んでいた）言う時な（が）あんね（有るのです）。^{2）}あや（彼は）怒って（ていて）やい ツンツンしとんねよお（しているのだ）言うて 怒ととる（ている）時にや（は）ツンツンして わしらん（私達に）当って言うてな

つんで【名詞】 ついで 序で ついでの訛。つぎつの音便訛。[会話] ツンデな（が）あって ちょいと（少し）寄った（訪ねた）言うたり、ついで 言う事を ツンデ言うの。ツンデん（に）それ 持て（持って）来てくれ とか、お前 行くのん（の）に ツンデん（に）これ あの家い（に）やってくれ（あげて下さい）言うて、“京から来ても 立ちついで”言うて。そこい（へ）あんたな（貴方が）歩いて来るとすると、そこに なんかも有ると それを ついでに 持て（持って）来てくれ 言う事を京から来ても立ちついでん（に）それ 持て 来てくれ 言うて。人かねぎ（頼み）して 言うて、人かねぎ よけ（あまり）すんな（するな）言うて。かねぐ言うのは 頼む事 なんでも ねき（近く）ん（に）有っても わがと（自分）せんと（せず）に それ 取ってくれとか、これ したてくれ（してやって下さい）とか 言うて、あやまあ（彼は）人かねぎすんの（するの）、えてこいや（得意だ）言うて。

つんで 注いで [会話] お茶一杯 ツンで こぼれる（溢れる）こぼれた（溢れた）

つんで 1) 紡いで 2) 縫って下さい [会話]
²⁾ 縫うてくれ言うの ツンデくれえ言うてなあ。そそくってくれ（つくらってください）言うのな、ツンデくれえ（下さい）ま 破れとたに（ていました）言うてな、きもん（着物）な（が）破れて おっきい（大きく）ならんうちん（ならない間に）ツンデ もらえ（もらいなさい）言うて。

つんで【訛】 混雑して、人出が多く混雑している状態、満員

つんでくれ 1) 注いで下さい 2) 縫って下さい

つんでに。つんでん（序）【副詞】 ついでに ある物事をする時 その機会を利用して別の物事をするさまを表す 丁度よい その機会に [会話] なんやかや（いろいろ）をする時ん（に）ツンデニ言う事は ことづて言う事な（です）。

づんど【名詞】 → **ずんど**

づんどぎり → **ずんどぎり**

つんどく 1) 積んでおく つん つむ 積む（張）
2) 継いでおく 縫い合わせておく（志（布施田））[会話] ¹⁾ 積んでおく 言うの ツンドク。しゃ（それ）ばらばらん（に）しとかんと（しておかずに）ツンドケよお（でおけ）言うて 言うし。積んであんの（あるのを）さばく（ばらばらにする）時や（は）そや（それ）さばいとけよお 言うし、そして まとめる（集める）時や（は）ツンドケよお 言うて。

つんどけ 1) 積んでおけ。命令（張） 2) 継いでおけ 3) 注いでおけ

つんどる 1) 混雑している 混んでいる 詰まっている 一杯になっている（桑市、久） 2) 積んでいる 3) 裁縫して居る。ほころびを治して居る。
4) 酒を注いで居る。[会話] ¹⁾ せんと（銭湯）い（へ）行たや（ら）つんで ぎちづみやよお（だ）言うて。ツンドルか、せんたあ（銭湯は）言うて、なんも（少しも）、つんどらせん（でいい）がらあきやよお 言うて、おらん（居ない）時や（は）言うし、まあ 一杯で ぎちづみ やあれ（だ）言うて。混んどのものも ツンドル ³⁾ 裁縫しとでも（ている）ツンドル、²⁾ 積み上げるのも ツンドル、上いたつこお（高く）あげん（る）の積み上げるのも ツンドル。⁴⁾ 酌 しとんのも（している）ツンドル、酒 つんでくれえ（下さい）言うてな。

つんぼ【雙】【名詞】 1) 耳が聞こえないこと、又その人 2) 感覚を失って居る事。はなツンボ等。

つんぼのはやみみ、ずんたのこみみ【俚諺】 普段の声では聞こえないのに悪口などを小声で話すと聞き取る事。